

村上市文化財保存活用地域計画

令和 7 年（2025）11 月

新潟県村上市

村上市文化財保存活用地域計画 目次

序章

1	計画作成の背景と目的	1
2	計画期間	2
3	計画の位置付け	3
4	計画作成体制	4
5	計画の進捗管理と評価の方法	4
6	本計画における文化財の定義	4

第1章	村上市の概要	5
1	自然的・地理的環境	5
2	社会的状況	6
3	歴史的背景	11

第2章	村上市の文化財の概要	19
1	指定等文化財の概要	19
2	未指定文化財の概要	31
3	関連する制度	41

第3章	村上市の歴史文化の特徴	48
1	村上市の歴史文化の概要	48
2	村上市の歴史文化の特徴	49

第4章	文化財の調査の現状	54
1	文化財に関する既存調査の概要	54
2	文化財に関する調査の課題と方針	56

第5章	文化財の保存・活用に関する基本目標と基本的な方向性	61
1	文化財の保存・活用に関する基本目標	61

第6章	文化財の保存・活用に関する課題・方針	63
1	文化財の保存・活用に関する現状と課題	63
2	文化財の保存・活用に関する基本的な方針	64

第7章	文化財の保存・活用に関する事業	66
1	文化財の保存・活用に関する事業の内容	66

第8章	関連文化財群に関する事項	69
1	関連文化財群の基本的考え方と設定	69

2 関連文化財群の内容及び保存・活用に関する課題・方針・事業	71
関連文化財群1：「自然と共生した先史時代～古代の暮らし」	71
関連文化財群2：「身近にある中世の風景」	74
関連文化財群3：「城下町村上で育まれた文化」	78
関連文化財群4：「海、山、川を通じた交流」	84
関連文化財群5：「風土に育まれた生業と生活文化」	88
関連文化財群6：「暮らしの中にある信仰と伝承」	91
第9章 文化財の防災・防犯に関する課題と方針	98
1 文化財の防災・防犯に関する現状と課題	98
2 文化財の防災・防犯に関する方針	98
第10章 文化財の保存・活用の推進体制	101
1 文化財の保存・活用の推進体制	101
2 推進体制の課題と今後の取組	103

序章

1 計画作成の背景と目的

村上市（以下、「本市」という。）は、平成 20 年（2008）4 月に旧村上市、旧荒川町、旧神林村、旧朝日村、旧山北町の 5 市町村が合併して誕生した。現在は、旧市町村単位の地域が設定され、各地域・地区では固有の歴史や文化的な資源を活用した産業、民俗芸能、習俗等が現在も受け継がれている。

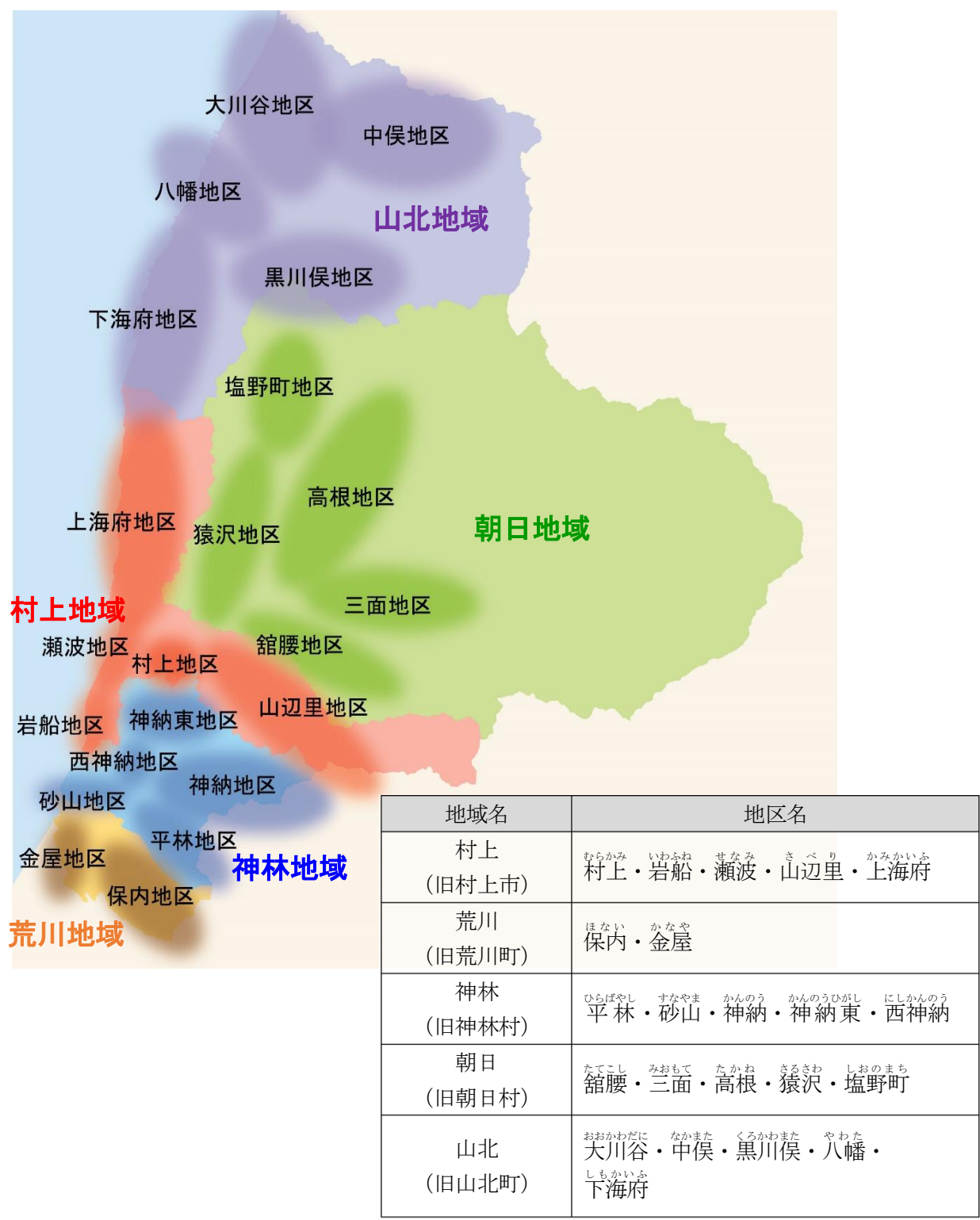


図 1 村上市の地域と地区の区分

本市には、歴史的に村上城の城下町、出羽街道や米沢街道などの宿場町、北前船の寄港地として栄えた港町などがあり、それらの町や集落には遺跡や伝統的な建造物が現存する。

一方で、平成 20 年の合併後も人口減少や少子高齢化が進行し、遺跡の維持管理に伴う負担の増加、伝統的な建造物の老朽化、地域固有の産業の後継者不足などの問題が顕著となっており、伝統行事を担う人材の減少も進んでいる。

本市は、平成 28 年（2016）に「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」（「歴史まちづくり法」）に基づく「村上市歴史的風致維持向上計画」を策定し、歴史まちづくりに関する取組を進めているが、措置の対象は重点区域が主であり、それ以外の区域に存在する文化財の保存・活用に向けた取組をどのように進めるかが課題となっている。

これらの状況を踏まえ、広く市域全体にわたって本市固有の歴史文化の保存と活用を進め、将来へ引き継いでいくことを目的として「村上市文化財保存活用地域計画」（以下「本計画」という。）を作成した。

2 計画期間

本計画の計画期間は、令和 8 年度（2026）から令和 17 年度（2035）までの 10 年間とする。

「村上市歴史的風致維持向上計画」の第二期計画期間（令和 8 年度～令和 17 年度）と合わせ、本市の文化財に関わる状況に応じて適宜計画の見直しを行うとともに、村上市総合計画（第 4 次、第 5 次）の策定時にも併せて見直しを行う。

計画期間内に、「計画期間の変更」、「市の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更」、「地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更」が起きた場合は、文化庁と協議のうえ文化庁長官の変更の認定を受ける。また、これ以外の軽微な変更が生じた場合は、その内容を新潟県及び文化庁へ情報提供する。

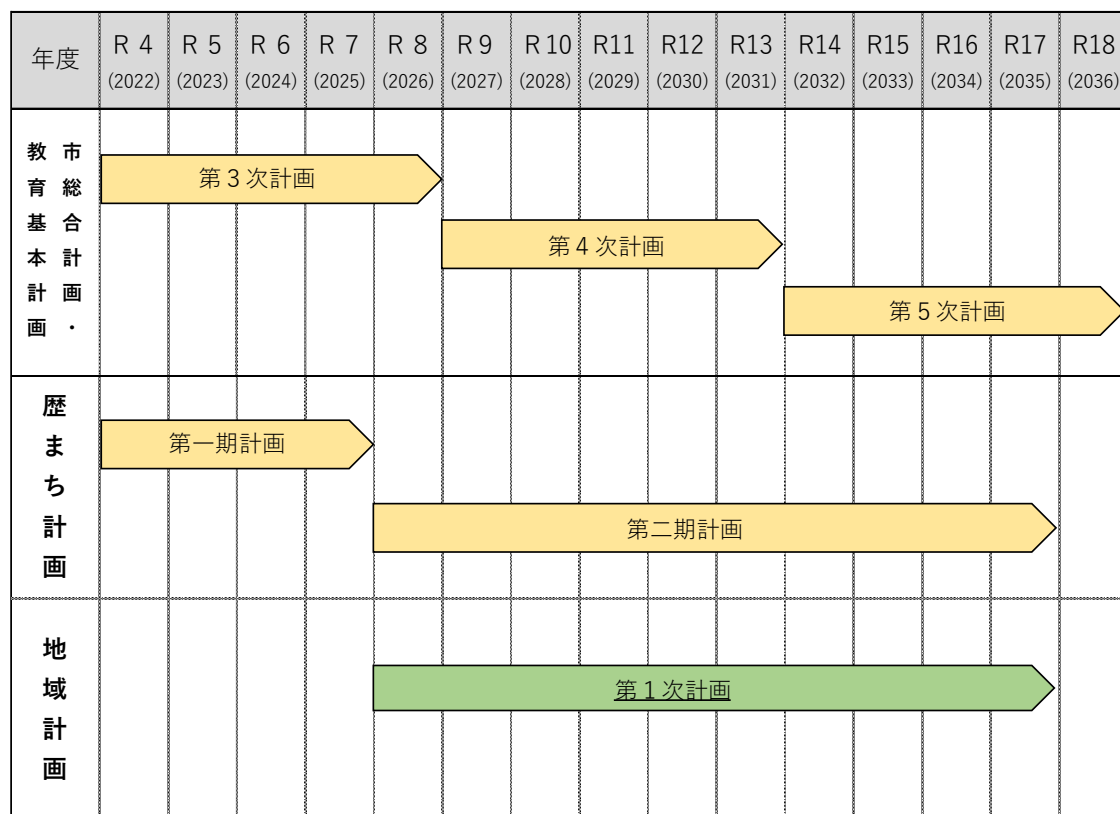


図 2 村上市文化財保存活用地域計画と他計画等との関係（計画期間）

3 計画の位置付け

本計画は、文化財保護法第183条の3に基づき、本市における文化財の保存・活用に関する基本的な方針や措置を示す計画として作成した。

作成にあたり、本市の上位計画である「村上市総合計画」、「村上市教育基本計画」の内容を踏まえるとともに、「村上市歴史的風致維持向上計画」、「村上市景観計画」等の関連計画との整合を図った。また、新潟県が令和2年3月に策定した新潟県文化財保存活用大綱を勘案した。

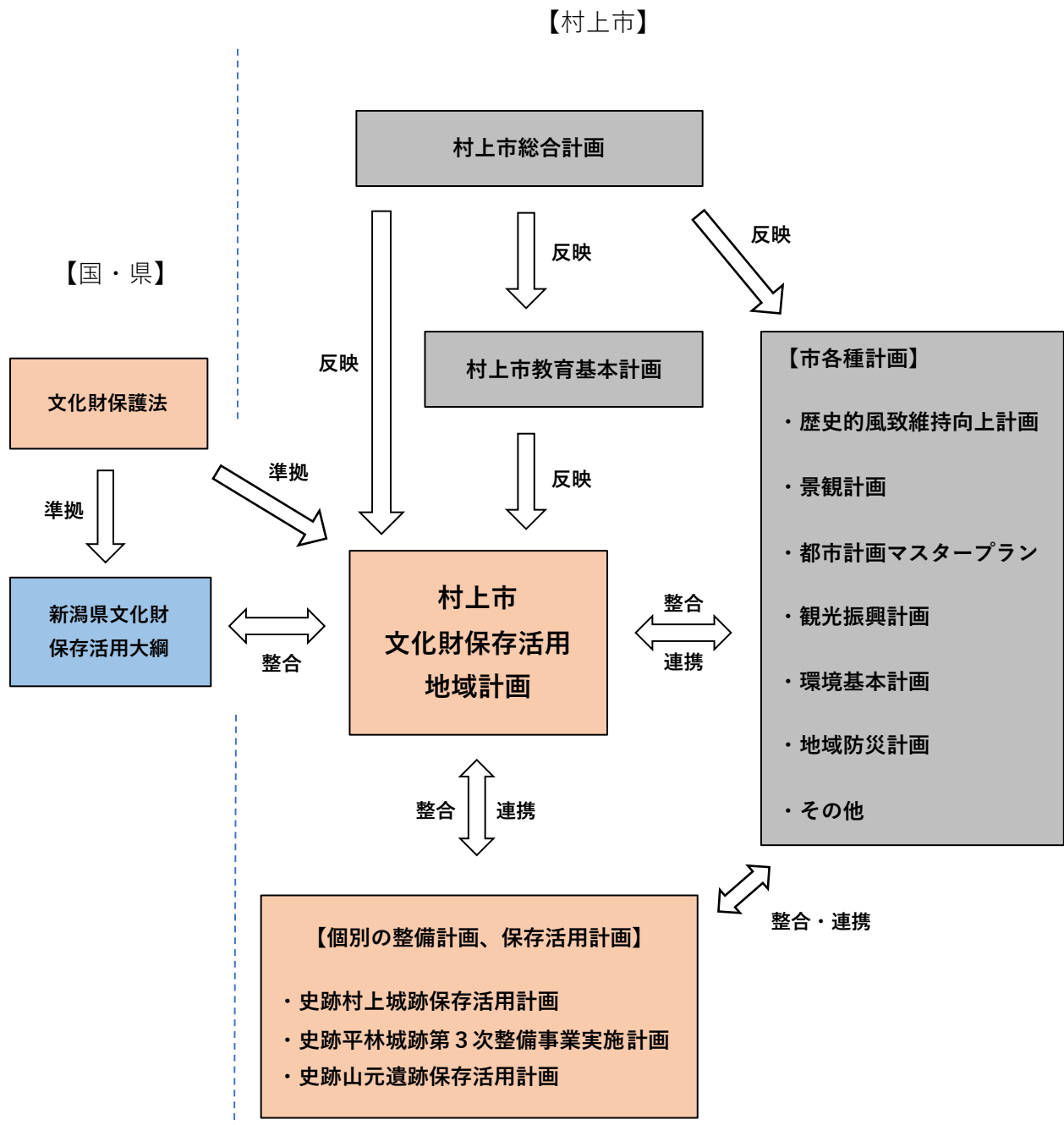


図3 村上市文化財保存活用地域計画と他計画等との関係

4 計画作成体制

本計画の作成にあたり、学識経験者、市内関係団体代表者、関係行政機関等の職員で構成した「村上市文化財保存活用地域計画策定協議会」を組織し、計画内容について意見聴取した。

また、文化庁と新潟県と協議し、市庁内では生涯学習課を中心に観光課、企画戦略課等の関係各課が連携して協議、検討した。

作成に関する内容は当市の文化財に関わる事項を審議する「村上市文化財保護審議会」に諮って意見聴取し、かつ文化財所有者や管理者の意向も踏まえながら検討した。

5 計画の進捗管理と評価の方法

本計画に記載した措置は、本計画作成後に組織する（仮称）「村上市文化財保存活用地域計画協議会」で進捗状況を確認、評価するとともに、その内容については村上市文化財保護審議会に報告し意見を求める。

6 本計画における文化財の定義

本市には、文化財保護法で定義される文化財の6類型（有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群）と埋蔵文化財、文化財の保存技術のほか、類型以外にも伝承や地名などの様々な文化財が存在する。

本計画では、本市の歴史文化の特徴を示すものについて、文化財の指定・未指定、類型に関わらず広く「文化財」と呼称し、それらを維持するために必要な周辺環境も含めて「歴史文化」として捉え、保存、活用を図るものとする。

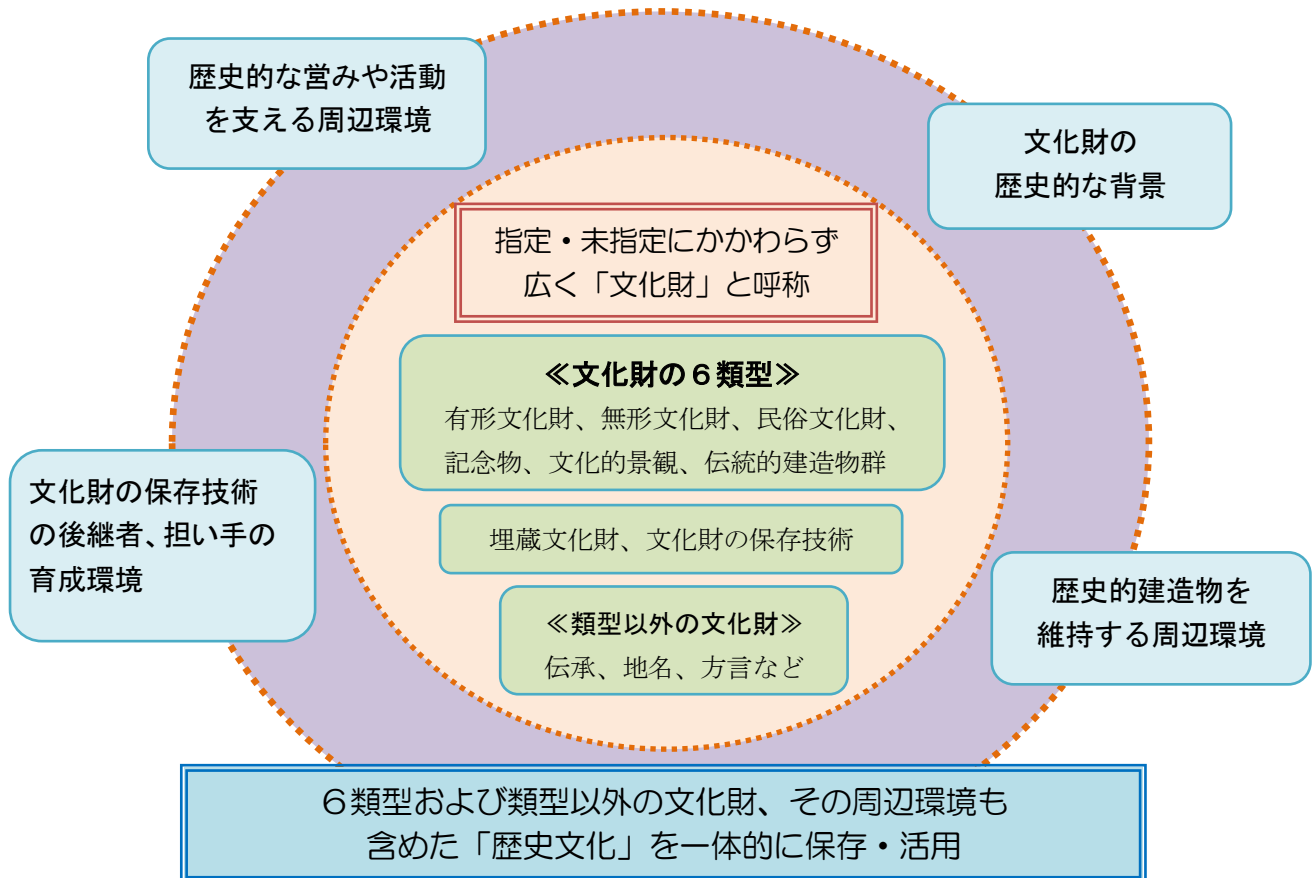


図4 文化財のイメージ図

第1章 村上市の概要

1 自然的・地理的環境

(1) 位置・地勢

本市は、新潟県の最北部に位置し、北東は朝日連峰の稜線を境界として山形県鶴岡市に接している。南は関川村及び胎内市に接し、西は日本海に面した約50kmの海岸線を有している。面積は約1,174.17km²で、新潟県の総面積のおよそ9.3%を占め、新潟県内では第1位、全国自治体の中でも第17位の大きさである。

地形及び地質は、第四紀完新世の未固結な地層が広がる平野部と、更新世以前の古い地層からなる山地部とに大別される。平野部は、朝日飯豊山塊に源を発する一級河川荒川及び二級河川三面川の下流域に広がり、多くは水田として利用され本市の農業基盤となっている。山地部は、本市北部の山北地域から荒川左岸の荒川地域まで朝日・飯豊山地が連なり、同山地は起伏に富んだ急峻な山岳地形を形成し、三面川河口以北の海岸で日本海へ没している。

神林地域の平野部は、かつて岩船潟と呼ばれた潟湖が広がっていたため、粘土が堆積して軟弱な地盤である。

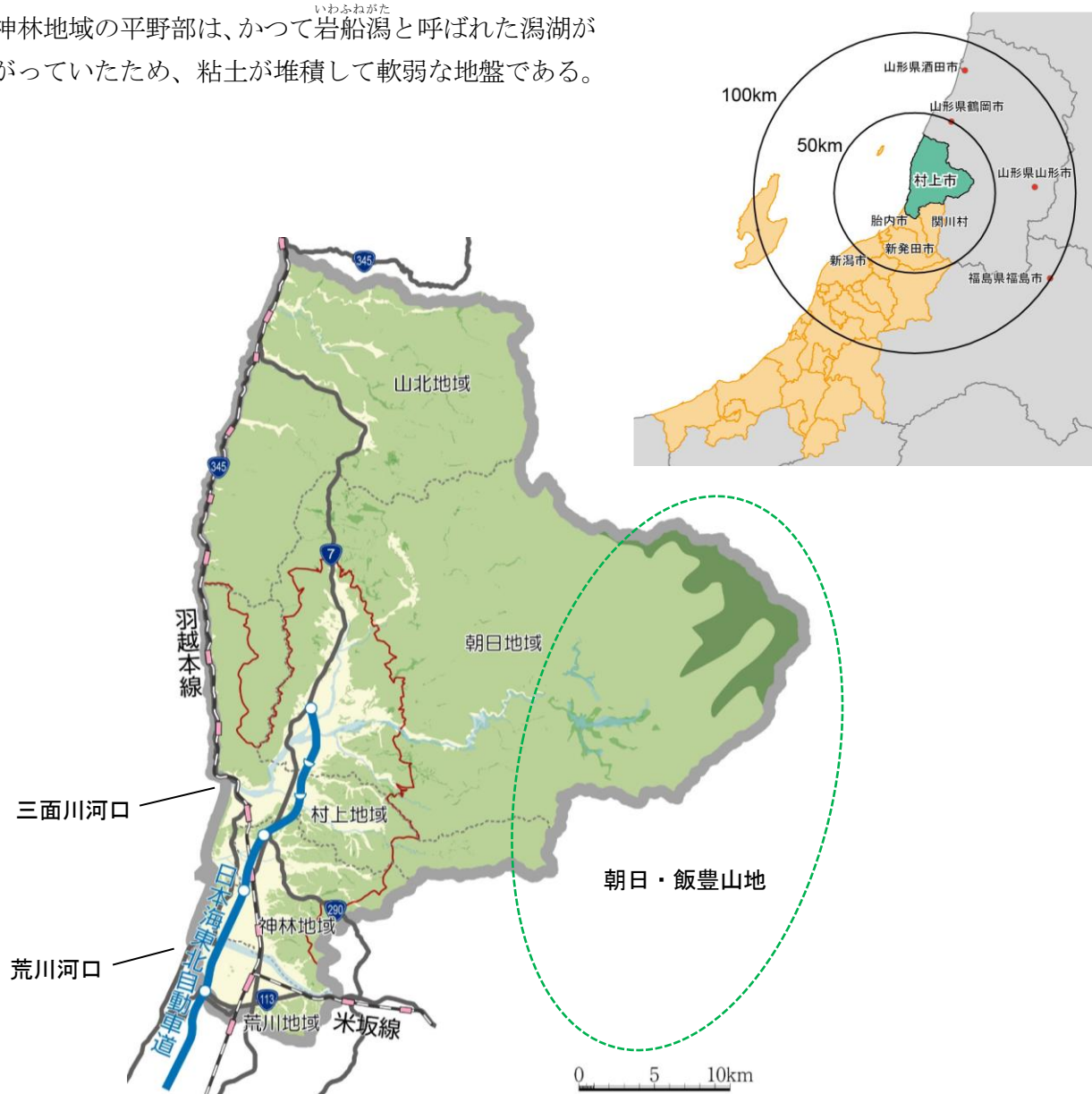


図5 村上市の位置、地形図

(2) 気候

気候は日本海型の気候区分に属し、温帯性の植生と寒帯性の植生が混交する気候風土を形成している。四季の移り変わりは明確で、令和5年度の年平均気温は14.3℃、月降水量の変化は30mm～350mmの範囲にあり、降水量のピークは7月と12月で月平均は207.6mmである。

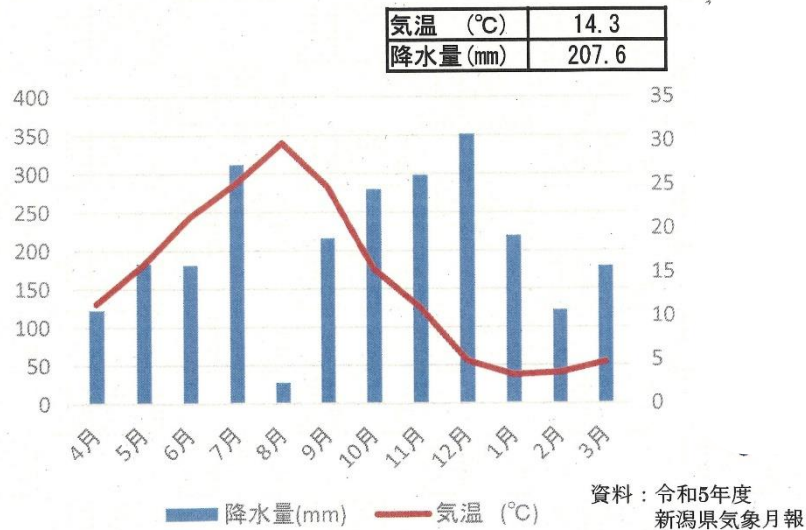


図6 月別平均気温、降水量

2 社会的状況

(1) 人口

総人口は昭和30年(1955)の94,284人をピークに年々減少傾向にあり、令和2年(2020)の国勢調査では57,418人と39.1%減少している。令和7年(2025)8月時点の人口は52,624人で、2040年には4万1千人にまで減少すると推計されている。

自然動態は、死亡数が出生数を上回る自然減の状態であり、社会動態も転出が転入を上回る社会減の状態にある。

年齢三区分別人口の増減率を見ると、年少人口(15歳未満)や生産年齢人口(15～64歳)がともに減少している一方、老年人口(65歳以上)は増加を続けており、昭和30年(1955)は総人口に占める老年人口の割合(高齢化率)が5.8%であったが、令和2年(2020)には39.4%に上昇した。



図7 人口と世帯数の推移

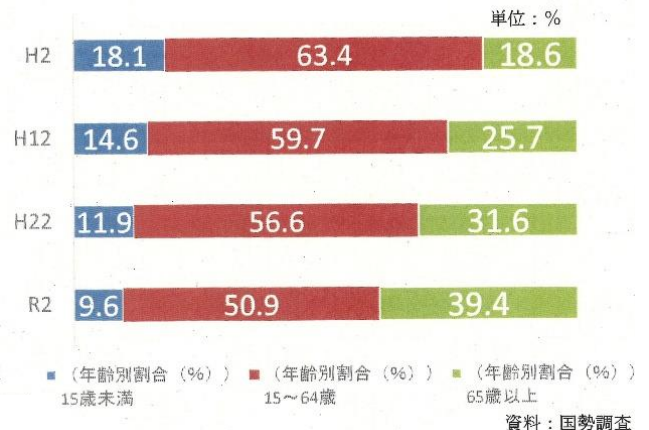


図8 年齢階層別人口割合

（２）土地利用

国土利用計画法の５地域である都市地域、農業地域、森林地域、自然公園地域、自然保全地域の区分によれば、都市地域と農業地域、森林地域と自然公園地域が重複する地域もあるが、森林地域が約100,000ha、次いで農業地域が約40,000haあり、市域の多くが山林や田園などの緑によって覆われている。

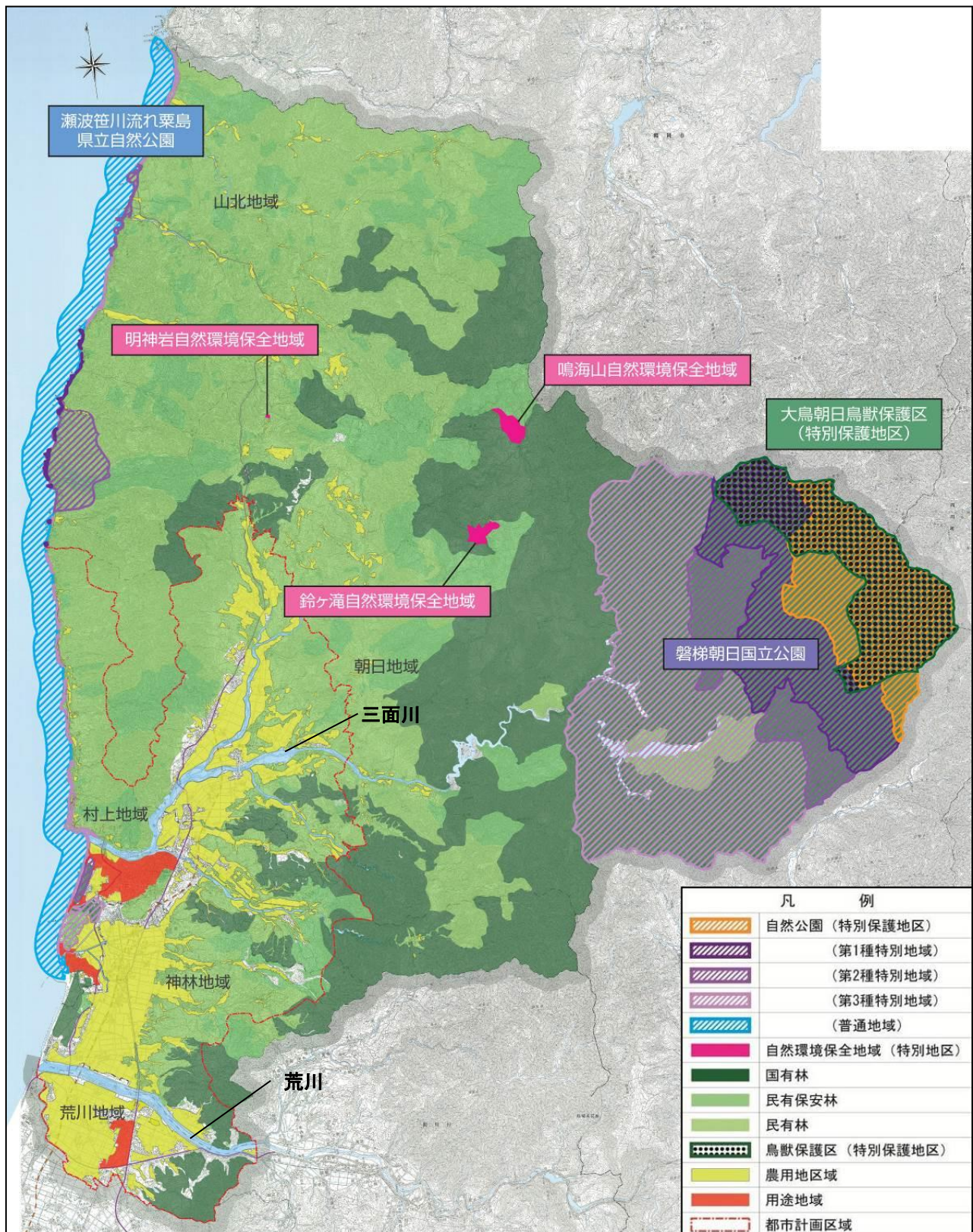


図9 村上市の法規制区域図

村上地域を中心に荒川地域、神林地域、朝日地域に都市計画区域が指定され、村上地域の村上地区、岩船地区、瀬波地区及び荒川地域の保内地区の市街地には、都市計画用途地域が指定されている。

農業地域は、荒川の流域である荒川地域及び神林地域、また、三面川の中流域に位置する朝日地域を中心に広がる。

森林地域は、本市北部の山北地域から南部の荒川流域の荒川地域まで広がり、市域面積の大半を占めている。

自然公園地域は、朝日地域東部の山地部 22,397ha が磐梯朝日国立公園に指定され、「全国水源の森百選」に選ばれたブナの原生林が分布する。山北地域及び村上地域の海岸 1,424ha は、瀬波笹川流れ栗島県立自然公園に指定され、公園区域内の笹川流れ（文化財名：笹川流）は名勝及び天然記念物として文化財指定されている。

自然保全地域は、朝日地域高根地区内の鈴ヶ滝、鳴海山及び塩野町地区の漆山神社社叢内の明神岩周辺が新潟県自然環境保全条例により自然環境保全地域に指定されている。

（３）産業

令和２年（2020）の国勢調査によれば、産業区分別の就業者の割合は第三次産業が 59%を占め、第二次産業は 32%、第一次産業は 9%である。産業分類別従業者数は、製造業の従業者数が最も多く、次いで卸売・小売業、医療・福祉、建設業の順である。

第一次産業について、農業は荒川・石川・三面川下流域の稲作が中心である。また、野菜、花卉、茶、果樹の栽培も行われている。中でも村上茶は北限の茶処として 400 年以上の歴史を有する。畜産は「村上牛」が新潟県のブランド牛となっている。林業は、越後杉がブランドとして確立されているほか、木材を活用した代表的な工芸品として県の無形文化財、国の記録選択（無形文化財）にもなっている「村上堆朱」（国伝統的工芸品としては「村上木彫堆朱」）や、「越後のしな布紡織習俗」として国の記録選択（無形民俗文化財）にもなっている山北地域の「越後しな布」（国伝統的工芸品としては「羽越しな布」）などが知られている。

表１ 産業分類別事業所、従業者数

令和3年度	事業所数	従業者数
農林漁業	92	1,029
鉱業	2	8
建設業	380	2,700
製造業	269	5,105
電気・ガス・水道業	5	64
情報通信業	9	50
運輸業	49	846
卸売・小売業	772	4,765
金融・保険業	38	444
不動産業	114	326
学術研究・専門・技術サービス	85	468
飲食店・宿泊業	318	1,675
生活関連サービス、娯楽業	355	865
教育、学習支援業	80	316
医療、福祉	213	3,841
複合サービス業	33	368
その他のサービス業	228	1,208
合 計	3,042	24,078

資料：経済センサスー活動調査
単位：事業所、人

表２ 商店数、従業者数、年間販売額

令和3年度	商店総数	従業員数	年間販売額
卸売業	95	572	16,201
小売業	677	4,193	56,082
合 計	772	4,765	72,283

資料：経済センサスー活動調査
単位：人、百万人



越後しな布

漁業は、商港である岩船港 1 港、寝屋漁港などの漁港が 6 港あり、岩船港は新潟県北唯一の地方港湾である。また、漁港のうち 5 港は山北地域内に集中している。

第二次産業は、前述のとおり製造業従業者数が最も多い。特に、市内の特徴的な農水産物を活用した食料品製造業が発展しており、麩や塩引鮭などの農水産物の加工品や、清酒、味噌、醤油といった発酵品の製造のほか、海水を利用した製塩などが行われている。

第三次産業は、卸売・小売業の従業者が最も多く、次いで医療、福祉が多い。市内には村上地域の瀬波温泉、朝日地域の朝日まほろば温泉、山北地域のゆり花温泉があり、宿泊業や飲食業の従業者も多い。

(4) 観光

観光入込客数は、平成 18 年（2006）の約 250 万人をピークとして、平成 23 年（2011）以降は 220 万人～230 万人で推移していたが、令和元年（2019）は新型コロナウイルスの影響で大幅に減少し、令和 2 年（2020）には約 128 万人となった。令和 3 年（2021）以降は再び増加に転じ、令和 5 年（2023）は約 177 万 3 千人であった。

入込客数が多い観光地点（行事）は、令和 5 年は瀬波温泉の約 27 万 5 千人、道の駅神林「穂波の里」の約 29 万 6 千人、朝日みどりの里（道の駅朝日）の約 15 万 2 千人、「町屋の人形さま巡り」の約 5 万 6 千人が挙げられる。

観光客を受け入れる文化財関連施設は、村上市郷土資料館、村上歴史文化館、若林家住宅、記念公園武家住宅、旧成田家住宅、村上歴史文化館、縄文の里・朝日、内水面漁業資料館（イヨボヤ会館）がある。

村上市郷土資料館と村上歴史文化館は歴史資料や民俗資料の展示施設で、若林家住宅、記念公園武家住宅、旧成田家住宅は旧村上城下の武家住宅である。また、縄文の里・朝日は考古資料や民俗資料の展示施設、内水面漁業資料館は鮭（本市では鮭を「イヨボヤ」と呼称）の生態や三面川の鮭漁に関する資料の展示施設である。

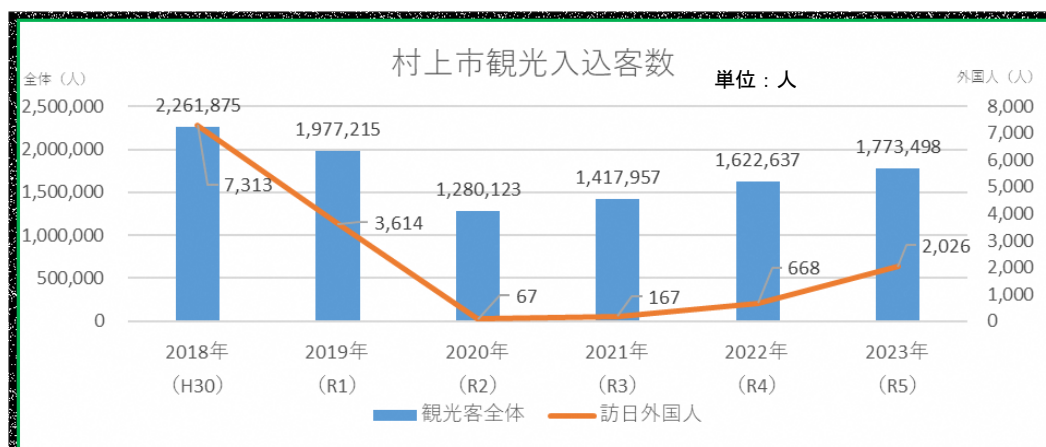
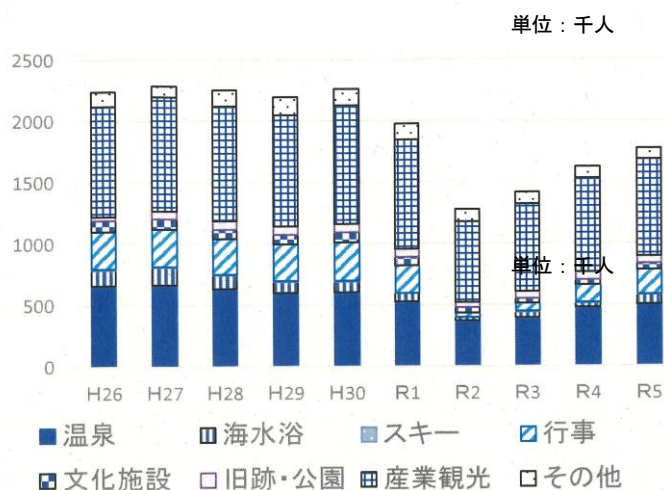


図 11 市の観光入込客数

(5) 交通

高速道路は、日本海東北自動車道が新潟市方面から朝日地域内の朝日まほろば IC までの区間が整備され、市内には 6 つの IC が設置されている。現在は、朝日まほろば IC から山形県あつみ温泉 IC 間の整備が進められている。

主要道路は、本市を南北に縦断する国道 7 号及び国道 345 号、東西に横断する国道 113 号及び国道 290 号で、これらに主要県道や一般県道などが交差している。

鉄道は、JR 羽越本線と JR 米坂線があり、市内に 11 の駅があるが、令和 4 年 8 月 3 日の大雨災害以後は JR 米坂線の坂町駅さかまち～今泉駅いまいずみ（山形県長井市）間が不通となっている。

路線バスは、JR 羽越本線の村上駅と市内各地域を結ぶ路線とともに、府屋駅ふや、勝木駅かつぎと近隣を結ぶ路線が運行されている。このほかにもコミュニティバスや乗り合いタクシーが運行され、JR 羽越本線の駅と周辺地域を結んでいる。

航路は、岩船港から日本海上の栗島への航路があり、岩船港は平成 12 年（2000）5 月に特定地域重要振興港湾に選定されている。

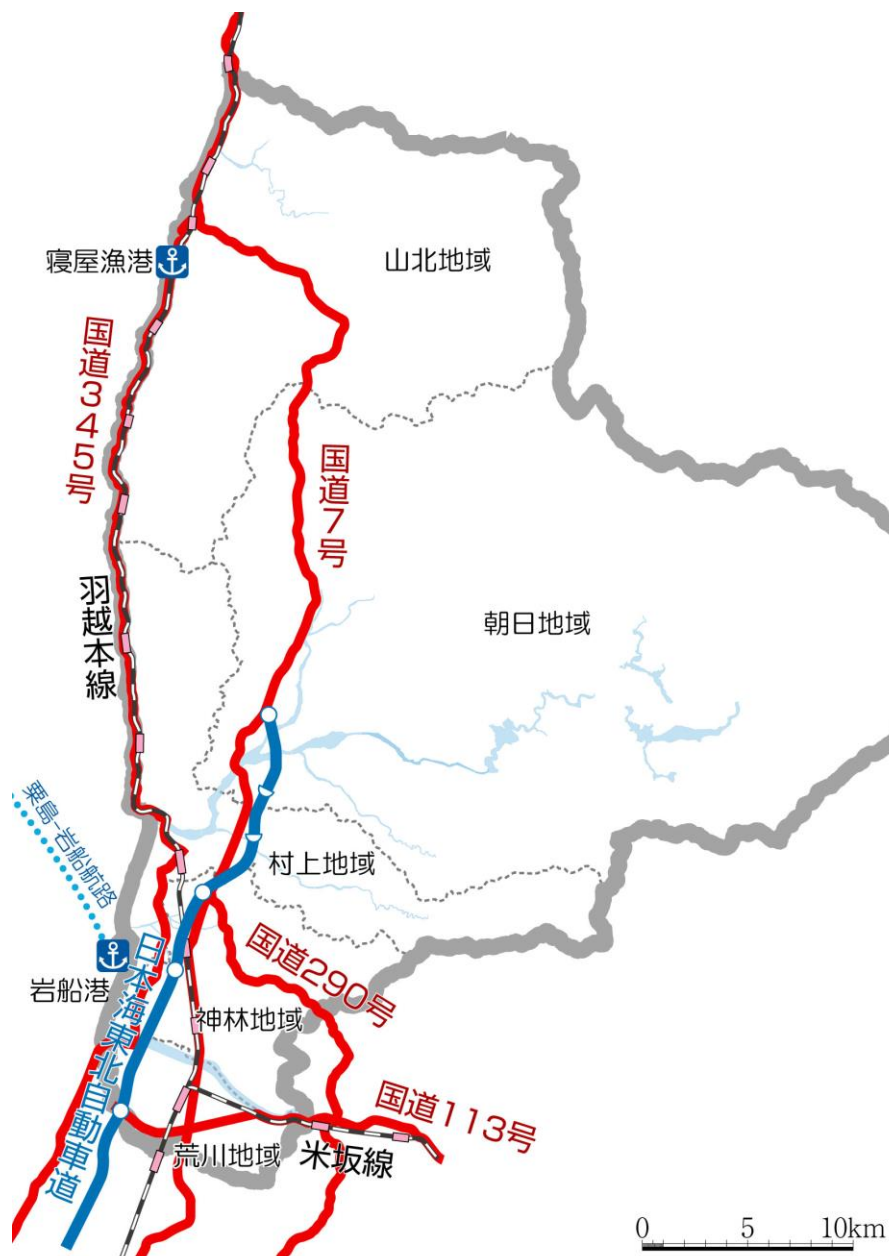


図 12 交通網図

3 歴史的背景

(1) 先史時代

旧石器時代の遺跡が河川上流の段丘上で確認されており、最も古い時代の遺跡は朝日地域三面地区の奥三面遺跡群のうちの樽口遺跡で、約3万6千年前の後期旧石器時代の遺物が出土している。

縄文時代の遺跡は、主に河川沿いの河岸段丘上及び海沿いの海岸段丘上に分布する。出土遺物は遺跡の存続時期や立地条件によって異なる様相が見られるものの、全般に東北地方と北陸地方の影響が強く見られる。

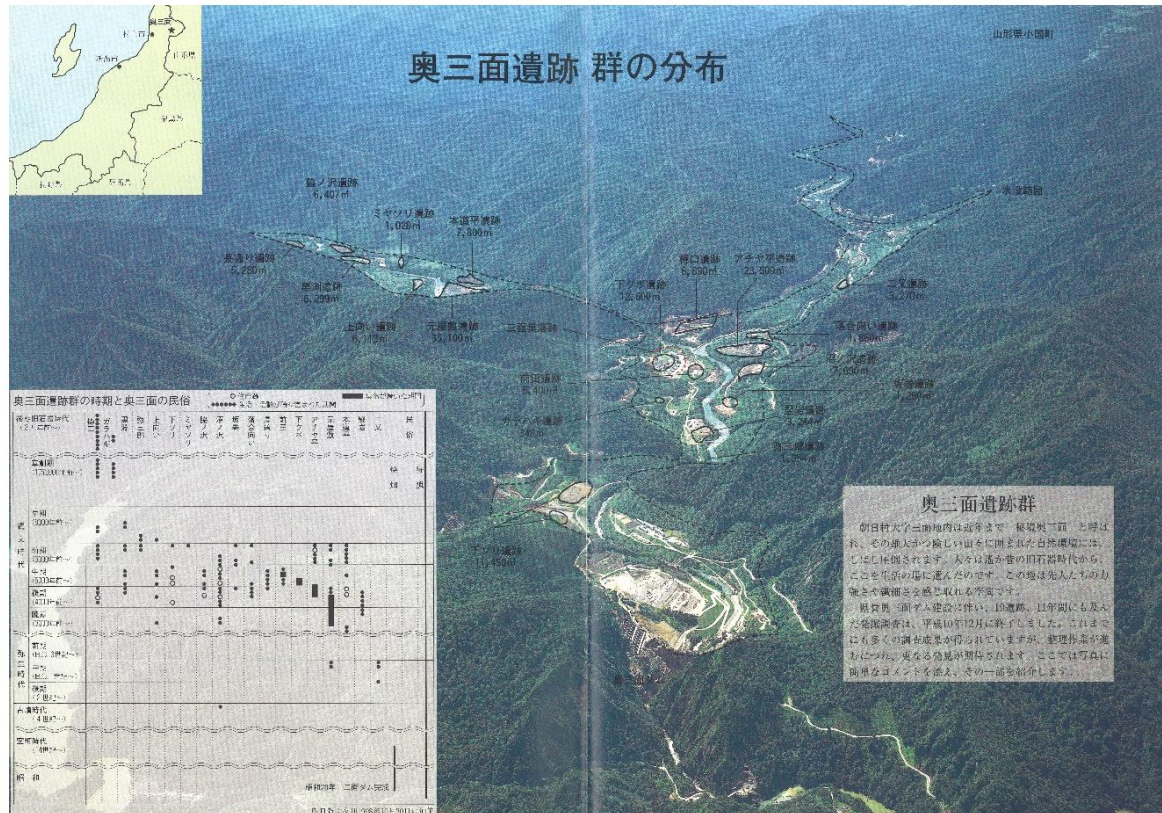


図 13 奥三面遺跡群

縄文時代の主な遺跡は、県営奥三面ダム建設に伴い発掘調査が行われた奥三面遺跡群である。奥三面遺跡群は 19 の遺跡があり、いずれも三面川沿いの段丘上に所在する。このうち元屋敷遺跡から建物跡、墓跡、配石遺構などの多くの遺構とともに縄文時代後期から晩期までを主体とした土器、土製品、石器、石製品などの大量の遺物が出土した。土器は、環状注口土器や巻貝形注口土器など独特な造形がみられる。製作途中の磨製石斧が大量に出土した状況から、元屋敷遺跡は石器生産の拠点集落でもあった。

弥生時代から古墳時代の遺跡は、主に平野部の自然堤防、砂丘内陸側、丘陵上、海岸段丘上に分布する。弥生時代の主な遺跡は、三面川河口の海岸段丘上の滝ノ前遺跡(村上地域)、海岸砂丘内陸側の砂山遺跡(村上地域)、山居山丘陵上の山元遺跡(神林地域)である。国内最北の高地性環濠集落である山元遺跡で筒形銅製品やガラス小玉など、西日本の影響を受けた遺物が墓域の副葬品として出土している。



山元遺跡

古墳時代の遺跡は、村上地域から神林地域にかけて広がる浦田山丘陵上及び丘陵周辺の旧岩船潟縁辺部に集中している。浦田山丘陵上の磐舟浦田山古墳群（村上地域）は6世紀の古墳で、石室の構築技法が北陸地方や佐渡地方の古墳と共通する。

（2）古代

奈良時代から平安時代の遺跡は平野部微高地や自然堤防に分布する。旧岩船潟周辺のはげ遺跡（村上地域）や三十刈・堂の下遺跡（村上地域）では墨書土器がまともに出土している。また、荒川右岸の西部遺跡（神林地域）で鍛冶や漆塗布など総合的な作業を行った工房5棟が確認され、「頸城官」、「佐伯郷」、「坂井郷」が記された漆紙文書が出土している。このほか荒川地域で市内唯一の須恵器生産遺跡である元山窯跡や官衙関連施設と考えられる鴨侍遺跡などの遺跡が確認されている。

「磐舟」の地名は、文献史料では「日本書紀」大化4年（648）に記載された「磐舟柵」が最古とみられるが、「磐舟柵」の比定地は現在の村上市岩船地区付近とするほか諸説があり、現在も確定されていない。その後、奈良時代の天平勝宝4年（752）の東大寺関係文書（「造東大寺司牒」）には「磐船郡」が記され、郡名が記載された文献としてはこれが最古である。

平安時代の延長5年（927）に成立した「延喜式」には「磐船郡八座」として「石船」、「蒲原」、「西奈弥」、「荒川」、「多岐」、「漆山」、「桃川」、「湊」の神社名が記され、これらは現在の石船神社（村上地域）や湊神社（神林地域）などに比定されている。承平年間（931～938）に成立した「和名類聚抄」には「磐船郡」の郡名とともに「佐伯」、「山家」、「利波」、「坂井」、「余戸」の五つの郷の名がみられ、西部遺跡（神林地域）での漆紙文書と同じ地名が見える。

平安時代末期（11世紀）に、摂関家藤原氏（中御門家）の所領として「小泉荘」が成立し、12世紀には北は山形県境、南は荒川まで広がり、現在の市域の大部分を含んだ。荒川以南の荒川地域は国衙領の「荒川保」に含まれ、その範囲は、現在の荒川地域全域と関川村・胎内市の一部であった。



磐舟浦田山古墳群（発掘調査時）



石船神社社殿



「磐舟柵跡」石碑（石船神社境内）

(3) 中世

鎌倉幕府の成立後、武蔵国の有力御家人であった平姓秩父季長が「小泉莊」の地頭職に任じられた。季長は、その子行長と為長の兄弟に小泉莊を分割相続させ、兄の行長は現在の有明（神林地域）付近を境として北部の「小泉本庄」の地頭職を継承し、後に「小泉氏」と称した。また、弟の為長は南部の「加納」の地頭職を継承して「色部氏」と称した。当初、小泉氏と色部氏は鎌倉の地を離れることはなかったが、色部氏は 13 世紀後半、為長の子である公長の頃に越後へ移ったものと考えられる。小泉氏も詳細は不明であるが、14 世紀の中頃までには越後へ移り、持長の頃に本庄氏を称したものと考えられる。

本庄氏は岩船（村上地域）を除く現在の村上地域から朝日地域一帯、色部氏は岩船以南から現在の神林地域と栗島をそれぞれ領有した。本庄氏の居館の場所は明らかではないが、色部氏は牧目（神林地域）付近に居館を構えた。その後、本庄氏と色部氏はいずれも国人領主となり、中世後期に本庄氏は村上城、色部氏は平林城を本拠地として独自の勢力圏を形成した。

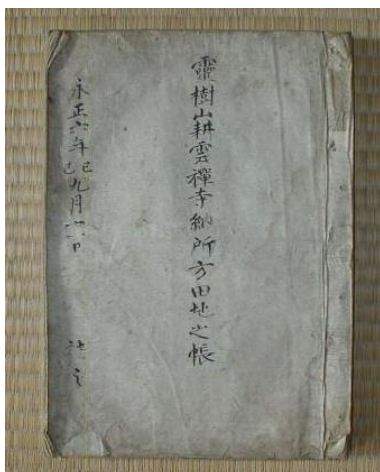
「荒川保」は鎌倉時代に相模国の河村氏（河村義秀）が地頭職に任じられ、義秀から時秀、次いで景秀に地頭職が継承された。南北朝時代以後は河村氏の勢力が失われ、「荒河保」は室町時代に上杉氏の領地となり、以後は越後北部の国人領主であった加地氏および中条氏の領地を経て永禄 6 年(1563)に色部氏の領地となった。

中世の城館跡は、村上地域の村上城跡や神林地域の牧目館跡・平林城跡のほか、荒川地域の馬場館跡、朝日地域の大葉沢城跡、猿沢城跡、山北地域の大川城跡などがあり、このほか集落跡や寺院跡、塚、板碑など様々な遺跡が確認されている。

中世の町や村の様子を示す資料として、中世後期における耕雲寺領の年貢納入状況を記した永正 6 年(1509)の「耕雲寺納所方田地之帳」、平林城主色部氏の家中における儀礼や行事を記した「色部氏年中行事」がある。中世末期から近世初期への移行期の様子を示す資料として、上杉氏が作成した慶長 2 年(1597)の「越後国瀬波郡絵図」がある。



馬場館跡



耕雲寺納所方田地之帳



耕雲寺山門

戦国時代の越後北部には揚北衆と称された国人領主が割拠し、本市域では大川氏（大川城）、鮎川氏（大葉沢城）、本庄氏（村上城）、色部氏（平林城）などが勢力を競った。揚北衆は越後上杉氏とたびたび対立するなど独立色の強い存在であったが、永禄 11 年（1568）の本庄繁長の反乱以後は当地での上杉氏の支配が強まった。本庄氏と色部氏は上杉氏（上杉謙信、景勝）に重臣として仕え、色部長真は天正 16 年（1588）の上杉景勝の上洛に同行し、景勝の重臣直江兼続、須田満親とともに「豊臣」姓を与えられた。

その後、慶長 3 年（1598）上杉氏の会津移封に伴い、本庄氏、色部氏なども上杉氏に従って越後を離れ、地域の全域が村上城主の支配下に置かれた。

表 3 村上城の歴代城主一覧

城主名	在城年代	地位	石数	城主系統
本庄越前守繁長 ^{えちぜんのかみ}	1551-1591			
大国但馬守実頼 ^{おおぐにたじまのかみさねより}	1591-1598			
村上周防守頼勝 ^{すおうのかみよりかつ}	1598-1604	外様	9 万石	村上家
村上周防守忠勝 ^{ただかつ}	1604-1618	外様	9 万石	
堀丹後守直奇 ^{たんごのかみなおより}	1618-1639	譜代	10 万石	堀家（直政系）
堀千助直定 ^{せんすけなおさだ}	1639-1642	譜代	10 万石	
幕府領				
本多能登守忠義 ^{のとかみただよし}	1644-1649	譜代	10 万石	本多家（忠勝系）
松平大和守直矩 ^{やまとかみなおのり}	1649-1667	親藩	15 万石	越前松平家
榊原式部大輔政倫 ^{しきぶたいふまさとも}	1667-1683	譜代	15 万石	榊原家
榊原式部大輔政邦 ^{まさくに}	1683-1704	譜代	15 万石	
本多吉十郎忠孝 ^{きちじゅうろうただたか}	1704-1709	譜代	15 万石	本多家（忠勝系）
本多中務大輔忠良 ^{なかつかさのたいふただなが}	1709-1710	譜代	5 万石	
松平右京大夫輝貞 ^{うきょうだいいてるさだ}	1710-1717	譜代	7 万 2 千石	大河内松平家
間部越前守詮房 ^{まなべえちぜんのかみあきふさ}	1717-1720	譜代	5 万石	間部家
間部下総守詮言 ^{あきとき}	1720-1720	譜代	5 万石	
内藤豊前守式信 ^{ぶぜんのかみかずのぶ}	1720-1725	譜代	5 万石	内藤家（信成系）
内藤紀伊守信輝 ^{きいのかみのぶてる}	1725-1725	譜代	5 万石	
内藤紀伊守信興 ^{のぶおき}	1725-1760	譜代	5 万石	
内藤豊前守信旭 ^{のぶあきら}	1760-1762	譜代	5 万石	
内藤紀伊守信凭 ^{のぶより}	1762-1781	譜代	5 万石	
内藤紀伊守信敦 ^{のぶあつ}	1781-1825	譜代	5 万石	
内藤紀伊守信親 ^{のぶちか}	1825-1864	譜代	5 万石	
内藤豊前守信民 ^{のぶたみ}	1864-1868	譜代	5 万石	
内藤豊前守信美 ^{のぶよし}	1868-1869	譜代	5 万石	

なお、中世末期まで村上城と周辺地域は「本庄」と称され、「村上」の地名は16世紀前期以降の文書で初めて確認される。以後、江戸時代初期までは「本庄」と「村上」の両方の呼称がみられるが、慶安年間（1648～1651）になると「本庄」の呼称はみられなくなり、以後「村上」の呼称が定着する

（4）近世

江戸時代前期に村上城主として入封した村上氏や堀氏により大規模な城普請が行われ、村上城は中世城郭から近世城郭へと改築された。また、現在まで残る城下町の形もこの時期にほぼ完成した。

慶安2年（1649）に松平氏（^{なおのり}松平直矩）が村上城主となり、これ以後榊原氏を経て本多氏が移封となる宝永6年（1709）まで、村上城主の領地（以下「村上藩領」）は石高15万石の規模を有していた。本多氏の移封後は宝永7年（1710）に松平氏、享保2年（1717）に間部氏、享保5年（1720）に内藤氏の順番で城主が交代し、内藤氏は以後明治時代を迎えるまで石高5万石で村上城主を務めた。宝永7

年（1710）以後、幕末期に至るまで当地域には村上藩領、幕府領、その他藩領などが混在し、それぞれの城、代官所、陣屋を中心として領地の支配が行なわれた。

また、慶安2年（1649）以後、村上藩領には越後国内の^{かんばら}蒲原郡・^{さんとう}三島郡にある幕府領のうち計4万石が飛び地領として加わり、この飛び地領は「四万石領」と称され、村上城周辺の「城付領」とともに村上藩領とされた。本多氏の移封後は岩船郡と蒲原郡の平野部に立地する村々の多くが幕府領となって「城付領」が激減し、「四万石領」も一部（現在の三条市、燕市付近）が飛び地領として存続した。以後「四万石領」は人口、戸数ともに村上城周辺の^{しろつき}「城付領」を上回る規模となり、経済面でも領内経営に欠かせない要地となっていた。特に、江戸時代後期以降は城主内藤氏が幕府要職（^{わかどしより}若年寄・^{しよしだい}京都所司代・^{ろうじゅう}老中）へ就任したほか、安政江戸地震、長州征討などに伴う出費の増大が藩の財政を圧迫するなか、慢性的な赤字財政を「四万石領」からの年貢収入と献金が藩を支える大きな力となった。

戊辰戦争では、村上藩は奥羽越列藩同盟に加盟して新政府軍と戦ったが、村上城下へ新政府軍が迫ると藩内では抗戦派と帰順派で意見が分かれ、家老^{とりいさんじゅうろう}鳥居三十郎を中心とした抗戦派藩士約150名が城下を脱して庄内方面へ向かい、城下に残った帰順派の藩士は新政府軍に投降した。抗戦派藩士は庄内



旧村上城下絵図



旧村上城下（現在の市街地）



鳥居三十郎碑

藩士とともに越後・庄内の国境に展開し、現在の山北地域を戦場として庄内藩降伏まで新政府軍と戦った。

江戸時代を通じて村上城下は出羽街道や米沢街道などの陸上交通路の基点となり、城下には多くの商工業者が集住し活発な経済活動が行われた。

出羽街道は村上城下から出羽庄内へ至る道で、村上城下の大町「札の辻」から城下の町々を通り、城下を出たのちは山辺里（村上地域）、猿沢（朝日地域）、塩野町（朝日地域）、中継・小俣（いずれも山北地域）を経て出羽庄内の国境へ続いた。現在も猿沢、中継、小俣に宿場の雰囲気伝える町並みや道路形状が残る。

村上城下から出羽庄内へは海岸沿いの道も利用された。現在の上海府地区（村上地域）から下海府地区・八幡地区・大川谷地区（いずれも山北地域）へ至る海岸沿いは舟も併用しながら通行があった。

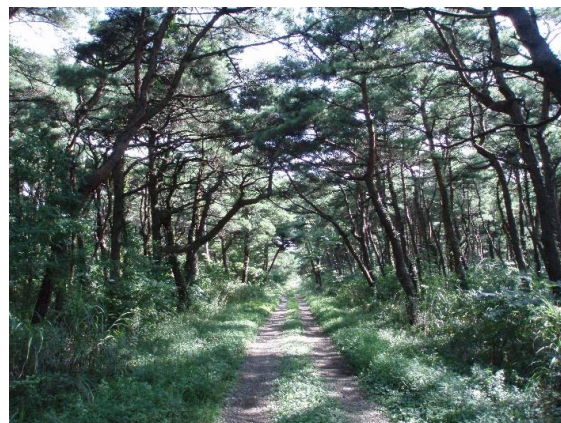
米沢街道は坂町（荒川地域）から荒川左岸を通り下関・上関・沼（いずれも現在の関川村）を経て出羽米沢方面へ至る道で、荒川河口の湊（塩谷・桃崎・海老江）と米沢を結ぶ最短ルートでもあった。

このほか主要な交通路として、新発田城下（現在の発田市）から中条・黒川（いずれも現在の胎内市）を経て村上城下へ至る「三国街道中通り」、新潟町（現在の新潟市）から海岸沿いを通り村上城下へ至る「浜通り」も江戸時代前期から利用されていた。江戸時代後期にはこれ以外にも小国（現在の山形県）から大峠を越えて柳生戸・塩野町（いずれも朝日地域）を経て海岸部へ至る道（「塩の道」）など、米沢方面への道も開発された。

海上交通路は、江戸時代前期から全国的に発達し、越後北部地域でも海運業が発展した。江戸時代中期（18世紀中頃）から明治時代中期にかけて、新潟～酒田間で小型船が荷を運び、北海道と大阪の間で北前船による廻船業が盛んに行われた。海運業の拠点となった港は三面川河口の瀬波（村上地域）、石川河口の岩船（村上地域）、荒川三港と称された荒川河口の塩谷（神林地域）・海老江（荒川地域）・桃崎（胎内市桃崎浜）で、これらの港や海岸部の山北地域～村上地域の各集落には廻船業の関係者が多数存在した。



旧出羽街道 大沢峠の石畳（山北地域）



旧浜通り（神林地域）



岩船の町並み



塩谷の町並み

（５）近代・現代

明治４年（1871）7月の^{はいはんちけん}廃藩置県によって旧村上藩領は岩船郡内に存在していた旧幕府領や各藩領と合併して村上県となり、同年11月に新潟県に統合された。その後、郡区町村編成法により、当地域は明治12年（1879）に岩船郡となり、旧村上城下に岩船郡役所が設置された。

明治19年（1886）、旧村上城下には^{もとまち}村上本町（旧武家町）と村上町（旧町人町）が成立し、江戸時代に続き岩船郡における経済活動の中心地となった。

海上交通は、海運業の発達とともに最盛期を迎え、瀬波港、岩船港、寝屋港（山北地域）などが汽船の寄港地として栄えた。岩船港では商業港としての更なる港湾整備を求める運動が盛んに行われ、新潟県への請願書の提出、採択を経て大正時代に港湾整備が開始され、今日に至るまで整備が継続されている。

陸上交通は、大正3年（1914）に鉄道が新発田から村上まで延伸し、大正13年（1924）には新潟県から山形県に至る羽越線が開通、昭和12年（1937）には坂町村（現在の村上市坂町）から山形県の米沢に至る^{よねさか}米坂線が開通した。鉄道整備が進められると海上輸送路による海運業は縮小し、当地域の港の多くは沿岸漁業を主とする漁港として存続した。

岩船郡の諸産業のうち、養蚕業や織物業は明治時代に盛んとなり、郡内には多くの工場が建設された。このほか茶や漆など近世以来の産業も受け継がれ、特に村上町（旧村上城下の町人町）においては茶の製造販売が盛んに行われ、村上町における茶の作付面積は明治41年（1908）に最大となった。現在でも、村上茶や村上^{きぼりついしゅ}木彫堆朱のほか、江戸時代からの三面川鮭漁の伝統を受け継いだ鮭の加工製品の製造販売などが、旧村上城下を中心に当地域の伝統的地場産業として盛んに行われている。

（６）村上市の沿革

明治22年（1889）の町村制施行により本市域は4町35村に再編成され、明治34年（1901）には4町20村となった。

昭和21年（1946）に旧村上城下に並立していた村上本町と村上町が合併し、村上町が誕生した。

昭和29年（1954）～昭和30年（1955）には23町村が各地域で合併し、村上市、荒川町、神林村、



岩船港（昭和時代初期）



三面川の鮭漁



村上茶

朝日村、山北村の1市1町3村が成立した。その後、山北村は昭和40年（1965）に町制へ移行し山北町となった。

平成20年（2008）4月に村上市と荒川町、神林村、朝日村、山北町の5市町村が合併し、新しい村上市が誕生した。

表4 村上市各地域・各地区の変遷

現在の 地域	現在の 地区	天保 5 年 (1834)	明治22年 (1889)	昭和28年 (1953)	昭和29～30年 (1954～55)	平成20年 (2008)
村上	村上 岩船 瀬波 山辺里 上海府	3町、33村 村上藩領 ・村上町、岩船町、 瀬波町 ・日下組 ・上海浦組	村上本町(むらかみもとまち)	村上町	村上市	
			村上町(むらかみまち)			
			岩船町(いわふねまち)	岩船町		
			瀬波町(せなみまち)	瀬波町		
			山辺里村(さべりむら)	山辺里村		
			門前谷村(もんぜんだにむら)			
			上海府村(かみかいふむら)	上海府村		
荒川	保内 金屋	29村 村上藩領 ・(一部の村) 幕府領ほか ・上保内組 ・下保内組	上保内村(かみほないむら)	保内村	荒川町	
			中保内村(なかほないむら)			
			大津村(おおづむら)	金屋村		
			金屋村(かなやむら)			
			南保内村(みなみほないむら)			
			海老江村(えびえむら)			
			神林	平林 砂山 神納 神納東 西神納		
塩谷村(しおやむら)	神納村					
神納村(かんのうむら)						
東神納村(ひがしかんのうむら)						
西神納村(にしかんのうむら)	西神納村					
朝日	館腰 三面 高根 猿沢 塩野町	50村 村上藩領 ・新保組 幕府領ほか ・黒田組 ・上野組 ・塩野町組			館腰村(たてこしむら)	館腰村
			長津村(ながつむら)			
			新屋村(あらやむら)	三面村		
			布部村(ぬのべむら)			
			高根村(たかねむら)	高根村		
			岩沢村(いわさわむら)	猿沢村		
			鵜渡路村(うのとろむら)			
			猿沢村(さるさわむら)			
			塩野町村(しおのまちむら)	塩野町村		
			大須戸村(おおすどむら)			
山北	大川谷 中俣 黒川俣 八幡 下海府	1町、49村 村上藩領 ・立島組 幕府領ほか ・府屋組 ・黒川俣組 ・下海浦組	大川谷村(おおかわだにむら)	大川谷村	山北村 (S40に山北町)	
			中俣村(なかまたむら)	中俣村		
			黒川俣村(くろかわまたむら)	黒川俣村		
			八幡村(やわたむら)	八幡村		
			下海府村(しもかいふむら)	下海府村		

第2章 村上市の文化財の概要

1 指定等文化財の概要

令和7年6月1日現在の指定等文化財の件数は合計199件、地域別でみると村上地域が最も多く92件、以下、山北地域33件、神林地域29件、荒川地域25件、朝日地域19件で、このほか1件は地域を定めず生息する特別天然記念物カモシカである。

文化財の種別でみると建造物が最も多く45件、以下は考古資料38件、無形の民俗文化財（風俗慣習・民俗芸能）19件、植物・地質鉱物19件、歴史資料19件、彫刻13件、書跡・典籍10件、有形の民俗文化財10件、遺跡9件である。

建造物は村上地域に30件あり、うち29件は旧村上城下の武家住宅、町家、社寺などで、武家住宅6件と社寺6件は全て指定文化財、町家17件は全て登録有形文化財である。このうち旧村上城下の武家住宅は平成時代前期に旧武家町を対象とした伝統的建造物群保存対策調査で約20件（棟）が確認されていたが、現在は指定文化財6件のほか未指定の数棟が残るのみとなっている。

彫刻は山北地域に6件、村上地域と荒川地域にそれぞれ3件あり、いずれも社寺が所有する仏像である。書跡・典籍は全て村上地域にあり、うち5件は耕雲寺が所有する中世資料、4件は旧村上城下に関する資料である。考古資料は中世の石造物である板碑^{いたび}が18件、発掘調査で出土した遺物が18件ある。板碑は神林地域と荒川地域および山北地域に多くみられ、発掘調査で出土した遺物は朝日地域の奥三面遺跡群や村上地域の浦田山丘陵付近から出土した旧石器時代、縄文時代、弥生時代の遺物等である。歴史資料は村上地域に11件あり、このうち5件は旧村上城主の堀家・榊原家・間部家・内藤家に関わる石造物（墓碑、石仏など）である。

有形の民俗文化財は村上地域に6件、朝日地域に4件あり、村上地域の6件はいずれも西奈彌羽黒神社^{せなみはぐろ}に奉納された江戸時代の絵馬や額、朝日地域の4件は金山採掘や漆かきなど山村での生産に関する用具である。

無形の民俗文化財は風俗慣習5件、民俗芸能が14件あり、風俗慣習は山北のボタモチ祭り（山北地域）、村上祭の屋台行事（村上地域）などの行事で、民俗芸能には荒川地域と神林地域の三匹獅子踊り9件（金屋獅子踊り、牛屋獅子踊りなど）が含まれている。

遺跡は戦国時代の城館、江戸時代の石段や一里塚^{いちりづか}などで、最も古いものは神林地域にある鎌倉～南北朝時代の経塚^{きょうづか}である。

植物・地質鉱物は村上地域に12件あり、いずれも神社の社叢または社寺境内の樹木が指定物件となっている。他地域の指定物件も殆どは社叢または社寺境内の樹木である。

このほか、選定保存技術として茅葺屋根の葺き替え技術があり1名が県選定の保存技術者となっている。



金屋獅子踊り（荒川地域）



牛屋獅子舞（神林地域）

表5 域内の指定等文化財（令和7年6月1日現在）

類型			国指定 ・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	合計
有形文化財	建造物		2	－	1	16	26	45
	美術 工 芸 品	絵画	0	－	0	2	0	2
		彫刻	0	－	0	13	0	13
		工芸品	0	－	0	5	0	5
		書跡・典籍	0	－	0	10	0	10
		古文書	0	－	0	6	0	6
		考古資料	1	－	4	33	0	38
		歴史資料	0	－	0	19	0	19
無形文化財		0	(1) ※1	1	1	0	2	
民俗文化財	有形の民俗文化財		1	－	0	9	0	10
	無形の民俗文化財		2	(3) ※2	2	15	0	19
記念物	遺跡		3	－	2	4	0	9
	名勝地		(1) ※3	－	0	1	0	1
	動物・植物・地質鉱物		3	－	2	15	0	20
文化的景観			0	－	－	－	－	0
伝統的建造物群			0	－	－	－	－	0
合計			12	(4)	12	149	26	199

※1 国の記録選択1件（村上堆朱）は県指定無形文化財1件（村上堆朱）と重複

※2 国の記録選択3件（越後のしな布紡織習俗、山北のボタモチ祭、大須戸能）は市指定無形文化財1件（紡織習俗「シナバタ」）、重要無形民俗文化財1件（山北のボタモチ祭り）、県指定無形民俗文化財1件（大須戸能）と重複

※3 笹川流は名勝地および地質鉱物として重複指定

* 国指定・選定と国選択の（）は※1～3で記した重複の件数を示す

表 6 指定等文化財の分布状況（令和 7 年 6 月 1 日現在）

地域	地区	有形文化財										無形文化財				民俗文化財				記念物				計
		建造物	美術工芸品						無形文化財				有形民俗	無形民俗			遺跡	記念物		動物・植物・地質鉱物				
			絵画	彫刻	工芸品	書跡・典籍	古文書	考古資料	石造物	歴史資料	工芸技術	生活文化		民俗用具	民俗技術	風俗慣習		民俗芸能	言語伝承		城館跡	史跡等	名勝地	
村上																								
	村上	29	2	3	3	5					9	2 ※1	6		1	1			2	1	7	71 (70)		
	岩船						5				1				1						2	8		
	瀬波																				1	2		
	山辺里	1				5			2						1						2	11		
	上海府									1											1	1		
		30	2	3	3	10	0	7	0	11	2 (1)	0	6	0	3	1	0	0	2	1	12	93 (92)		
荒川																								
	保内			3			1	6								3			1		1	15		
	金屋	2						3								4		1			10			
		2	0	3	0	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	2	0	1	25		
神林																								
	神納			1				3														4		
	神納東							2										2				4		
	平林	1						1		1						1		1		2	7			
	砂山	7						3		1						2					13			
	西神納							1													1			
		8	0	1	0	0	0	10	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	2	29		
朝日																								
	縮腰														1									
	三面							5		1		2						1		1	9			
	高根								3	1		1									5			
	猿沢											1									1			
	堀野町														1	2 ※4					3 (2)			
		0	0	0	0	0	3	5	0	2	0	0	4	0	1	3 (2)	0	0	1	0	1	20 (19)		
山北																								
	大川谷	5		2	2		1	2		1					2 ※3	1					16 (15)			
	中俣		2					1			1 ※2			1 ※2				1		1	7 (6)			
	黒川俣		2							1											3			
	八幡						1			1										1	3			
	下海府							4		1									1 ※5	7 (6)				
		5	0	6	2	0	2	7	0	4	1 (0)	0	0	1	2 (1)	1	0	0	1	1	3 (2)	36 (33)		
	地域を定めないもの																			1	1			
	合計	45	2	13	5	10	6	38	0	19	3 (1)	0	10	1	6 (5)	15 (14)	0	0	9	2	20 (19)	204 (199)		

※1 国の記録選択1件（記録作成等の措置を講ずべき無形文化財、村上堆朱）と県指定無形文化財1件（村上堆朱）が重複

※2 市指定無形文化財1件（紡織習俗「シナバタ」）と国の記録選択1件（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財、越後のしな布紡織習俗）が重複

※3 重要無形民俗文化財1件（山北のボタモチ祭り）と国の記録選択1件（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財、山北のボタモチ祭）が重複

※4 県指定無形民俗文化財1件（大須戸能）と国の記録選択1件（記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財、大須戸能）が重複

※5 和川流は名勝地および地質鉱物として重複指定

* 表中の合計()内は実件数を示す

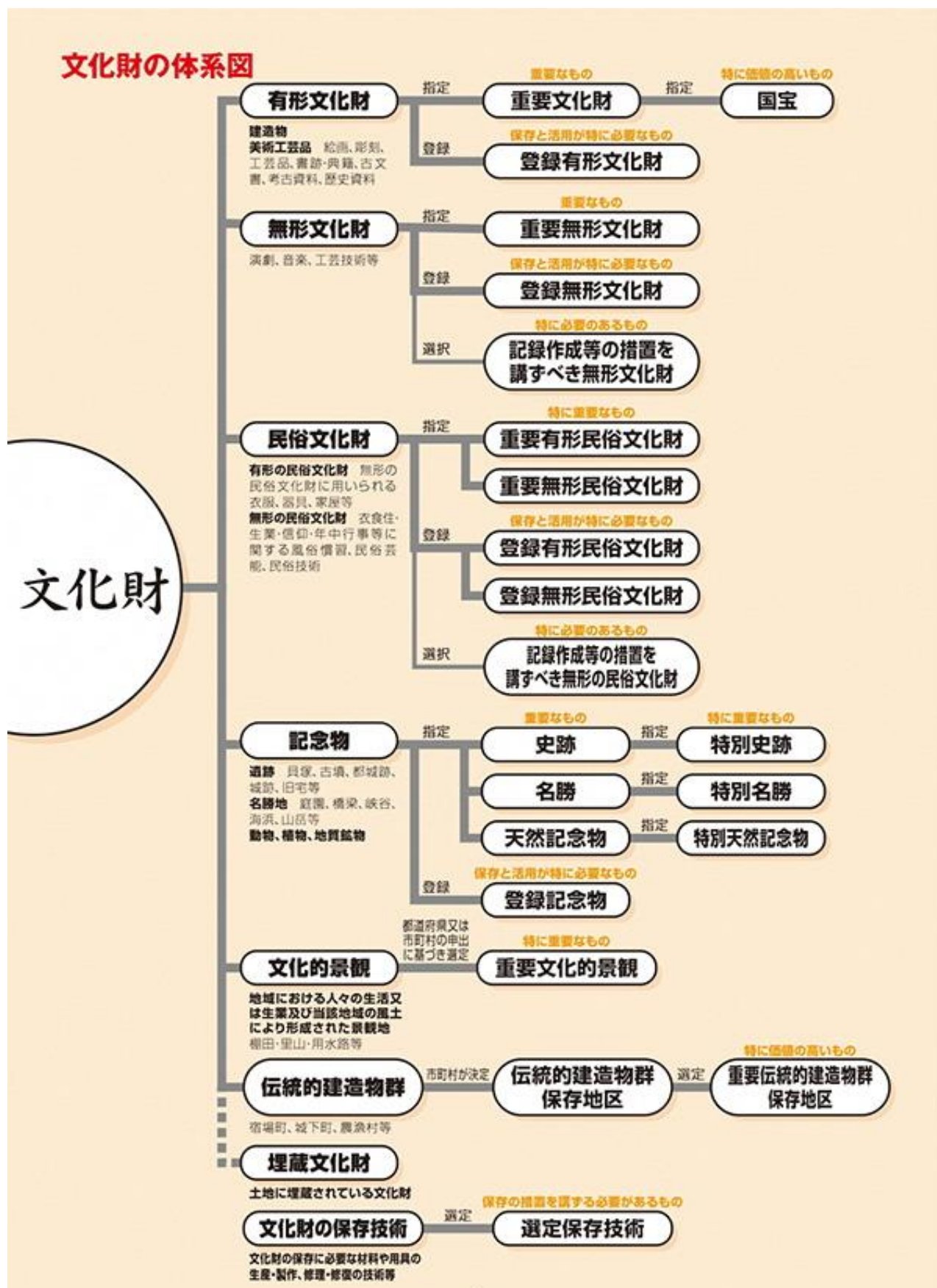


図 14 文化財の体系図（文化庁ホームページより転載）

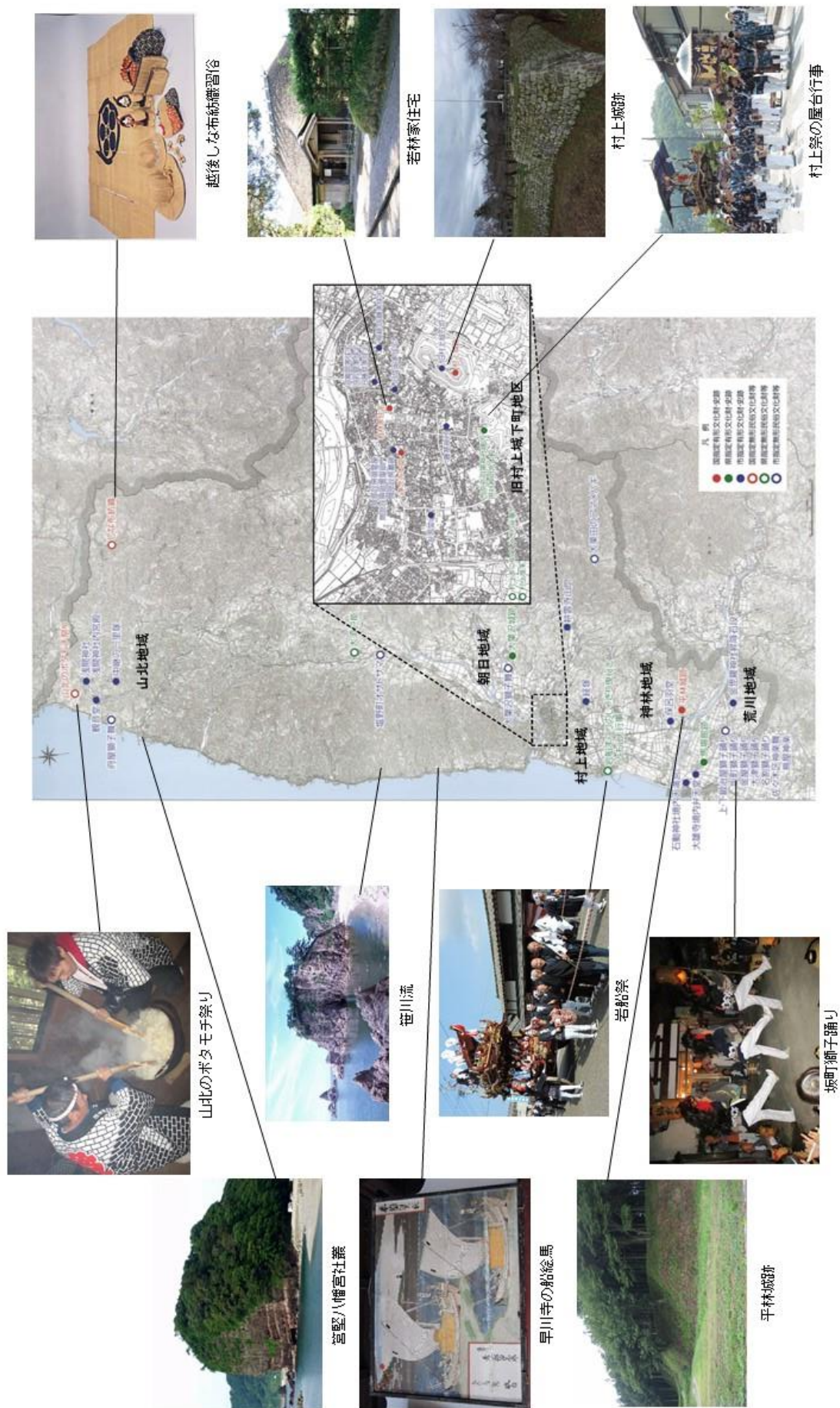


図 15 文化財の分布状況（令和 7 年 6 月 1 日現在）

（１）有形文化財

〔建造物〕

重要文化財 2 件（若林家住宅、浄念寺本堂）、
県指定 1 件、市指定 16 件、国登録有形文化財 26
件がある。

重要文化財と県指定の建造物は、いずれも村上
地域の旧村上城下に所在する。

若林家住宅は江戸時代に村上城主内藤家から
150 石を給された若林家の住宅で、江戸時代後期
の建築とされる。昭和 61 年（1986）から昭和 63
年（1988）の保存修理工事によってほぼ建築当初
の姿に現地復元された。

東西に棟を持つ居室部と南北に棟を持つ座敷
部からなる L 字型の住宅で、よく江戸時代後期
の特徴を示しており、この種の建物が乏しい東日本
における中級武家屋敷の遺構である。

浄念寺は 15 世紀末期の開基と伝えられる浄土
宗の寺院で、江戸時代には間部家ほか村上城主の
菩提寺とされた。本堂は文化 15 年（1818）の建
築で、昭和 59 年（1984）から三か年かけて大修
理が行われた。

本堂の外壁には漆喰が塗られ、室内は中央が吹
抜けとなり二階にはそれを巡る回廊（ベランダ）
が付く。吹抜け部には木造丈六阿弥陀如来座像（市指定文化財）を安置する大きな宮殿が作られてい
る。明治時代以前に建築された本格的な土蔵造りの本堂は全国に数棟しか残っておらず、その中でも
最大規模の建物で本市の代表的な近世社寺建築である。

県指定の西奈彌羽黒神社境内摂社神明宮本殿は貞享 5 年（1688）の羽黒神社火災後に本殿として建
立されたもので、棟札には元禄 3 年（1690）に村上城主榊原家の造営寄進とある。当初は現本殿の位
置にあったが、明治 14 年（1881）に現本殿の新築にあたり摂社として後方へ移され、その後さらに
現在地に移された。内側・外側ともに鮮やかな丹塗りで、斗拱・墓股は極彩色、柱や扉回りは漆塗り、
その他黒漆を塗った部分もあり、桃山時代の建築様式の豪華さを伝えている。

市指定は村上地域に武家住宅 5 件、社寺 5 件があり、武家住宅は重要文化財若林家住宅とともに旧
村上城下武家町の景観を形成する重要な要素となっている。このほか荒川地域 2 件、神林地域 1 件、
山北地域 3 件の社寺建築が市指定文化財である。

国登録有形文化財は村上地域に 17 件、神林地域に 7 件、山北地域に 2 件存在する。村上地域では、
明治時代前期に建築された山上染物店主屋や吉川家住宅主屋などの登録文化財建造物が全て旧村上
城下の町人町地区にある。神林地域では、明治時代前期に建築された旧野澤豊五郎醸造醤油蔵や野澤
食品工業株式会社店舗兼主屋など 7 件が全て塩谷（砂山地区）にある。



若林家住宅



浄念寺本堂

〔絵画〕

市指定が2件あり、江戸時代に村上城主の学問寺であった安泰寺（村上地域）が所蔵する江戸時代後期の仏画（釈迦三尊十六善神像、曼荼羅図）である。安泰寺は臨済宗の寺院で、村上城主内藤家の学問所として内藤家の転封に従い、享保6年（1721）に陸奥国棚倉から現在地へ移った。釈迦三尊十六善神像と曼荼羅図はいずれも制作年代は江戸時代中期と考えられ、同時代の類品と比較しても優品であることから、内藤家から安泰寺に下賜されたものと考えられる。



地藏菩薩石像

〔彫刻〕

市指定が13件あり、内訳は村上地域3件、荒川地域3件、神林地域1件、山北地域6件である。13件は全て仏像で、木造が11件、石造が2件ある。木造のうち浄念寺（村上地域）の木造丈六阿弥陀如来座像は文化9年（1812）の制作で、文化15年（1818）に建築された本堂（重要文化財）内部に安置されている。石造のうち満願寺（山北地域）の地藏菩薩石像（坐像）で、宝暦10年（1760）に満願寺の住職が「三界萬霊等」として造立したものである。

〔工芸品〕

市指定が5件あり、内訳は村上地域3件、山北地域2件である。このうち村上市が所有する本庄兜は戦国時代の村上城主本庄繁長が着用したもので、室町時代の制作と考えられている。正面眉庇上に残る傷は天正16年（1588）8月に本庄繁長が出羽庄内十五里原で最上義光の軍勢と戦った際、敵将東禅寺右馬頭勝正に切り付けられた時のものと伝えられている。この兜は、後年本庄家より直江家に贈られ、その後直江家から加賀藩の本多家に贈られた。本多家では代々家宝として伝来したとされ、本多家の所有から離れたのち昭和時代後期に村上市の所有となった。

〔書跡・典籍〕

市指定が10件あり、全て村上地域にある。このうち5件は曹洞宗の古刹である耕雲寺が所蔵する資料である。耕雲寺の資料のうち霊樹山耕雲禅寺納所方田地之帳は永正6年（1509）に作成された耕雲寺の寺領における納帳で、「納所」は年貢や施物を納める所を意味する。この納帳には田地の所在地、田地からの収量（出来高）、田地の寄進者名などが記され、寄進者には「本庄殿」、「色部殿」、「鮎川殿」などの在地の領主層の名前がみられる。

耕雲寺の資料以外では、江戸時代の村上城下安良町に設置された村上町年行事所（町人町の行政事務所）の記録文書である村上町年行事文書がある。



本庄兜

る。村上町年行事所では村上町の^{おおとしより}大年寄 2 名が中心となって事務を執り行い、その記録文書である村上町年行事文書は冊子文書 620 点、一紙文書 1,888 点がある。冊子文書は寛文 8 年（1668）の検地帳が最も古く、日記は正徳 2 年（1712）～明治 9 年（1876）のものが存在する。一紙文書は約半数が享和～慶応年間（1801～1868）の文書で、公儀の通達や土地関係など様々な資料が含まれている。

〔古文書〕

市指定が 6 件あり、内訳は荒川地域 1 件、朝日地域 3 件、山北地域 2 件である。朝日地域の 3 件はいずれも戦国時代の村上城主本庄繁長の書状で、家臣宛の^{ちぎょうあてがい}知行宛行状や寺宛の^{じりょうあんど}寺領安堵状である。山北地域の^{おんかんぐんさまおんきゅうはくおんまかないかきあげ}御官軍様御休泊御 賄 書上帳は、慶応 4 年（1868）の戊辰戦争で村上城下から庄内へ進攻する新政府軍兵士が^{ごいし}基石村に宿泊した際の人数、その他休泊^{ごいし}賄い関係を記録した資料で、基石村では「御泊御賄」として 8 月 21 日から 29 日まで延べ 4,637 人分、9 月 1 日から 29 日まで延べ 2,029 人分の米・銭の支払いを新政府軍から受けたことが記されている。

〔考古資料〕

国指定 1 件（新潟県元屋敷遺跡出土品）、県指定 4 件、市指定 33 件がある。

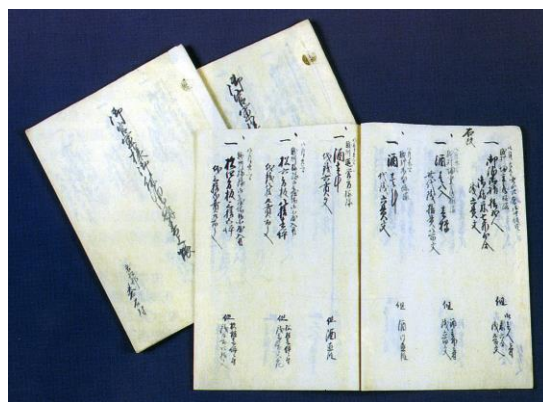
元屋敷遺跡出土品は朝日地域の県営奥三面ダム建設に伴い発掘調査が行われた奥三面遺跡群のうち、元屋敷遺跡から出土した縄文時代後期～晩期の土器や石器、石製品等である。

県指定 4 件は奥三面遺跡群の樽口遺跡（旧石器時代）、元屋敷遺跡（縄文時代後期～晩期）の出土品と、村上地域の^{ただだいら}高平遺跡（縄文時代中期）、神林地域の山元遺跡（弥生時代後期）の出土品である。

市指定の考古資料は村上地域 6 件、荒川地域 9 件、神林地域 9 件、朝日地域 2 件、山北地域 7 件で、市内各地の遺跡から出土した縄文時代から中世までの遺物が 14 件、中世以降に建立された板碑などの石造物が 19 件ある。



村上町年行事文書



御官軍様御休泊御賄書上帳



新潟県元屋敷遺跡出土品



樽口遺跡出土品

遺跡から出土した遺物は、縄文時代中期の遺物が大量に出土した荒川地域の^{はるきやま}春木山遺跡出土品、弥生時代後期の東北系北陸系土器が混在して出土した村上地域の^{すなやま}砂山遺跡出土品などがある。砂山遺跡は昭和 36 年（1961）に^{ようかいち}八日市の旧岩船潟に面する砂丘斜面で工事中に遺跡が発見され、昭和 52 年（1977）に発掘調査が行われた。砂丘の地表下 5 メートルの深さに遺物を含む黒土層があり、この層から弥生時代中期末～後期の東北系・北陸系・信州系の土器と^{せきぞく}石鏃（石製の矢じり）・^{せきすい}石錘（石製の重り）などの石器が出土した。出土した土器は現在「砂山式土器」として分類整理されており、新潟県における弥生時代中～後期の基準資料の 1 つとなっている。



東岸寺板碑

このほか、山北地域の^{うえのやま}上山遺跡（縄文時代後期）から出土した^{まきがいがたどせいひん}巻貝形土製品・^{あしがたつき}足形付土製品は昭和 43 年に国指定の重要文化財となっているが、国所有の考古資料であるため域内の指定文化財数には含まれていない。

石造物は鎌倉時代～室町時代の板碑・石塔が 18 件、江戸時代の板碑が 1 件あり、荒川地域、神林地域、山北地域で多くみられる。荒川地域の東岸寺板碑は花崗岩で作られたもので、正面上下に縦一列で^{さんぞん}三尊（^{あみだ}阿弥陀・^{かんのん}観音・^{せいし}勢至）を配し、その下に^{じぞう}地藏・^{ばとう}馬頭の二尊を添えた珍しい^{ごそん}五尊混合^{しゅじ}種子となっていて、縦に三尊を彫り出したものは全国的にも珍しいものとされている。

[歴史資料]

市指定が 19 件あり、内訳は村上地域 11 件、神林地域 2 件、朝日地域 2 件、山北地域 4 件である。

村上地域の 11 件のうち 8 件は江戸時代の村上城主間部家及び内藤家に関わるもので、このうち間部詮房位牌は享保 5 年（1720）に没した村上城主間部詮房の位牌で、享保 6 年（1721）に建立された間部詮房御霊屋（市指定文化財・建造物）の内部に安置されている。

大正時代に各町村で設置された道路元標は神林地域 1 件・朝日地域 2 件・山北地域 2 件の計 5 件あり、江戸時代後期から明治時代前期に海岸部の社寺に奉納された^{ふなえま}船絵馬が村上地域に 1 件、山北地域に 2 件ある。



道路元標（山北地域）

（２）無形文化財

県指定 1 件、市指定 1 件、記録作成等の措置を講ずべき無形文化財 1 件で、いずれも工芸技術である。

県指定 1 件は村上^{ついでしゅ}堆朱で、村上地域を中心に発達した工芸技術である。木地を彫刻した後、漆を塗り重ねる技法で、江戸時代後期から現在に至るま



山北地域の船絵馬

で受け継がれている。伝統的な地場産業であり、国が選択する記録作成等の措置を講ずべき無形文化財にもなっている。また、村上木彫^{きぼり}堆朱^{ついしゆ}として国の伝統的工芸品にも指定されている。

市指定は山北地域の^{ぼうしよく}紡織習俗のシナバタで、山北地域を産地とする「しな布」の紡織技術である。「しな布」は山間部を産地とするシナの木^ふの皮で糸を紡ぎコシバタで織られた織物で、隣接する山形県鶴岡市関川^{せきかわ}にも同様の技術が残る。この無形文化財の指定とは別に、越後のしな布紡織習俗として国が選択する記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財、羽越しな布として国の伝統的工芸品にも指定されている。

（３）民俗文化財

〔有形の民俗文化財〕

国指定 1 件（越後奥三面の山村生産用具）、市指定 9 件がある。

越後奥三面の山村生産用具は三面川上流での県営奥三面ダム建設に伴い、昭和 60 年（1985）に閉村・移転した朝日地域の旧三面集落で使用されてきた用具類である。閉村に先立ち集落各戸から収集された用具類は昭和 30 年代まで使用されたものが中心で、このうち指定品 734 点は狩猟用具、漁撈用具、^{ぎやうろう}農耕用具、自然物採集・加工用具、^{さんしやう}山樵用具に分類されている。

市指定 9 件は村上地域の西奈彌羽黒神社に奉納された絵馬や武者絵、朝日地域の^{なるみきんざん}鳴海金山で使用されていた石うすなどで、西奈彌羽黒神社には 6 件の指定品がある。

〔無形の民俗文化財〕

国指定 2 件（山北のボタモチ祭り、村上祭の屋台行事）、県指定 2 件、市指定 15 件、記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財 3 件がある。

山北のボタモチ祭りは山北地域の 3 集落（中浜、^{なかはま}杉平、^{すぎだいら}岩石）に伝わる行事で、農業や漁業などが無事終了したことを神に感謝し新たな年の豊作を祈願し、これに若者を集落の一員として認める行事が結びついたものとされる。中浜、杉平では 12 月 2 日、岩石では 1 月 12 日に行われ、参加者が持ち寄ったモチ米とアズキを炊いて二人一組で大きなボタモチを作り、神前に供えたのち参加者全員でボタモチを食べる行事である。

村上祭の屋台行事は村上地域の西奈彌羽黒神社



鳴海金山の石うす



越後奥三面の山村生産用具



山北のボタモチ祭

の例大祭で、寛永 10 年 (1633) に村上城主堀直^{なおより}奇が神社を臥牛山^{がぎゅうさん}中腹から現在地に移した際の遷宮祭^{せんぐうさい}が起源とされている。毎年 7 月 6 日が宵祭^{よいまつり}、7 日が本祭^{ほんまつり}で、本祭には神輿^{かみこ}とともに荒馬^{あらうま} 14 騎、傘鉾^{かさぼこ} 6 基、屋台 19 台が旧村上城下の町人町地区を巡行する。地方における江戸時代の城下町惣町祭礼の姿を伝える行事で、荒馬、傘鉾、屋台が村上祭の屋台行事の指定範囲となっている。19 台の屋台は漆工や彫刻などの技術の粋を集めて制作されたもので、しゃぎり屋台・囃子屋台^{はやし}・にわか屋台の三種類の形態がみられる。

県指定 2 件は朝日地域の大須戸能、村上地域の岩船まつりのしゃぎり曳行と「とも山^{やま}」行事である。

市指定無形民俗文化財は 15 件で、内訳は風俗慣習 2 件、民俗芸能 13 件である。いずれも各地区の祭礼行事に伴うもので、民俗芸能は荒川地域と神林地域の三匹獅子踊りがあわせて 7 件ある。

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財は 3 件で、山北地域の越後のしな布紡織習俗と山北のボタモチ祭 (国指定名称：山北のボタモチ祭り)、朝日地域の大須戸能^{おおすど}である。越後のしな布紡織習俗は、山北地域中俣地区の雷^{いかづち}集落と山熊田集落^{くまだ}を産地とする織物と紡織技術で、隣接する山形県鶴岡市関川集落にも同様の習俗がみられる。羽越地域の山間部に生育するシナノキやオオバボダイジュ、ノボリボダイジュの樹皮を用いて糸を作り、布状に織り上げたもので、現在では当地域にわずかに伝承されるのみである。

(4) 記念物

[遺跡]

国指定 3 件 (平林城跡、村上城跡、山元遺跡)、県指定 2 件、市指定 4 件がある。

国指定は神林地域の平林城跡と山元遺跡、村上地域の村上城跡で、平林城跡は戦国時代の城跡、村上城跡は戦国時代～江戸時代の城跡、山元遺跡は弥生時代の集落跡である。

平林城は中世後期に越後北部の国人領主とし



村上祭の屋台行事



大須戸能



平林城跡



村上城跡

て勢力を築いた色部氏の居館及び山城で、築城年代は不明だが、15 世紀末期には色部氏の居城となっていたものと考えられる。中世後期の色部氏は越後守護上杉家に従い、守護代長尾家が上杉家を継いだ後も重臣として上杉家を支えた。慶長 3 年（1598）に上杉家が会津に移封されると色部氏も越後を離れ、平林城は廃城となった。平林城の遺構は要害山（山城部分）と山麓（居館部分）にみられ、居館部分には虎口・堀・土塁など、山城部分には段切・堀切などの中世遺構が良好に残っている。

村上城は江戸時代に越後北部の中心となった城で、標高 135 メートルの臥牛山に築かれた平山城である。築城年代は不明だが、15 世紀初頭には本庄氏の居城となっていたものと考えられる。慶長 2 年（1597）の「瀬波郡絵図」には、臥牛山に築かれた城郭建物群とともに城下の町並みが描かれている。村上城の遺構は臥牛山上に天守台跡や櫓跡などの石垣、山下に城主居館跡や一文字門、下渡門などの門跡が残っている。また、臥牛山東面には堅堀、土塁など戦国時代の遺構で良好に残り、近世と中世の城郭遺構が渾然一体となって存在している。

山元遺跡は弥生時代後期の高地性環濠集落で、日本海東北自動車道の村上瀬波温泉 IC 建設に伴う埋蔵文化財調査によって発見された。弥生時代後期は「倭国大乱」と呼ばれた時代であり、防御的性格の強い高地性環濠集落を築いたという点では、当地域もその社会的影響を受けていたと考えられる。多量のガラス小玉や筒形銅製品（青銅器）、土器などの出土遺物から、北陸・東海・南関東・北海道及び東北北部という広域的な交流がうかがえる。

県指定の史跡は荒川地域の馬場館跡、朝日地域の大葉沢城跡で、馬場館跡は室町時代、大葉沢城跡は戦国時代の城館跡である。

市指定の史跡は神林地域の里本庄の経塚、山北地域の中継の一里塚などで、経塚は中世小泉荘に関するもの、一里塚は江戸時代の出羽街道に関するものである。

〔名勝地、動物、植物、地質鉱物〕

国指定は特別天然記念物 1 件、天然記念物 2 件、名勝 1 件がある。県指定は天然記念物 2 件、市指定



平林城跡の遺構



村上城跡の遺構



里本庄の経塚



中継の一里塚

は天然記念物 16 件がある。

特別天然記念物のカモシカは、村上市の山地全域を含めた新潟県や山形県、福島県にかけての一角が生息地となっている。

国指定の天然記念物はいずれも山北地域内にあり、^{はこがたはちまんぐうしゃそう} 菅堅八幡宮社叢が天然記念物、^{さきがわなが} 笹川流れ（文化財指定名称：笹川流）が名勝及び天然記念物となっている。

^{はこがた} 菅堅八幡宮は日本海に面した標高 120m の^{やま} 菅堅山の頂上に建つ神社で、延喜 21 年（921）創建と伝えられる。^{しんようじゆりん} 菅堅山全体が社叢とされ、針葉樹林と^{じょうりよくらくよう} 常緑落葉樹林が交わる原生林の様相を呈し、南向きの斜面には南方系の樹林、北向き斜面には北方系の樹林がみられる。多様な植物の生育地となっており、スギ・カヤ、ケヤキ、アサダなどの巨木も多く、景観的にも価値の高い自然環境を有している。

笹川流れ（文化財指定名称：笹川流）は日本海の地殻変動と波浪によって形成された奇岩怪石・孤島・鍾乳洞・海門などの変化に富む景観が見られる海岸線で、^{はましんぼ} 山北地域の浜新保～^{かんがわ} 寒川間の延長約 11 キロメートルが指定範囲となっている。古くから景勝地として知られ、天然記念物としても海岸の^{りゅうき} 隆起、^{かいしよく} 海蝕作用、花崗岩の洞窟内における^{しょうにゅうせき} 鍾乳石の生成等は貴重なものとされている。

市指定の天然記念物は名勝地 1 件、植物 15 件がある。植物は村上地域の大龍寺イチョウや神林地域の^{こいわうち} 小岩内の^{うばすぎ} 姥杉ほか多くは山地や社寺境内にある樹木で、信仰の対象として保護されてきた老木、巨木である。

2 未指定文化財の概要

未指定文化財は種別によっては調査が不十分で把握されていないものも多くあるが、令和 7 年 6 月 1 日現在で把握されている未指定文化財は全体で 2,854 件、地域別でみると村上地域で最も多く 1,456 件、他の 4 地域では 250～415 件を把握している。

文化財の種別でみると歴史資料が最も多く 912 件（石造物 897 件、その他 15 件）で、以下は埋蔵文化財包蔵地 661 件、建造物 609 件、無形の民俗文化財（民俗技術・風俗慣習・民俗芸能・言語伝承）278 件、古文書 198 件である。



菅堅八幡宮社叢



笹川流



大龍寺イチョウ

表 7 域内の未指定文化財（令和 7 年 6 月 1 日現在）

類型		内容	合計	
有形文化財	建造物	龍阜院本堂（羽黒町）、浄国寺本堂（長井町）、東岸寺本堂（荒島）、源内塾（岩船上大町）ほか	579	
		村上市歴史的風致形成建造物	30	
	美術工芸品	絵画	専念寺仏画ほか	3
		彫刻	海天寺木像ほか	7
		工芸品	長楽寺華鬘ほか	3
		書跡・典籍	大般若経（羽下ヶ渚）ほか	5
		古文書	斎藤家文書（寒川）、伴田家文書（岩船上町）、青木家文書（岩崎）、板垣家文書（上中島）ほか	198
		考古資料	各地域の遺跡からの出土品	66
		歴史資料	御境石（西興屋）、旧出羽道表示石（古渡路）、道路元標（猿沢、岩船、保内、金屋）、八坂神社の和船模型（瀬波中町）、上海府地区の船絵馬、ほか	912
無形文化財		生活文化（茶道、華道、武道）	3	
民俗文化財	有形の民俗文化財	三面川・大川の鮭漁関係用具、村上茶製茶用具（村上地域）ほか	3	
	無形の民俗文化財	大行焼（朝日地域）、瀬波祭（村上地域）、村上七夕祭（村上地域）、各地域の伝統行事（左義長、初午、七夕、神楽など）、鮭の食文化、アク笹巻（山北地域）ほか	278	
記念物	遺跡	鳴海金山（高根）、猿沢城跡（猿沢）、旧出羽道石畳（山北地域～朝日地域）ほか	51	
	名勝地	中山家庭園（大須戸）、満福寺庭園（羽黒町）ほか	22	
	動物・植物・地質鉱物	高坪山のブナ（荒川地域）、魚付保安林（岩ヶ崎）ほか	22	
文化的景観			0	
伝統的建造物群			0	
埋蔵文化財包蔵地		各地域の遺跡（遺物包含地、集落跡、城館跡など）	661	
文化財の保存技術		建築、漆工、左官ほか	11	
合計			2,854	

表 8 未指定文化財の分布状況（令和 7 年 6 月 1 日現在）

地域	地区	有形文化財										無形文化財				民俗文化財					記念物				埋蔵文化財	文化財の保存技術	計
		建造物	美術工芸品						無形文化財				有形民俗	無形民俗				遺跡				名勝地	植物、地質・鉱物				
			絵画	彫刻	工芸品	書跡・典籍	古文書	考古資料	石造物	歴史資料	工芸技術	生活文化		民俗技術	風俗慣習	民俗芸能	言語伝承	城跡跡	史跡等								
村上																											
	村上	558	2	2	2	2	19			1		3	2	7	32	2						1			19	11	1,237
	岩船	5	1	3		1	5	2		1					14	1						1	1		34		69
	瀬波	3				1	1	1	574	2					14						1	4	1	2	7		37
	山辺里	1				1	5	2							19						2			30			60
	上海府	4				1	3			1					8						1	2		33			53
		571	3	5	3	5	33	5	574	5	0	3	2	7	87	3	0	4	7	3	2			123	11		1,456
荒川																											
	保内	4					22	6	105	1				1	17			2	1		1			45			205
	金屋	7					8	6	120	1				1	10					1			31				185
		11	0	0	0	0	30	12	225	2	0	0	0	2	27	0	0	2	2	0	1		76	0			390
神林																											
	神納	3					6	11							10			3					77				114
	神納東						3	9	1					1	6							49					69
	平林	2					4	1		1					7					1		36					52
	砂山	2					7	2		2				2	6				2	1		28					52
	西神納						7	2							11			1				35					56
		7	0	0	0	0	27	25	1	3	0	0	0	3	40	0	0	4	2	6	0	225	0				343
朝日																											
	縮腰	2					3	1	11						11			1	2	2	1	3	39				76
	三面	2					4	19							10			1		1		37					74
	高根	2					10	1	36	2				1	10			2	1	2	8	61					136
	猿沢	6					1	2	29	2				1	9			2	2	1	5	21					85
	塩野町	1					4	1						1	8				4	2		23					44
		13	0	0	0	0	22	24	76	4	0	0	0	3	48	0	3	7	8	11	15	181	0				415
山北																											
	大川谷						26		4				1	1	14			2	1	2	2	14					67
	中俣						8		6					3	6				2			7					32
	黒川俣	1		1			16		3						6			1	3		1	10					42
	八幡	2					21		7						14			1	2			6					53
	下海府	4		1			15		1	1				1	9		1	1	2		1	19					56
		7	0	2	0	0	86	0	21	1	0	0	1	5	49	0	1	5	10	2	4	56	0				250
	計	609	3	7	3	5	198	66	897	15	0	3	3	20	251	3	4	22	29	22	22	661	11				2,854

石造物は地域内を対象とした調査が実施された村上地域と荒川地域で多く把握しているほか、朝日地域と山北地域でも地元研究者・まちづくり団体によって多くの件数を把握している。石造物の多くは民間信仰に関わるものであるが、三面川の漁場境を示した村上地域の御境石、大正時代に設置された道路元標など、信仰以外の目的で作られた石造物も各地域で見られる。一方で、未把握の石造物も多くあり、その多くは信仰が多様化した江戸時代以降に作られた石造物である。

建造物は近世社寺建築として 63 件を把握しているほか、旧村上城下（村上地域）では江戸後期から昭和前期までの建造物 503 件を把握している。

その他、文化財の保存技術に関しては古建築に関わる技術を研究する古建築研究会に所属する技術者によって大工、漆工、左官などの技術が継承されている。

（１）有形文化財

〔建造物〕

建造物は昭和後期に実施された近世社寺建築調査によって 5 地域で合計 63 件を把握しており、このうち旧村上城下の社寺が 22 件ある。また、平成後期に実施された旧村上城下の歴史的建造物調査で江戸後期から昭和前期までの建造物 503 件を把握している。

このほか岩船上大町（村上地域）の源内塾（旧本間家住宅）は江戸時代中期から岩船町に居住し明治時代初期まで寺子屋を開いていた本間氏の住宅で、現在の建物は江戸時代末期に再建されたものである。

〔絵画〕

村上地域の寺院が所有する仏画 3 点の所在を把握している。いずれも制作年代が江戸時代～明治時代の仏画で、このうち専念寺の仏画（村上地域）は明治時代後期に制作された観音像、如来像ほかの仏画である。

市内の各社寺には仏画や肖像画など文化財的な価値を有する絵画がほかにも多くあるものと考えられるが、一部を除き把握できていない。



御境石



旧村上城下の町並み



源内塾

[彫刻]

村上地域および山北地域の寺院が所有する仏像 7 点の所在を把握している。このうち脇川（山北地域）の大日如来堂の鳥像（山北地域）は 3 本足の鳥像で、大日如来堂が建てられた江戸時代前期以降の制作と考えられている。

市内の各社寺には仏像や神像など文化財的な価値を有する彫刻がほかにもあるものと考えられるが、一部を除き把握できていない。



大日如来堂の鳥像

[工芸品]

村上地域の寺院が所有する仏具 3 点の所在を把握している。このうち馬下の八幡神社の鞍（村上地域）は、奥州へ向かう源義経一行がこの場所で馬を下りてその先へ進んだとの伝説（地名の由来とされている）に関わるもので、その際に義経が乗ってきた馬の鞍であると伝えられている。

市内の各社寺には文化財的な価値を有する工芸品がほかにもあるものと考えられるが、一部を除き把握できていない。

[書跡・典籍]

村上地域の寺院が所有する書跡・典籍 5 点の所在を把握している。諸上寺の大般若経や耕雲寺の経典など中世の典籍も含まれており、地域に残る数少ない中世期の資料となっている。

市内の各社寺には文化財的な価値を有する書跡・典籍がほかにもあるものと考えられるが、一部を除き把握できていない。



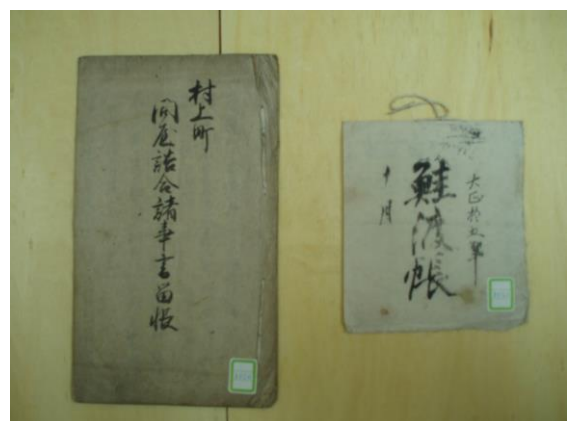
旧磐舟文華博物館収蔵資料

[古文書]

古文書は 198 件の所在を把握している。山北地域 86 件、荒川地域 30 件、村上地域 33 件で、個人所有の古文書が大半を占めている。村上地域の旧磐舟文華博物館収蔵資料は市所有の文書群で、個人から市に寄附されたものである。内容は主に村上地域内で収集された諸家文書で、商家に關係する文書類が多くみられる。このほかに個人から市に寄附されたものでは山貝家（村上地域）、青木家（山北地域）などの文書群がある。

[考古資料]

これまで発掘調査を実施した遺跡からの出土品 66 件を把握している。神林地域で出土したものが 25



山貝家文書

件、朝日地域で出土したものが24件あり、全体の
内訳では縄文時代と古代の遺物が多くみられる。
縄文時代では上ノ山遺跡（^{うえのやま}神林地域）や長割遺跡
（^{ながわり}村上地域）、古代では鴨侍遺跡（^{かもざむらい}荒川地域）や
松木田遺跡（^{まつきだ}村上地域）などの出土品があり、この
ほか中世の遺跡では内御堂遺跡（^{うちみどう}神林地域）や岩船
下大町遺跡（^{いわふねしもおおまち}村上地域）の出土品がある。

[歴史資料]

これまで石造物 897 件、石造物以外の歴史資料
15 件の所在を把握している。石造物は村上地域に
574 件、荒川地域に 225 件がみられる。多くは江戸
時代以降に作られた石造物で、各地域における多様な信仰の歴史を示すものである。

信仰以外の目的で作られた石造物では大正時代に設置された道路元標があり、旧金屋村道路元標（^{かなや}荒川地域）、旧岩船町道路元標（村上地域）、旧猿沢村道路元標（朝日地域）はそれぞれ元位置から移動しているため文化財未指定となっているが各地域内で保存されている。また、岩船潟干拓碑（村上地域）は村上地域から神林地域にかけて存在していた岩船潟が江戸時代中期から明治時代にかけて干拓されたのち、潟の内部にあった^{べんでんじま}弁天島の跡地に建てられた干拓記念碑である。



旧猿沢村道路元標（朝日地域）

（２）無形文化財

生活文化は3件（茶道、華道、武道）の所在を把握している。このうち茶道と武道は、江戸時代から旧村上城下町地区で盛んに行われた茶道と武芸の系譜を引く活動である。茶道は現在も表千家流、裏千家流、石州流、宗偏流などの諸流派があり、各流派での活動とともに流派合同による茶会が旧城下町地区の武家住宅を会場として毎年開催されている。

また、武道は旧村上藩士により行われてきた剣術、柔術、弓術などの伝統を受け継ぐ剣道、居合道、^{さいだんどう}截断道、弓道などの団体が活発に活動している。



武家住宅での茶会（村上地域）

（３）民俗文化財

[有形の民俗文化財]

有形の民俗文化財は3件の所在を把握している。このうち個人博物館が所蔵し現在は市の所有となっている民具資料一式（旧磐舟文華博物館収蔵資料）は主に村上地域で収集された諸職の用具類で、旧村上城下の諸産業、海岸部の海運や漁撈、農村部の農耕や生産など村上地域全体の生活・産業に関わるものが含まれている。



武家住宅敷地内での弓道射会（村上地域）

〔無形の民俗文化財〕

無形の民俗文化財は 278 件の所在を把握している。このうち風俗慣習・民俗芸能は、各地域で神社の祭礼その他信仰に関わる多様な行事がみられる。各地域の神社での祭礼行事は神楽と称して春と秋に開催されるものが多く、春は 4～5 月、秋は 10～11 月が主な開催時期となっている。市全域でみられるのは小正月行事の「さいの神」と 7 月の「地蔵様」で、行事の名称や形態は地域によってやや異なるものの同時期に開催されている。

地域が限定されるものとしては、山北地域と朝日地域の「奉納相撲」、村上地域と神林地域の「七夕」などが挙げられる。このほか信仰集団（「講」）としては「念仏講」が市全域でみられ、ほかに「古峰講」や「観音講」などもみられる。

民俗芸能としての民謡、言語伝承としての民話・伝説・方言は、各地域で伝承されているもの、記録として採集されているものがある。民謡には甚句、祝い歌（松坂、長持歌）、踊り歌（鳥刺し舞の歌、大黒舞の歌）、盆踊り歌（盆歌）、遊び歌（手まり歌、お手玉歌ほか）などがあり、甚句や盆踊り歌は現在も村上地域の祭礼行事や朝日地域の盆踊りで歌われている。

言語伝承としての民話や伝説も各地域に伝えられており、伝説には源頼義・源義家に関するもの（朝日地域）、源義経に関するもの（村上地域、神林地域、山北地域）、「雲上佐一郎公」に関するもの（朝日地域）などがある。方言は各地域で「〇〇弁」と称するものがあり、村上地域の「村上弁」は村上城下の中でも旧武家町と旧町人町で異なる「町ことば」として伝承・記録されている。

食文化では、伝統的な郷土料理が各地域にみられ、日常の食卓とともに伝統行事の料理としても親しまれている。特に鮭を用いた料理は村上地域ほか各地域でみられ、「鮭の塩引き」「いいずし」などが代表的なものとして挙げられる。また、山北地域ではアク笹巻き、赤カブなどの「灰の文化」によって作られた郷土料理が伝承されている。



細工町の「地蔵様」（村上地域）



漆山神社（源頼義・義家伝説）



一宮河内神社（雲上公伝説）



アク笹巻き

表 9 伝統行事の分布状況

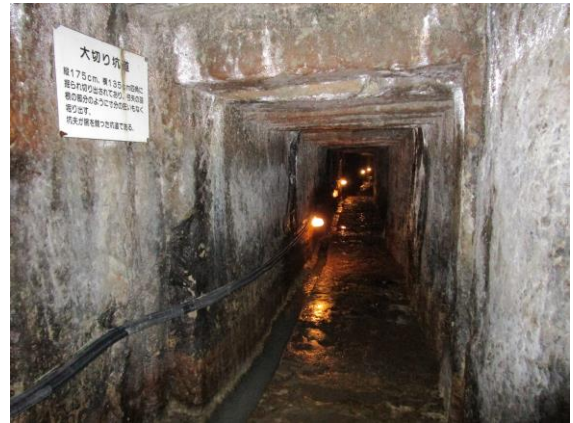
地域	地区	念仏講	太子講	秋葉講	古峰講	庚申講	鶴音講	羽黒講	伊勢講	えびす講	山の神講	大宮講	青森講	一統礼	さいの神	鳥追い	初午	虫送り	夏越	天王様	地藏様	馬流し	盆踊り	風祭	奉納相撲	舟流し	七夕	お祭廻縁	神遊び
村上																													
	村上	○		○	○	○									○		○		○							○			
	岩船	○								○					○						○					○			
	瀬波	○			○		○								○		○			○	○								
	山辺里	○			○	○	○						○	○	○	○	○		○	○	○	○	○						○
	上海府	○			○	○	○							○	○						○	○	○						
荒川																													
	俣内	○			○	○						○			○		○				○								
	金星	○												○	○						○							○	
神林																													
	神納	○			○		○							○	○						○	○							○
	神納東											○		○	○						○	○					○		○
	平林	○				○						○			○						○	○						○	
	砂山	○				○									○						○					○			○
	西神納	○			○							○			○						○					○			○
朝日																													
	館腰	○												○	○							○		○					
	三面	○					○				○			○	○						○	○							
	高根	○			○						○			○	○								○	○	○				
	猿沢	○			○									○	○								○	○	○	○			
	塩野町	○	○		○	○								○	○								○	○	○	○			
山北																													
	大川谷	○		○					○						○		○				○	○		○					
	中俣	○	○			○									○		○					○	○	○	○				
	黒川俣	○													○						○	○			○			○	
	八幡	○	○											○	○						○	○		○	○				
	下海府	○	○	○	○			○						○	○								○	○					

（４）記念物

〔遺跡〕

遺跡は城館跡や史跡で 51 件の所在を把握している。旧出羽道石畳は山北地域の大沢から朝日地域の蒲^ぶ萄^{どう}にかけての旧道に残る石畳で、大沢峠を越える区間約 2.5 キロメートルの間に江戸時代以前に敷かれた石畳が断続的に残っている。

鳴海^{なるみ}金山跡（朝日地域）は慶長 2 年（1597）の越後国郡絵図（瀬波郡絵図）に「高根金山」と記載された金山で、慶長 3 年（1598）に諸国から豊臣政権に納められた金のうち三分の一を産出した「越後国黄金山」の主体と推定されている。朝日地域には猿田金山や蒲^ぶ萄^{どう}鉛山、山北地域には大毎金山や大沢金山など慶長年間（1596～1615）から江戸時代初期にかけて操業していた鉱山が複数あり、鳴海金山やこれらの金山群が「越後国黄金山」を構成していた。また、蒲^ぶ萄^{どう}鉛山は江戸時代初期に佐渡金山へ大量の鉛を供給しており、三面川河口の瀬波町から鉛を移出した記録が当時の村上城主堀直^{なおより}が記した文書（堀家文書、新潟大学付属図書館所蔵）にみられる。



鳴海金山跡



魚付き保安林

〔名勝地、動物、植物、地質鉱物〕

名勝地は 22 件の所在を把握している。このうち 17 件は村上地域、神林地域、朝日地域、山北地域の寺院や民家の庭園である。

植物・地質鉱物は 22 件の所在を把握しており、高坪^{たかつぽやま}山のブナ（荒川地域）、魚付き保安林（村上地域）などがある。魚付き保安林は魚類の繁殖や保護を目的とした保安林で、三面川河口北側の一帯が範囲に指定されている。付近は江戸時代にも村上藩の「御留^{おとめやま}山」として立入が制限された場所であり、三面川的环境にも影響を与える大切な森林として保護されてきた。

（５）埋蔵文化財

埋蔵文化財（遺跡）は 661 件の所在を把握している。時代別にみると縄文時代が 269 件で最も多く、中世（鎌倉時代～室町時代）が 197 件、奈良・平安時代が 108 件となっている。遺跡の種別でみると遺物包含地が 378 件で、次いで板碑ほかの石造物 106 件、城館跡 55 件となっている。

縄文時代の遺跡は朝日地域、神林地域、村上地域に多く、三面川・門前川・石川・荒川流域の河岸段丘上、海沿いの海岸段丘に主にみられる。

中世の遺跡は主に石造物と城館跡で、石造物は神林地域 37 件、村上地域 27 件で鎌倉・南北朝時代から室町時代の板碑が多くみられる。城館跡は市全域でみられ、室町時代中期の館跡と室町時代後期の山城跡が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡は神林地域 53 件、荒川地域 32 件で、神林地域では旧岩船潟周辺、荒川地域では平野部微高地や自然堤防に集落跡が確認されている。

このほか、須恵器^{すえき}、鉄、瓦などの生産遺跡が村上地域、荒川地域、神林地域で確認されている。

表 10 埋蔵文化財の分布状況

地域	地区	原始			古代		中世	近世	不明	
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安				
村上										
	村上		2				16	1		19
	岩船			1	9	10	11		3	34
	瀬波		3			1	2		1	7
	山辺里		16			3	10		1	30
	上海府		19	1		4	5		4	33
		0	40	2	9	18	44	1	9	123
荒川										
	保内		15			13	14		3	45
	金屋		1	3	1	19	6		1	31
		0	16	3	1	32	20	0	4	76
神林										
	神納	1	35	1	1	9	22	1	7	77
	神納東		16	1	1	15	14		2	49
	平林	1	13			4	12	2	4	36
	砂山		2			12	12		2	28
	西神納			3	1	13	18			35
		2	66	5	3	53	78	3	15	225
朝日										
	館腰		15	2	1	2	11		8	39
	三面	1	31	1		1	2		1	37
	高根	3	47				9		2	61
	猿沢		11			1	8		1	21
	塩野町		15			1	5	1	1	23
		4	119	3	1	5	35	1	13	181
山北										
	大川谷		3	1			7	3		14
	中俣		7							7
	黒川俣		6				4			10
	八幡		1				3	1	1	6
	下海府		11				6	1	1	19
		0	28	1	0	0	20	5	2	56
		6	269	14	14	108	197	10	43	661

(6) 文化財の保存技術

文化財の保存技術として 11 件を把握している。江戸時代の村上城下では建築の技術が発達し、その技術を有する職人によって村上城下の社寺や武家住宅、町家が建築された。その技術は現在も行われている社寺や武家住宅の修理、町家の外観改修などにも受け継がれている。また、村上祭、瀬波祭、岩船祭に用いられる「しゃぎり屋台」の修理では建築、彫刻とともに漆工の技術が用いられている。

これらの技術を伝承することを目的として現在活動している古建築研究会には、主に村上地域で活動する大工、石工、建具、表具、製材、板金、漆工、塗装、瓦葺、畳、左官の技術者が所属しており、技術の向上に努めている。

3 関連する制度

(1) 日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として文化庁が認定するもので、ストーリーを語る上で欠かせない有形・無形の様々な文化財群を地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも積極的に発信していくことにより地域の活性化を図ることを目的としている。

このうち「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」は全国 52 自治体による広域型の日本遺産で、本市は令和 6 年 6 月に追加認定された。本市では、江戸時代後期以降に北海道と大坂の間を運行する北前船による廻船業が盛んになり、山北・上海府・瀬波・岩船・塩谷・海老江には廻船業関係者が多数存在した。現在も市内各地には港町の町並みや社寺に奉納された船絵馬などの歴史資料が残っており、これらが北前船日本遺産の構成文化財となっている。

【認定自治体（◎印は代表自治体）】

北海道（小樽市、石狩市、函館市、松前町）、青森県（野辺地町、鰺ヶ沢町、深浦町）、秋田県（能代市、男鹿市、秋田市、由利本荘市、にかほ市）、山形県（酒田市、鶴岡市）、新潟県（新潟市、佐渡市、長岡市、出雲崎町、上越市、村上市）、富山県（富山市、高岡市）、石川県（輪島市、志賀町、金沢市、白山市、小松市、◎加賀市）、福井県（坂井市、南越前町、敦賀市、小浜市、美浜町）、京都府（宮津市）、大阪府（大阪市、泉佐野市）、兵庫県（神戸市、高砂市、姫路市、たつの市、新温泉町、赤穂市、洲本市）、鳥取県（鳥取市）、島根県（浜田市）、岡山県（倉敷市、備前市、岡山市）、香川県（多度津町）、広島県（尾道市、竹原市、呉市）

【北前船日本遺産のストーリーの概要】

※以下、日本遺産ポータルサイト掲載「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」のストーリー

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

表 11 北前船日本遺産 村上市の構成文化財

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ
1	山北地域の船絵馬群(宝蔵寺船絵馬ほか)	市指定 (歴史資料)	北前船の船乗りたちが航海の安全を祈願して各社寺に奉納した船絵馬群
2	上海府地区の船絵馬群(早川寺船絵馬ほか)	一部市指定 (歴史資料)	北前船の船乗りたちが航海の安全を祈願して各社寺に奉納した船絵馬群
3	北前船係留杭跡	未指定	北前船を係留するために瀬波港(三面川河口)で使用された杭跡

4	ひよりやま ほうがくいし 日和山と方角石	未指定	北前船の船乗りたちが出港前に日和を見た場所で、方角石が現存する
5	瀬波の町並み(瀬波上町から 瀬波浜町)	未指定	村上城下の物資移送拠点としても栄えた瀬波町の町並み
6	瀬波祭	未指定	瀬波町にある西奈弥神社の祭りで、船を御神体として乗せた屋台が引き出される
7	やさか 八坂神社の船絵馬と和船模型	一部市指定 (歴史資料)	北前船の船乗りたちが航海の安全を祈願して江戸時代後期から明治時代に八坂神社に奉納した船絵馬と和船模型
8	岩船祭	県指定 (無形民俗)	港町として栄えた岩船町にある石船神社の祭りで、船を御神体として乗せた屋台が引き出される
9	はんだ け 伴田家資料	未指定	岩船町で江戸時代に庄屋を務めた伴田家に伝わる港関係資料
10	岩船の町並み(岩船地蔵町から 岩船縦新町)	未指定	港町の町並みで、港へ通じる狭い小路が多く残る
11	塩谷の町並み (塩谷1区から7区)	未指定	港町として栄えた塩谷町の町並みで、通り沿いに切妻屋根・妻入りの建物が並ぶ
12	のざわとよごろう 旧野澤豊五郎醸造醤油蔵	国登録有形 (建造物)	塩谷町で醸造業を営み、北前船で醤油を北海道へ販売していた野澤家の醸造蔵
131	みなと え ざ 塩谷港 絵図	市指定 (歴史資料)	北前船が寄港した塩谷港の江戸時代末期の様子を描いた絵図
14	野澤食品工業株式会社店舗 兼主屋	国登録有形 (建造物)	港町として栄えた塩谷で江戸時代に庄屋を務め、廻船業や醸造業を営んでいた野澤家の主屋
15	いなりやま ぼんしとやま 稲荷山(番所山)	未指定	塩谷港を管理する村上藩の番所が設置されていた場所
16	海老江港跡	未指定	北前船が寄港した海老江港の跡
17	海老江港関係資料	未指定	海老江港に関する江戸時代後期から明治時代の資料

本市の北前船寄港地は荒川河口の塩谷・海老江・桃崎(胎内市桃崎浜)、石川(岩船潟)河口の岩船、三面川河口の瀬波で、これらの場所を基点として小型～中型の廻船が活発に往来した。主な移入品は塩、綿、鉄、海産物など、主な移出品は米、酒、茶などで、鮭、身欠きニシン、数の子、塩マス、イカなどの海産物は荒川沿いの輸送ルートを通じて内陸部(山形県置賜地方、米沢)にも多く運ばれた。



北前船係留杭跡(村上地域)

北前船日本遺産の構成文化財は、山北地域から荒川地域に至るまでの海岸線沿いに船絵馬、海運関係の建造物、史跡などがある。このうち三面川河口に位置する瀬波には寄港した北前船を係留するために使用された杭跡が残されており、これらが江戸時代末期に船を引き入れるために設置された記録が瀬波町の古文書にみられる。

また、海老江は江戸時代前期までは村上藩領であったが江戸時代中期以降は幕府領となり、幕府領の米を中心に諸物資移出入の拠点となった。明治時代前期以降に荒川河口の水量が減少したため次第に港の機能が縮小し、大正時代末期に港としての役割を終えた。現在は川跡と海老江集落の間にみられる地形の段差から、往時の船着き場の様子がうかがえる。



海老江港跡（荒川地域）

（２）100 年フード

全国各地に存在する食文化のうち、豊かな自然風土や歴史に根差したもの、比較的新しいものであっても世代を超えて受け継がれ長く地域で愛されてきたものを「100 年フード」と名付け、地域の関係者や地方自治体が「100 年フード宣言」によって 100 年続く食文化として継承することを宣言し、未来へ継承する取組。認定の条件は以下の①～③を全て満たす食文化で、

- ①地域の風土や歴史・風習の中で個性を活かしながら創意工夫され、育まれてきた地域特有の食文化（全国一律の食材や加工食品ではなく、地域に根差したストーリーを持つ食文化）
- ②地域において、世代を超えて受け継がれ、食されてきた食文化（単に一人、一店による料理ではなく、地域の広がりの中で、二世世代以上に渡って継承され現存する食文化）
- ③その食文化を、地域の誇りとして 100 年を超えて継承することを宣言する団体が存在する食文化

これらを「伝統の 100 年フード部門 ～江戸時代から続く郷土の料理～」、「近代の 100 年フード部門～明治・大正に生み出された食文化～」、「未来の 100 年フード部門 ～目指せ、100 年！～」の三つのいずれかとして文化庁が認定している。

本市では「村上の鮭の食文化」が令和 4 年 3 月に「伝統の 100 年フード部門」で認定を受けている。



三面川の鮭



鮭料理

（３）伝統的工芸品

古くから生活用品として全国各地で独特の原材料や技術・技法により受け継がれてきた工芸品を「伝統的工芸品」として経済産業省が認定するもの。認定の条件は以下の①～⑤を全て満たすもので、

- ①主として日常生活の用に供されるもの
- ②製造過程の主要部分が手工業的であるもの
- ③伝統的な技術又は技法により製造されるもの
- ④伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるもの
- ⑤一定の地域で少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているもの

これらのうち伝統的工芸品産業の振興に関する法律（昭和 49 年法律第 57 号）に基づく経済産業大臣の指定を受けた工芸品をいう。

本市では村上木彫堆朱と羽越しな布が指定を受けており、村上木彫堆朱は「村上堆朱」として県指定無形文化財および国が選択する記録作成等の措置を講ずべき無形文化財にもなっている。また、羽越しな布は「越後のしな布紡織習俗」として国が選択する記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財にもなっている。



村上木彫堆朱

（４）村上市歴史的風致形成建造物

「歴史まちづくり法」に基づき実施する制度の一つで、市が「歴史的風致形成建造物」として指定することにより、指定や登録の歴史的建造物だけでなく、地域固有の歴史的風致を形成している歴史的建造物をより多く保存し、歴史的な町並みを保全することを目的としている。

「歴史的風致形成建造物」は、歴史的風致維持向上計画の重点区域内において、地域の歴史的な建造物であって歴史的風致を形成し、かつ、その歴史的風致の維持向上のために保全を図る必要がある建造物で、建造物の所有者の同意を得て村上市長が指定を行っている。

表 12 村上市歴史的風致形成建造物

番号	名称・所在地	区分	年代・構造
1	西奈彌羽黒神社境内摂社神明宮 (社殿) [羽黒町]	県指定 (建造物)	元禄 3 年 (1690) ・木造
2	^{たかおか け} 旧嵩岡家住宅 (主屋) [庄内町]	市指定 (建造物)	江戸後期 ・木造
3	^{いわま け} 旧岩間家住宅 (主屋) [庄内町]	市指定 (建造物)	江戸後期 ・木造
4	旧成田家住宅 (主屋) [新町]	市指定 (建造物)	江戸後期 ・木造
5	旧藤井家住宅 (主屋) [堀片]	市指定 (建造物)	江戸後期 ・木造
6	^{ふじもと} 藤基神社 (社殿・付属建造物) [三之町]	市指定 (建造物)	社殿：江戸後期 ・木造 付属建築物：江戸後期 ・木造

7	きつかわけ 吉川家住宅（主屋・店舗・土蔵） [大町]	国登録（有形）	主屋：明治25年(1892)以降・木造 店舗：明治25年(1892)以降・木造 土蔵：天保12年(1841)・木造
8	ますじんさけてん 益甚酒店（店舗・主屋・酒蔵・土蔵） [大町]	国登録（有形）	店舗：昭和7年(1932)・木造 主屋：明治25年(1892)・木造 酒蔵：明治25年(1892)・木造 土蔵：明治42年(1909)以前・木造
9	だいし 旧第四銀行村上支店長住宅（主屋） [小町]	国登録（有形）	昭和11年(1936)・木造
10	よしげん 割烹吉源（主屋・土蔵） [寺町]	国登録（有形）	主屋：昭和4年(1929)・木造 土蔵：昭和4年(1929)以前・木造
11	そうせんどう 早撰堂菓子店（主屋・西土蔵・東土蔵） [大町]	国登録（有形）	主屋：明治27年(1894)・木造 西土蔵：明治20年(1887)・木造 東土蔵：大正初期移築・木造
12	ギャラリーやまきち （主屋・土蔵・奥土蔵） [肴町]	国登録（有形）	主屋・土蔵：明治初期以前・木造 奥土蔵：昭和3年(1928)・木造
13	やまがみ 山上染物店（主屋） [肴町]	国登録（有形）	江戸後期から明治初期・木造
14	いづつや 井筒屋旅館（主屋） [小町]	国登録（有形）	明治末期・木造
15	ここのえん 九重園（店舗・座敷棟・古土蔵・新土蔵） [小国町]		店舗：宝暦12年(1762)以前・木造 座敷棟：大正8年(1919)・木造 古土蔵：明治29年(1896)・木造 新土蔵：明治29年(1896)・木造
16	宮尾酒造（主屋） [上片町]		文政2年(1819)・木造
17	きつかわしゅほ 吉川酒舗（主屋・土蔵・醤油蔵・入蔵） [肴町]		主屋：文政10年(1827)・木造 土蔵：嘉永2年(1849)・木造 醤油蔵：文政5年(1822)・木造 入蔵：天保14年(1843)以前・木造
18	てんや味噌醤油店（主屋・土蔵） [小国町]		主屋：大正6年(1917)・木造 土蔵：大正6年(1917)以前・木造
19	あんぜんじ 安善寺（山門） [小町]		正徳2年(1712)・木造 個人
20	かんのんじ 観音寺（山門・観音堂） [肴町]		山門：文政3年(1820)・木造 観音堂：正徳4年(1714)・木造
21	木村家住宅（主屋） [庄内町]		文久元年(1861)以前・木造
22	ときわえん 常盤園（主屋・西土蔵・東土蔵） [肴町]		主屋：明治初期・木造 西土蔵：慶応元年(1864)・木造 東土蔵：明治初期・木造
23	まごそう 孫惣刃物鍛冶店（主屋） [鍛冶町]		江戸後期・木造

24	益田甚兵衛酒店（店舗・座敷棟・新座敷棟・土蔵・酒蔵） [塩町]		店舗：大正 8 年(1919)・木造 座敷棟：大正 8 年(1919)以前・木造 新座敷棟：昭和 9 年(1934)・木造 土蔵：明治 7 年(1874)・木造 酒蔵：明治 19 年(1886)・木造
25	大川屋製材所（主屋・土蔵） [塩町]		主屋：大正 10 年(1921)・木造 土蔵：明治 42 年(1909)・木造
26	一ギ矢部茶店（主屋）[小国町]		明治 31 年(1898)・木造
27	旧渡辺家住宅（主屋）[鍛冶町]		昭和 7 年(1932)・木造
28	九品仏（上品上生仏）[羽黒町]	市指定（歴史資料）	宝暦 9 年(1759)・石造
29	九品仏（上品中生仏）[羽黒町]	市指定（歴史資料）	宝暦 10 年(1760)・石造
30	九品仏（上品下生仏）[羽黒町]	市指定（歴史資料）	宝暦年間・石造
31	九品仏（中品下生仏）[大町]	市指定（歴史資料）	宝暦年間・石造
32	九品仏（下品上生仏）[塩町]	市指定（歴史資料）	宝暦年間・石造
33	九品仏（下品中生仏）[庄内町]	市指定（歴史資料）	宝暦 10 年(1760)・石造
34	九品仏（下品下生仏）[上片町]	市指定（歴史資料）	宝暦 10 年(1760)・石造
35	山口家住宅（主屋・門） [飯野一丁目]		主屋：江戸後期・木造 門：江戸後期・木造
36	大竹家・轟家住宅（主屋） [新町]		江戸後期・木造
37	やすらぎ処石亀（主屋・土蔵） [安良町]		主屋：寛政 3 年(1791)・木造 土蔵：明治 8 年(1875)・木造
38	ゑびす屋土蔵（土蔵）[肴町]		明治後期・木造
39	旧細野家住宅（主屋）[小国町]		大正 14 年(1925)・木造
40	観音寺（庫裡・石段・古峯神社） [肴町]		庫裡：明治 7 年(1874)・木造 石段：江戸中期・石造 古峯神社：大正 15 年(1926)・木造
41	旧石田園（前の蔵・次の蔵・製茶場・茶箱蔵・味噌蔵・離れ） [上片町]		前の蔵：弘化 4 年(1847)・木造 次の蔵：明治 7 年(1874)・木造 製茶場：明治 43 年(1910)以前・木造 茶箱蔵：明治 15 年(1882)・木造 味噌蔵：大正 9 年(1920)・木造 離れ：昭和前期・木造

42	きょうりつ 旧共立鉄工所（中央棟・西棟・東棟） 〔鍛冶町〕		中央棟：明治 20 年(1887)以前・木造 西棟：年代不明・木造 東棟：明治 20 年(1887)以前・木造
43	須藤家住宅（主屋）〔庄内町〕		明治 32 年(1899)・木造
44	こうしんどう 庚申堂（本堂・仁王門・経蔵・参道） 〔片町〕		本堂：安政 6 年(1859)・木造 仁王門：享保 8 年(1723)・木造 経蔵：明治 20 年(1887)・木造 参道：安政 6 年(1859)・石造
45	ふじみえん 富士美園（旧製茶工場）〔長井町〕		大正 11 年(1922)・木造
46	さいほういん 西寶院（観音堂）〔肴町〕		昭和 11 年(1936)・木造
47	西奈弥羽黒神社（社殿・石段・二の鳥居・手水舎） 〔羽黒町〕		社殿：明治 44 年(1911)以前・木造 石段：明治 15 年(1882)・石造 二の鳥居：明治 15 年(1882)以前・石造 手水舎：明治 15 年(1882)・木造
48	茶館きっかわ ^{かもんてい} 嘉門亭（主屋） 〔大町〕		主屋：明治 25 年(1892) 木造
49	いせしんめいしゃ 伊勢神明社（社殿・鳥居・古峯神社） 〔小町〕		社殿：大正 10 年(1921)・木造 鳥居：昭和 2 年(1927)・石造 古峯神社：昭和初期・木造
50	いしわら 石原稲荷大明神（社殿・鳥居） 〔石原〕		社殿：明治 12 年(1879)・木造 鳥居：昭和 12 年(1937)・石造
51	吉田家住宅（主屋）〔塩町〕		昭和 15 年(1940)・木造

※No.28～No.34 の九品仏は重点区域内にある 7 体を指定（九品仏 9 体のうち 2 体は重点区域外にあり）

上記のうち、旧渡辺家住宅は昭和 9 年に現在地に移築された町家で、移築前は旧村上城下の塩町にあった建物である。木造 2 階建、瓦葺き、外壁下見板横張り、平成 9 年（1997）に所有者から村上市へ寄附され、その後村上古建築研究会による建物調査が行われた。平成 11 年（1999）に改修工事が行われ、以後は集会施設（高齢者福祉関係施設）として活用されてきた。平成 24 年（2012）には外観改修工事、令和 2 年（2020）には外観および内部改修工事が行われ、令和 5 年（2023）からは観光案内所として活用されている。



旧渡辺家住宅

伊勢神明社は小町にある神社で、村上七夕祭に関係する神社である。伊勢神明社の起源は、寛文 2 年（1662）に伊勢国から村上城下へ伊勢神宮の大麻頒布^{たいま}に来ていた福田興好^{ふくだおきよし}が社殿を造営し、天照皇大神を遷座したと伝えられている。現在の社殿は大正時代に建築されたもので、村上七夕祭では祭に参加する 19 町の屋台が伊勢神明社でお祓いを受け、社殿前では各町の獅子舞が奉納される。

第3章 村上市の歴史文化の特徴

1 村上市の歴史文化の概要

本市では飯豊・朝日山系に源を発する三面川・荒川をはじめとした河川の下流域に広がる平野部や、南北に長い海岸部、山地部の川沿いに集落が形成され、自然・地理的な特性を活かした営みが各地域で生まれた。

主に川沿いや山地部で先史時代から古代にかけての遺跡が多く確認されており、縄文時代と弥生時代の遺跡から出土した遺物から、本市付近が当時から東北系・北陸系の双方の文化が交わる地域であったことがうかがえる。古代には古墳を築造する力がある在地勢力が存在したことなどから、本地域に大和朝廷の北方政策の拠点である「磐舟柵」が設置されたと考えられる。

平安時代後期には国衙領「荒川保」のほかに荘園「小泉荘」が形成され、鎌倉時代以降に「荒川保」の地頭職に任命された河村氏、「小泉荘」の地頭職に任命された秩父氏がそれぞれ現地へ下向して支配力を強めた。秩父氏の子孫はのちに本庄氏・色部氏を称して国人領主に成長し、室町時代後期には域内の支配拠点となる色部氏の平林城や本庄氏の村上城などの城館が整備され、城館の周辺には町や村が形成された。

江戸時代に入ると、本市の域内にある町や村は村上城主の領地となり、領内は組分けされ各組の大庄屋が組内の町や村を統括した。江戸時代中期に村上城主の石高が減少したのち領内は村上藩領、幕府領その他に分割されたが、村上藩領では江戸時代前期に形成された組分けがその後も継承され、その地域的なつながりは明治時代の町村制で成立する町や村の範囲にも影響した。現在の町や集落の多くは中世または江戸時代からの古い歴史を有しており、各地域の区分もこれらの歴史的経緯をもとに成立している。

村上城は地域の拠点となり、整備された城下町では特有の技術や文化が発達した。村上城下から各地へつながる陸路と日本海の海路は密接に交わり、各地との間で経済、文化の活発な交流が行われた。村上城下をはじめとして地域内では商人、職人、宗教者、芸能者などが往来し、宗教者の往来によって多様な庶民信仰も発達した。

海路の基点となった港は海老江・塩谷・岩船・瀬波で、江戸時代中期以降は全国的な海運の発展に伴い港を通じて多様な移出品（米、酒、海産物、村上茶、干鰯など）、移入品（米穀、油、塩、木綿、鉄など）が流通した。

海・山・川の特有の自然を活かした生業も形成され、これらの産物も陸路と海路を通じて地域外へもたらされた。しな布織り、鮭漁、村上木彫堆朱、村上茶は現在まで伝えられ、これらは本市を代表する伝統産業となっている。

江戸時代における各地との交流は伝統行事の成立



高平遺跡出土品（村上地域）



村上七夕祭の獅子舞（村上地域）

にも影響を与え、各地域の獅子舞、神楽、三匹獅子踊りの芸能には越後国外からの来訪者によって伝えられた事例が複数みられる。また、祭屋台を用いる行事でも屋台の乗せ物や幕を京都で作成した事例が多くみられ、陸路と海路を通じた交流でもたらされた精神的・物質的な文化は地域の自然と生活から生まれた信仰と結びつき、伝統行事の多様性を生み出している。

本市の歴史文化の背景は豊かな自然に育まれた人々の生活であり、各地との交流によってもたらされた文化が人々の生活と結びつき、固有の歴史が生み出されたといえる。

2 村上市の歴史文化の特徴

本市に分布する文化財は各地域で営まれてきた生活の痕跡であり、それらは有形・無形の多様な形で残されている。各地域の文化財には、縄文時代の遺跡や戦国時代の城館跡などで同種別・同時代のもの、石造物や伝統行事などで同種別でも時代・形態が異なるもの、山間部や川沿いの生業などで伝承地域が限定されているものがあり、これらが重なり合って分布している。このため、各地域の歴史文化の特徴も複数の要素で構成され、かつ、他地域と共通する要素を多く含むものとなっている。

ここでは、各地域の歴史的な変遷と文化財の分布状況を踏まえ、本市の歴史文化の特徴を以下6つの視点で整理した。

〔特徴1〕

「奥三面遺跡群や山元遺跡などの遺跡が伝える先史時代～古代の暮らし」

先史時代～古代には、三面川・荒川ほか河川流域の河岸段丘上や自然堤防上、平野部の小丘陵上や砂丘内陸部、海岸部の海岸段丘上などに集落が形成された。これらの集落では山、川、海の恵みを生かした狩猟、採集、漁労によって生活が営まれ、自然と共生した生活の痕跡は各地域で縄文時代から弥生時代、古代の遺跡として多く確認されている。

縄文時代の遺跡（奥三面遺跡群、高平遺跡、上野遺跡ほか）、弥生時代の遺跡（山元遺跡、砂山遺跡、滝の前遺跡ほか）の出土遺物には、東北地方と北陸地方の文化の影響を受けた土器が多くみられ、本市付近が当時から北方（東北地方）・西方（北陸地方）の双方の文化が交わる地域であったことがうかがえる。また、弥生時代の山元遺跡は国内最北の高地性環濠集落であり、西日本文化の影響がうかがえる希少な遺物も出土している。

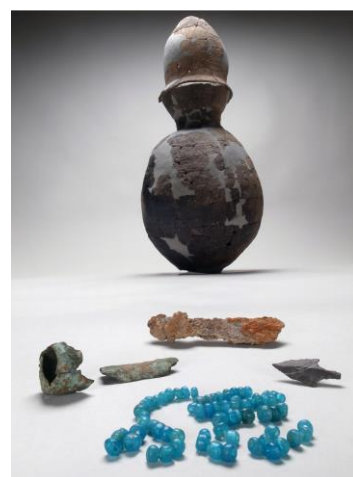
古墳時代の磐舟浦田山古墳群が築造された浦田山丘陵とその周辺には古墳時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が多くみられ、浦田山丘陵付近は古代政権によって設置された「磐舟柵」の比定地の一つにもなっている。

◎キーワード：奥三面遺跡群、高平遺跡、山元遺跡、
磐舟浦田山古墳群、磐舟柵

〔特徴2〕

「平林城跡・大葉沢城跡などの遺跡が伝える中世の町、村」

中世前期に形成された国衙領「荒川保」や荘園「小泉荘」では、地頭職に任命された河村氏、秩父氏がそれぞれで現地支配の力を強め、域内には支配地の拠点となった城館が築かれた。三面川や荒川の流域、旧岩船潟の周辺など水運に適した場所に町や村が形成され、定期的に市場も開かれた。その痕跡は「三日市」、「九日市」などの地名として残り、それ



山元遺跡出土品

らが石造物や経塚、集落跡などの中世遺跡、古文書とともに中世の歴史を現在に伝えている。

また、室町時代（馬場館跡、大館遺跡ほか）から戦国時代（村上城跡、平林城跡、大葉沢城跡、大川城跡ほか）にかけての城館跡も各地域に分布し、国人領主が割拠した戦国時代の様子を現在に伝えている。

◎キーワード：馬場館跡、里本庄の経塚、平林城跡、大葉沢城跡、大川城跡、村上城跡



大葉沢城跡

〔特徴3〕

「村上城と城下町の文化」

江戸時代に入ると村上城と城下町が域内の拠点となり、城下町の周辺には町・村とともに村上城主が支配する領地が形成された。江戸時代初めに整備された城下町の形は明治時代以降も城跡、旧武家町、旧町人町、旧寺町として残り、現在も村上地域の中心市街地を形成している。

村上城下は街道（浜通り、三国街道中通り、出羽街道）の基点となり、海路からも城下に近い瀬波や岩船の港を通じて人が活発に往来し、交流によって他地域から多くの文化がもたらされた。その影響を受けて村上城下町では建築、工芸技術、食（鮭、酒、茶、和菓子ほか）、行事（村上祭、村上七夕祭、初午^{はつうま}、地藏盆ほか）など独自の文化が発達した。建造物は城下町の歴史を伝える武家住宅、社寺、町家として残り、江戸時代に生まれた工芸技術や食、行事とともに受け継がれている。



藤基神社社殿（村上大工の技術）

◎キーワード：村上城跡、城下町の町並み、村上祭、村上七夕祭、三面川の鮭、村上茶、村上木彫堆朱

〔特徴4〕

「海と陸、北前船寄港地や出羽街道・米沢街道を通じた交流」

各地との交流を示す痕跡は、古くは縄文時代の奥三面遺跡群のほか各地域の遺跡から出土した黒曜石やヒスイ、弥生時代の山元遺跡から出土したガラス小玉・青銅器などがあり、古墳時代の磐舟浦田山古墳群も石室の築造技法は若狭（福井県）や佐渡の古墳との共通性が指摘されている。

江戸時代に日本海の海上交通ルートが整備されると、本市でも海岸部の港（海老江、塩谷、岩船、瀬波）が海運・物流の基点となり、江戸時代後期から明治時代まで北前船による交易が活発に行われた。海路は港



三面川河口と瀬波

を經由して陸路（浜通り、三国街道中通り、出羽街道、米沢街道、その他間道）とつながり、人、文化、物資の交流が盛んに行われ、北前船の歴史を示す町並みや歴史資料、陸路での交流の痕跡を示す道標や史跡、民俗芸能などが各地に残されている。

◎キーワード：北前船の寄港地、浜通り、三国街道中通り、出羽街道、米沢街道

〔特徴5〕

「豊かな自然が育んだ三面川・大川の鮭漁、『灰の文化』などの生業」

各地域の自然条件を活かし、平野部では農業（稲作・畑作など）、海岸部では漁業や製塩、川沿いでは川漁（大川のコード漁、三面川の居繰り網漁など）、山間部では焼畑や紡織、狩猟などの生業が営まれてきた。三面川では伝統漁法とともに鮭に対して「イヨボヤ（魚の中の魚という意味）」の呼称があり、鮭を大切なものとする地域固有の「鮭の文化」が伝えられている。

また、山北地域には「灰の文化」が残り、焼畑による赤カブづくり、灰で作った「灰汁」で作るアク笹巻きが伝承されている。これらの生業とその技術は現在まで受け継がれ、鮭・茶・漆などが本市の主な伝統産業となっている。



大川のコード漁

◎キーワード：三面川の鮭漁、大川のコード漁、山北の「灰の文化」、鮭料理、村上茶、村上木彫堆朱

〔特徴6〕

「村上祭の屋台行事、三匹獅子踊りなどの多様な伝統行事」

各地域で自然と生活から生まれた信仰に基づく様々な行事が伝えられている。旧城下町を中心とした祭屋台行事（村上祭、岩船祭、瀬波祭、村上七夕祭）、三匹獅子踊り（荒川地域、神林地域、山北地域）、獅子舞、神楽などの芸能を伴う行事、五穀豊穡の祈りを込めた行事（山北のボタモチ祭り、山北地域・朝日地域の奉納相撲）など、多様な伝統行事が伝承されている。伝統行事は地域の様々な活動の中でも中心的な位置を占めており、行事の存在が住民の精神的な支柱となっている。

◎キーワード：村上祭、瀬波祭、岩船祭、村上七夕祭、山北のボタモチ祭り、荒川地域・神林地域・山北地域の三匹獅子踊り



瀬波祭

表 13 村上市の歴史文化の特徴と概要・キーワード

特徴 1	「奥三面遺跡群や山元遺跡などの遺跡が伝える先史時代～古代の暮らし」	
	概要	先史時代～古代の遺跡は自然と共生した生活の痕跡であり、縄文時代の奥三面遺跡群、弥生時代の山元遺跡、古代の浦田山古墳群などの遺跡は、本市付近が北方（東北地方）・西方（北陸地方）の双方の文化が交わる地域であったことも示している。
	キーワード	奥三面遺跡群、高平遺跡、山元遺跡、磐舟浦田山古墳群、磐舟柵
特徴 2	「平林城跡・大葉沢城跡などの遺跡が伝える中世の町、村」	
	概要	中世の町や村の痕跡は室町時代の馬場館跡、戦国時代の平林城跡や大葉沢城跡などの遺跡のほか地名や石造物などとして今も身近な場所にあり、生活と信仰の形とともに中世の歴史を現在に伝えている。
	キーワード	馬場館跡、里本庄の経塚、平林城跡、大葉沢城跡、大川城跡、村上城跡
特徴 3	「村上城と城下町の文化」	
	概要	村上城と城下町は江戸時代の地域の拠点であり、城下町の道や地割りの形は現在も受け継がれている。城下町で発達した漆工や木工の技術、鮭の食文化、村上祭などの伝統文化は、現在も地域の生活の一部となっている。
	キーワード	村上城跡、城下町の町並み、村上祭、村上七夕祭、三面川の鮭、村上茶、村上木彫堆朱
特徴 4	「海と陸、北前船寄港地や出羽街道・米沢街道を通じた交流」	
	概要	海の道、陸の道は村上城下や海岸部の港を基点としてつながり、人と物資の交流とともに他地域から多くの文化がもたらされた。港町の町並みや街道沿いに残る文化財が、海と陸を通じた交流の歴史を伝えている。
	キーワード	北前船の寄港地、浜通り、三国街道中通り、出羽街道、米沢街道
特徴 5	「豊かな自然が育んだ三面川・大川の鮭漁、『灰の文化』などの生業」	
	概要	豊かな自然が育んだ生業は三面川・大川の「鮭の文化」、山北地域の「灰の文化」など、現在もその技術とともに受け継がれ、伝統産業として地域の生活を支えている。
	キーワード	三面川の鮭漁、大川のコド漁、山北の「灰の文化」、鮭料理、村上茶、村上木彫堆朱
特徴 6	「村上祭の屋台行事、三匹獅子踊りなどの多様な伝統行事」	
	概要	自然に対する信仰や生活の中の祈りは時代とともに変化しながら多様な伝統行事として受け継がれ、村上祭や三匹獅子踊りなどの行事は生活の一部となり、地域の人々を結び付ける大切な存在となっている。
	キーワード	村上祭、瀬波祭、岩船祭、村上七夕祭、山北のボタモチ祭り、荒川地域・神林地域・山北地域の三匹獅子踊り

第4章 文化財の調査の現状

1 文化財に関する既存調査の概要

市全域を対象とした調査が実施されている種別は書跡・典籍、古文書、考古資料、無形の民俗文化財、遺跡で、このほか建造物は市全域を対象とした近世社寺建築調査、旧村上城下を対象とした武家住宅や町家などの歴史的建造物調査が実施されている。また、歴史資料は自治体史編さんに伴う所在確認調査や地元研究者による各地域での調査が実施されている。

文化財の類型別での調査状況は以下のとおりとなっている。

表 14 域内文化財の調査状況

文化財の類型／地域			山北地域	朝日地域	村上地域	神林地域	荒川地域
有形文化財	建造物		△	△	○	△	△
	美術 工 芸 品	絵画	△	△	△	△	△
		彫刻	△	△	△	△	△
		工芸品	△	△	△	△	△
		書跡・典籍	○	○	○	○	○
		古文書	○	○	○	○	○
		考古資料	○	○	○	○	○
		歴史資料	△	△	○	△	○
無形文化財			○	△	○	△	△
民俗文化財	有形の民俗文化財		△	△	○	△	△
	無形の民俗文化財		○	○	○	○	○
記念物	遺跡		○	○	○	○	○
	名勝地		△	△	△	△	△
	動物・植物・地質鉱物		△	△	△	△	△
文化的景観			×	×	×	×	×
伝統的建造物群			×	×	△	×	×
埋蔵文化財包蔵地			○	○	○	○	○
文化財の保存技術			×	×	△	×	×

○：調査済み，△：調査一部実施，×：調査未実施，－：該当無し

（１）有形文化財

〔建造物〕

新潟県による近世社寺建築緊急調査および近代化遺産総合調査など、一部特定の物件を対象とした調査が実施されているが、全域を対象とした総合的な歴史的建造物の所在確認調査は実施されていない。村上地域の旧村上城下町地区では、村上市歴史的風致維持向上計画に基づく歴史的風致形成建造物指定制度が導入され、旧村上城下の町人町地区では地区内全域を対象とした歴史的建造物の分布調査・残存調査が実施されている。

〔絵画、彫刻、工芸品〕

いずれも全域を対象とした所在確認調査は実施されておらず、旧市町村で実施された文化財調査で把握された物件以外にも社寺や個人が所有する未把握の物件が相当数あるものと思われる。

〔書跡・典籍、古文書〕

旧市町村で実施された県史・自治体史編さんに伴う所在確認調査、歴史的文書の所在確認調査によって市全域で所在がほぼ把握されているが、調査時に把握されていなかった物件の追加調査は実施されていない。このほか、研究者・研究機関によって一部特定の物件を対象とした調査が実施されている。

〔歴史資料〕

歴史資料は各地域で多様なものが把握されているが、全域を対象とした所在確認調査は実施されていない。歴史資料のうち、石造物は村上地域と荒川地域で所在確認調査が実施されている。

（２）無形文化財

全域を対象とした調査は実施されていないが、旧市町村で能楽（大須戸能）や工芸技術（しな布の紡織技術、村上堆朱）を対象とした調査が実施されている。

（３）民俗文化財

〔有形の民俗文化財〕

旧市町村による自治体史編さんに伴い概ね所在が確認されているが、社寺や個人が所有する物件を含めた全域を対象とした所在確認調査は実施されていない。

〔無形の民俗文化財〕

旧市町村による自治体史編さんに伴い概ね所在が確認されている。無形民俗文化財のうち、祭屋台を伴う祭礼行事については新潟県による^{だし}山車調査、市による村上祭調査が実施されており、それぞれ報告書が刊行されている。令和６年度からは新潟県による祭り・行事調査によって屋台行事を含めた祭り行事の総合的な把握調査が進められている。

（４）記念物

〔遺跡〕

遺跡は県、旧市町村による埋蔵文化財の分布調査、確認調査、発掘調査によって全域で所在が確認されているが、未発見の遺跡が工事中に発見される事例もみられる。遺跡の発掘調査の成果は、県、旧市町村および現在の市によって調査報告書として刊行されているものが多くある。

〔名勝地、動物・植物・地質鉱物〕

名勝地、動物・植物・地質鉱物は概ね所在が確認され、国の名勝・天然記念物の笹川流や国の天然記念物の筥堅八幡宮社叢などの一部地域では旧山北町、いわふね自然愛好会ほか研究団体によって詳

細調査が実施されている。

このほか、歴史的な道に関するものとして旧新発田城下から村上城下に至る「^{みくに}三国街道(中通り)」、新潟町から海岸線沿いに村上城下に至る「浜通り」、村上城下から出羽庄内に至る「出羽街道」、荒川沿いに出羽米沢に至る「米沢街道」の歴史の道調査が平成時代前期に新潟県によって実施されている。

(5) 文化的景観

調査が実施されておらず、文化的景観に該当する物件は確認されていない。

(6) 伝統的建造物群

旧村上城下の武家町地区では平成 2 年度に伝統的建造物群の保存対策調査が市によって実施されている。また、旧村上城下の町人町地区では平成 14 年度に財団法人日本ナショナルトラストによって村上の町家と町並み景観に関する観光資源保護調査が実施されている。

(7) 埋蔵文化財

遺跡は全域で県、旧市町村による埋蔵文化財の分布調査、確認調査、発掘調査によって所在が確認されているが、未発見の遺跡が工事中に発見される事例もみられている。遺跡の発掘調査の成果は、旧市町村、現在の市、県によって調査報告書として刊行されているものが多くある。

2 文化財に関する調査の課題と方針

有形文化財は、建造物の把握調査が村上地域で旧村上城下町地区を中心に実施されているが、他の地域では近世社寺ほか一部の対象以外の把握調査は実施されていない。絵画、彫刻、工芸品は一部の社寺や個人が所有する物件が把握されているのみで、市全域を対象とした把握調査は実施されていない。書跡・典籍、古文書、考古資料は市全域で把握調査が実施されており、歴史資料は村上地域で把握調査が実施されているが他の地域では実施されていない。歴史資料のうち、石造物については村上地域と荒川地域で把握調査が実施され、神林地域、朝日地域、山北地域では地域内の一部で把握調査が実施されている。

無形文化財は、村上地域と山北地域で把握調査が実施されており、他の地域では地域内の一部で把握調査が実施されている。

民俗文化財は、有形の民俗文化財の把握調査は村上地域で実施されているが、他の地域では地域内の一部で把握調査が実施されている。無形の民俗文化財の把握調査は市全域で実施されている。

記念物は、遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の把握調査は市全域で実施されているが、名勝地、動物・植物・地質鉱物の把握調査は各地域ともに地域内の一部で調査が実施されている。

文化的景観は把握調査が実施されておらず、伝統的建造物群と文化財の保存技術は村上地域の一部で把握調査が実施されている。

これらの状況を踏まえ、今後の調査の実施に関しては以下の項目を主な方針とし、各地域内の未指定文化財を主とした物件の把握、確認を進めるものとする。

調査未実施分野、地域の文化財把握の実施

- ・美術工芸品（主に絵画、彫刻、工芸品）の把握調査
- ・調査未実施分野、地域での把握調査

これまでの調査で把握されていなかった文化財の追加把握

- ・書跡・典籍、古文書、歴史資料、有形の民俗文化財などについての追加調査

これまでの調査で把握された文化財の現況確認

- ・書跡・典籍、古文書、歴史資料、有形の民俗文化財などの現況確認調査

劣化、変容、休止が危惧される文化財の記録

- ・無形の民俗文化財（伝統行事）の映像撮影
- ・文化財関係者への取材（録画、録音）

表 15 既往調査の報告書

文化財の種類		書籍名	刊行者（調査主体）	刊行年	対象地域
有形文化財	建造物	新潟県の近世社寺建築 新潟県近世社寺建築緊急調査報告書	新潟県教育委員会	昭和60年3月	全域
		重要文化財若林家住宅修理工事報告書	財団法人文化財建造物 保存技術協会	平成元年1月	村上
		新潟県の近代化遺産 日本近代化遺産総合調査報告書	新潟県教育委員会	平成6年3月	村上
		歴史的建造物残存状況調査	村上市	平成27年	村上
	絵画				
	彫刻工芸品				
	書跡・典籍	霊樹山耕雲寺六百年誌	耕雲寺（鈴木鉦三 編）	平成7年7月	村上
	美術工芸品 古文書	新潟県史資料目録	新潟県教育委員会		全域
		村上町年行事所日記(1)～(16)	村上古文書刊行会、 村上史学会	平成3年～令和5年	村上
		越後岩船町の資料Ⅰ	村上市岩船地区区長会	平成3年	村上
		瀬波町御用日記帳（一）～（三）	瀬波北前船研究会	令和5年～令和7年	村上
		荒川町古文書目録	荒川町教育委員会		荒川
		色部史料集	新潟史学会	昭和43年11月	神林
		越後国人領主色部氏史料集	神林村教育委員会	昭和54年3月	神林
		新潟県岩船郡神林村塩谷 奈良橋家文書・野沢家文書史料集	筑波大学村落史研究会	平成6年	神林
		近世平林町と越後荒川の世界	原直史	平成21年	神林
		近代岩船郡と平林木村家文書	芳井研一 編	平成22年	神林
		山北町史資料目録	山北町	昭和62年9月	山北
	歴史資料	村上地方の石仏・石造物と信仰	松山勝彦	令和2年	全域
無形文化財		新潟県の諸職	新潟県教育委員会	平成元年	全域
民俗文化財	有形の民俗文化財	山に生かされた日々 新潟県朝日村奥三面の生活誌	「山に生かされた日々」 刊行委員会	昭和59年	朝日
		重要有形民俗文化財指定記念誌 越後奥三面の山村生産用具図録	朝日村教育委員会	平成20年1月	朝日

文化財の種類		書籍名	刊行者（調査主体）	刊行年	対象地域
民 俗 文 化 財	無形の 民俗文化財	越後の風流獅子踊り	新潟県教育委員会	昭和56年3月	全域
		新潟県の民謡 民謡緊急調査報告書	新潟県教育委員会	昭和61年3月	全域
		新潟県の山車	新潟県	昭和62年3月	全域
		新潟県の民俗芸能	新潟県	平成9年3月	全域
		村上まつりのしゃぎり行事総合調査報告書	村上市	平成28年3月	村上
		山北のボタモチ祭り	山北町教育委員会	平成3年3月	山北
	その他	令和六年城下町村上の子ども行事歳時記	松山勝彦	令和6年10月	村上
		新潟大学民俗調査報告書第21集 桃川の民俗 新潟県村上市桃川	新潟大学人文学部 民俗学研究室	平成27年3月	神林
		木村家の養蚕業 養蚕・蚕種・製糸	飯島康夫・中村元 編	平成30年	神林
		朝日村文化財報告第2集 朝日村の民俗Ⅰ（高根・塩野町地区）	朝日村教育委員会	昭和52年3月	朝日
		朝日村文化財報告第3集 朝日村の民俗Ⅱ（館腰・三面・猿沢地区）	朝日村教育委員会	昭和53年9月	朝日
		越後朝日村の方言	朝日村教育委員会	昭和56年3月	朝日
		新潟大学民俗調査報告書第23集 布部の民俗 新潟県村上市布部	新潟大学人文学部 民俗学研究室	平成29年3月	朝日
		山北町の民俗（1～5）	山北町教育委員会	昭和60年～平成元年	山北
		山北町民俗論集（1～3）	山北町教育委員会	平成3年～平成5年	山北
記 念 物	遺跡	新潟県遺跡分布図	新潟県	昭和	全域
		新潟県中世城館跡等分布調査報告書	新潟県	昭和62年	全域
	歴史の道	新潟県歴史の道調査報告書第8集 三国街道（中通り）	新潟県教育委員会	平成7年3月	荒川・神林・村上
		新潟県歴史の道調査報告書第10集 浜通り・出羽街道	新潟県教育委員会	平成8年3月	村上・朝日・山北
		新潟県歴史の道調査報告書第11集 会津街道・米沢街道	新潟県教育委員会	平成9年3月	荒川
	名勝地	新潟県文化財調査年報 第25 新潟県の庭園（下越・佐渡地区）	新潟県教育委員会	昭和63年度	全域
	動物、植物、 地質鉱物	地域調査報告書第3集 村上・岩船の植物 柴田治先生植物遺稿集	いわふね自然愛好会	平成25年9月	全域
		浦田山丘陵の自然 浦田山丘陵自然総合調査報告書	いわふね自然愛好会	平成21年9月	村上
		地域調査報告書第2集 臥牛山の自然 新潟県村上市臥牛山自然総合調査報告書	いわふね自然愛好会	平成23年9月	村上
		地域自然調査報告書第7集 瀬波海岸の自然 新潟県村上市瀬波海岸自然調査報告書	いわふね自然愛好会	令和3年12月	村上
		高坪山の自然 新潟県村上市高坪山自然調査報告書	高坪山の自然に親しむ会	令和5年	荒川
		平林城跡の植物図鑑	神林村教育委員会	昭和61年	神林
		地域自然調査報告書第5集 要害山の自然 新潟県村上市要害山自然調査報告書	いわふね自然愛好会	平成28年9月	神林
		地域自然調査報告書第6集 大池の自然 新潟県村上市お幕場大池自然調査報告書	いわふね自然愛好会	平成31年3月	神林

文化財の種類		書籍名	刊行者（調査主体）	刊行年	対象地域
記念物	動物、植物、地質鉱物	地域自然調査報告書第8集 塩谷海岸の自然 アカハネバツタ保全に関する調査検討業務報告書	いわふね自然愛好会	令和 5 年3月	神林
		早稲田里山の自然と歴史 新潟県村上市早稲田「里山」自然調査報告書	早稲田里山研究会	平成30年3月	朝日
		宮堅八幡宮社叢の植物	山北町教育委員会	平成6年1月	山北
		笹川流れの動物 新潟県村上市名勝及び天然 記念物笹川流れ動物調査報告書	いわふね自然愛好会	平成25年3月	山北
		地域自然調査報告書第4集 笹川流れの自然 新潟県村 上市名勝及び天然記念物笹川流れ自然調査報告書	いわふね自然愛好会	平成26年9月	山北
伝統的建造物群		越後村上城下町 伝統的建造物群保存対策調査報告書	村上市・村上市教育委員会	平成3年3月	村上
		平成14年度観光資源保護調査 村上の町家と町並み景観	財団法人 日本ナショナルトラスト	平成15年3月	村上
埋蔵文化財		(旧市町村および村上市による各種発掘調査報告書)			全域
市町村史		村上市史 資料編 1 ～ 9	村上市	昭和63年～平成6年	村上
		村上市史 民俗編上巻・下巻	村上市	平成元年～平成2年	村上
		村上市史 通史編 1 ～ 4	村上市	平成11年2月	村上
		荒川町郷土史	荒川町	昭和49年	荒川
		荒川町史 資料編 1 ～ 8	荒川町	昭和61年～平成13年	荒川
		あらかわ歴史散歩	荒川町	平成3年	荒川
		神林村誌 資料編上・下	神林村	昭和57年～58年	神林
		神林村誌	神林村	昭和62年2月	神林
		朝日村史	朝日村	昭和55年2月	朝日
		山北村郷土史	山北村教育委員会 (本間陽一 著)	昭和40年6月	山北
		山北町史 通史編	山北町	昭和62年12月	山北
		山北町史 資料編、続編	山北町	昭和62年12月、 平成3年6月	山北
		やさしい山北町史	山北町教育委員会	平成7年	山北

その他市町村史等

地域	書籍名	刊行者（調査主体）	刊行年	対象
村上	火と火消し物語	八藤後友次郎	平成18年	村上地域
	岩船むかし話	大倉登代治	平成12年	岩船地区
	波濤 証言集 米進駐軍瀬波海岸に上陸	瀬波地区公民館	平成元年	瀬波地区
	北前船・小廻船と瀬波湊	瀬波郷土史研究会	平成9年	瀬波地区
	北前船異国漂流記	瀬波郷土史研究会	平成10年	瀬波地区
	瀬波郷土史	瀬波地区公民館	平成10年	瀬波地区
	昭和の瀬波	瀬波地区公民館	平成16年	瀬波地区

地域	書籍名	刊行者（調査主体）	刊行年	対象
村上	瀬波っていいね	活気ある街瀬波まちづくり推進協議会	平成30年	瀬波地区
	郷土史－松山村・浜新田村まとめ－	東龍作	平成17年	松山・浜新田
	さべりの民俗行事	山辺里地区まちづくり協議会	平成26年	山辺里地区
	さべりの歴史遺産	山辺里地区まちづくり協議会	平成28年	山辺里地区
	ふるさと上海府の歴史	上海府地区町づくり推進委員会	平成19年	上海府地区
	ふるさと上海府の歴史 資料編	上海府地区町づくり推進委員会	平成21年	上海府地区
	庶民の歴史探訪	本間陽一	平成20年	上海府地区
	ふるさとことば辞典 改訂版	本間陽一	平成26年	上海府地区
荒川	海老江村概史	小川清治	昭和54年	海老江
	ぶらり荒島散歩	長田平	平成15年	荒島
	越後荒川保内 羽ヶ榎村 齋藤庄左衛門家の謎の研究	齋藤榮	平成31年	羽ヶ榎
神林	上助測村	八藤後博	昭和58年	上助測
	牛屋村史談	田中真吾 編	平成11年	牛屋
	神林村の伝説	大嶋満夫	平成21年	神林地域
朝日	蒲萄で見たこと聞いたこと	工藤隆秀	昭和47年	蒲萄
	高根郷土誌	板垣作五郎ほか	平成8年	高根
	大葉澤誌	大葉澤誌編さん委員会	平成17年	大場沢
	越後村上内藤領 新保組同村 今昔誌	下新保集落誌編集委員会	平成19年	下新保
	追憶 鵜渡路	追憶鵜渡路編さん委員会	平成21年	鵜渡路
	わたしたちのたてこし	館腰地域まちづくり協議会	平成28年	館腰地区
	たかね地域のお宝	たかねまちづくり協議会	平成29年	高根地区
	りいご猿沢	猿沢地域まちづくり協議会	平成31年	猿沢地区
山北	勝木沿革誌物語	勝木部落会	昭和52年	勝木
	村のあれこれ 大毎雑記帳	大毎集落づくり委員会	平成4年	大毎
	ふるさと雷の歴史	雷集落づくり委員会	平成5年	雷
	山北町郷土史研究会年次会報（第1号～第14号）	山北町郷土史研究会	平成6年～平成20年	山北地域
	山北の昔話（第1集～第5集）	山北町教育委員会	平成6年～平成10年	山北地域
	碁石のあゆみ	碁石のあゆみ編集委員会	平成11年	碁石
	ふるさとを語りて－温出集落史－	温出集落史編集委員会	平成11年	温出
	今川集落史	今川集落史編さん委員会	平成13年	今川
	さんぼくごっつお物語	笹川流れ波物語り 受入者協議会	平成20年	山北地域
	銀屏風物語－黒川俣の宝物－	黒川俣地区総代会・ 銀屏風冊子編集委員会	平成26年	黒川俣地区
	新潟県村上市山北地区の石碑	本間清	令和2年	山北地域

第5章 文化財の保存・活用に関する基本目標と基本的な方向性

1 文化財の保存・活用に関する基本目標

本市に存在する文化財は先人が守り残してきた貴重な財産であり、これらを後世へ継承していくためには、文化財所有者・管理者などの関係者と国・県・市の行政が連携するだけではなく、継承に向けた課題解決の方法を一般市民を含めた地域全体で考えていく体制を構築しなければならない。

第3次村上市総合計画は、子どもが元気に笑う姿や人々の思いやりと幸せが広がるまちとして、更なる活力を持って村上市を次世代へつないでいくという強い意志や理想を込めて、『あふれる笑顔のまち村上』をまちの将来像としている。また、基本目標の一つとして「人が輝く郷育（さといく）※のまち」を掲げ、本市固有の伝統文化を守り伝えながら、地域と協働する郷育の推進により、優れた人材の育成と郷土の誇りの醸成、地域の活力向上を目指している。その中で、文化財について「文化芸術に親しみ、歴史・文化財を守りつないでいくまちづくり」として、

- ・地域の貴重な財産である文化財の保存活用を図るとともに、伝統芸能等を担う後継者や関係団体の支援、普及啓発に努める。
- ・各種計画に基づき、史跡ごとに管理・修理を行うとともに、来訪者の理解促進に向けた活用を図る。

ことを施策の方針としている。



図17 村上市 基本構想の体系

また、第3次村上市教育基本計画は、基本目標に「人が輝く郷育[※]のまち」を掲げ、教育施策の基本方針の一つを「後世につなぐ郷土の歴史・文化の保存活用」とし、文化財の保護と伝承の推進、史跡の保存と活用の推進を施策として掲げている。

※「郷育（さといく）」とは、村上市教育基本計画において目指すとしている学びの姿で、郷土に誇りを持ち、自らの進路を切り拓いていくことのできる子どもたちを育成する活動や、全ての市民が生涯にわたって学習し、その成果を展開したり、次世代に伝えたりする活動のこと。

これらを踏まえ、本計画では本市の文化財の保存・活用を図るために以下の基本目標を定め、その将来像の実現に向けて必要となる取組の基本的な方向性を以下のように定めた。

[基本目標]

- ・「歴史文化に親しみ、誇りを持って、ともに生きていくまち」

[基本的な方向性]

方向性1：「文化財を知る、見つける」

本市には有形・無形の多種多様な文化財があり、各地域によって特色のある歴史を現在に伝えている。これらの文化財が身近にあること、地域の貴重な財産であることを市民に知ってもらい、市民が歴史文化に親しむことで文化財に対する理解と関心を深める。

方向性2：「文化財を守る、磨き上げる」

本市にある多種多様な文化財の保存に関わる人材を育成するとともに、文化財の保存に必要な技術を伝承する後継者の育成環境を整備する。また、調査・研究によって歴史的価値を明らかにし、文化財の価値を磨き上げる。

方向性3：「文化財を活かす、発信する」

文化財を教育、観光、地域振興など多様な分野で積極的に活用し、市民がその価値に触れる機会を創出することで郷土への誇りを醸成し、市民が歴史文化とともに生きていくまちを目指す。また、文化財を地域資源として位置づけ、市外にもその魅力を積極的に発信し、来訪者の増加や地域の活性化につなげる。



伊勢神明社（村上地域）



官軍高札（神林地域）

第6章 文化財の保存・活用に関する課題・方針

1 文化財の保存・活用に関する現状と課題

本市の文化財は、今後のまちづくりや交流人口拡大、地域活性化を図るうえでも重要な資源となるものであるが、一方で、少子高齢化・過疎化に伴い文化財を守り伝えるための後継者が不足し、維持管理に伴う経済的な負担も増大するなど、一個人や一団体では対応できない困難な状況が各地域で生じている。

このため、第5章で定めた基本目標の達成、そのための取組に関する3つの基本的な方向性について、現状と課題を以下のとおり整理した。

◎方向性1：「文化財を知る、見つける」に関する現状と課題

文化財の把握・現状確認が不十分

- ・全域での調査が実施されていない文化財があるため、調査未実施の文化財についての調査、特に絵画、彫刻、工芸品の所在を把握する調査が必要
- ・歴史資料、有形の民俗文化財など、一部の地域では調査が実施されているものの他地域では調査が実施されていない文化財があるため、調査が不十分な文化財についての調査が必要
- ・書跡・典籍、古文書、無形の民俗文化財など、調査は実施されているものの所有者や伝承者の高齢化などにより所在や現状が確認されていない文化財があるため、文化財の所在や現状の確認、文化財の現状の記録作成が必要

文化財の価値付け、発信が不十分

- ・把握した文化財の価値付けが十分に行われていないため、文化財を価値付けする調査・研究が必要
- ・地域にある文化財の価値が十分に発信されていないため、文化財の価値を発信する取組が必要
- ・文化財に対する興味関心が低下しているため、興味関心を高めるために情報発信の取組が必要

◎方向性2：「文化財を守る、磨き上げる」に関する現状と課題

文化財に関わる人材の減少、高齢化

- ・文化財の保存に関わる個人、団体が減少しているため、文化財の保存に関わる人材の育成が必要
- ・文化財の修理を行う専門技術者が減少しているため、専門技術者を育成する取組が必要
- ・文化財所有者や保存団体会員の高齢化が進んでいるため、後継者の育成が必要。

文化財の散逸、劣化、損壊

- ・古文書の所有者や管理者が不在となり古文書が散逸しているため、所有者や管理者が不在となっている古文書の保存が必要
- ・人口減少や少子高齢化によって歴史的建造物の管理者が不在となり、空き家化・老朽化が進んでいるため、管理者が不在となった歴史的建造物の空き家化、老朽化への対策が必要
- ・自然災害によって遺跡や動物・植物・地質鉱物などの文化財が損壊しているため、文化財の復旧に向けた取組が必要



大雨災害の被害を受けた馬場館跡

文化財の継承体制への懸念

- ・無形の民俗文化財に使用する屋台や道具類の修繕経費の負担が大きく、将来的な文化財の保護・継承への影響が懸念されるため、各種支援制度等により経費負担の軽減が必要
- ・伝統産業や伝統芸能の担い手が不足しているため、関係人材、後継者の育成に向けた取組が必要

文化財の保存環境への懸念

- ・文化財を修理するための材料確保が困難になっているため、材料の確保が必要。
- ・文化財の保管施設が老朽化し、収蔵スペースも不足しているため、保管施設の改修、確保が必要
- ・防災、防犯設備が未整備の文化財が多く、防災、防犯体制の整備が必要



武家住宅茅葺き屋根の葺き替え技術

◎方向性3：「文化財を活かす、発信する」に関する現状と課題

文化財を活用する体制が不十分

- ・文化財に関連した情報を発信する体制が整備されておらず、文化財を観光資源としても活用するためにも関連情報を発信する体制の整備が必要
- ・村上市郷土資料館や市指定文化財武家住宅などの文化財公開施設が老朽化しているため、施設の維持、改修が必要
- ・学校教育へ提供する文化財の情報が不足しているため、学校教育と連携し文化財を教育現場で活用する取組が必要
- ・市民が現地で文化財の価値に触れることができる機会が少ないため、地域と連携して文化財を現地で活用する参加型の取組が必要

文化財に関連する情報の不足

- ・外部へ発信する文化財の情報が少ないため、発信できる文化財の情報を充実させる取組が必要
- ・現地で文化財を説明する看板等が少ないため、文化財説明看板等の増設が必要
- ・外部へ文化財の情報を発信するためのパンフレット類が不足しているため、追加作成が必要
- ・文化財の説明看板やパンフレットの多言語化が進んでおらず、外国人観光客の受入体制が整備されていないため、多言語化の対応ほか外国人観光客の受入体制の整備が必要
- ・SNSで発信する文化財情報が少ないため、発信の強化が必要

文化財を紹介する人材の不足、体制の不足

- ・文化財の魅力を伝えるガイドが不足しているため、ガイド養成の取組が必要
- ・文化財の現地見学を受け入れる体制が整備されていないため、現地受け入れ体制の整備が必要

2 文化財の保存・活用に関する基本的な方針

前項で示した3つの基本的な方向性に基づく課題に対して、今後の方針を以下の3つに整理した。

◎方向性1「文化財を知る、見つける」に関する方針

文化財の把握、現状を確認するための調査を推進する

- ・絵画、彫刻、工芸品などの文化財の把握調査を推進する
- ・映像、録音などによる文化財の記録作成を推進する

文化財を価値付けするための調査を推進し、情報発信する

- ・把握した文化財を価値付けする調査・研究を推進する
- ・調査・研究で明らかになった文化財の価値を発信する
- ・文化財の情報を発信し、文化財に対する興味関心を高める



老朽化した武家住宅茅葺き屋根

◎方向性2「文化財を守る、磨き上げる」に関する方針

文化財に関わる人材を育成する

- ・文化財の保存に関わる人材を育成する
- ・文化財の修理を行う専門技術者を育成する
- ・文化財所有者や保存団体会員の後継者を育成する

文化財の保存、復旧を進める

- ・所有者や管理者が不在となっている古文書、歴史的建造物を保存する
- ・劣化・老朽化した文化財の保存修理事業を実施する
- ・災害で損壊した遺跡や動物・植物・地質鉱物などの文化財の復旧を進める

文化財の継承体制を整備する

- ・文化財所有者、保存団体が実施する保存修理事業を財政的に支援する
- ・文化財の保存に関する情報を文化財所有者、保存団体に周知し、関係人材、後継者の育成に向けた取組を支援する

文化財の保存環境を整備する

- ・文化財を修理するために必要な材料を確保する取組を支援する
- ・文化財保管施設を整備する
- ・文化財の防災、防犯体制を整備する

◎方向性3「文化財を活かす、発信する」に関する方針

文化財を活用する体制を整備する

- ・文化財を観光資源として活用し、文化財を軸とした交流人口の拡大につながる情報発信体制・受入体制・周遊ルート等を観光部局と連携して整備する
- ・村上市郷土資料館や市指定文化財武家住宅などの文化財公開施設を整備する
- ・学校教育と連携して文化財を教育現場で活用する
- ・市民が現地で文化財の価値に触れることができる参加型の取組を進める

文化財に関連する情報を充実させる

- ・外部へ発信する文化財の情報を充実させる取組を進める
- ・現地での文化財説明看板等を設置する
- ・外部へ文化財の情報を発信するためのパンフレット類を作成する
- ・文化財説明看板、パンフレット類の多言語化を進め、外国人観光者の受入体制を整備する
- ・SNSを活用した文化財情報の発信を強化する

文化財を紹介できる人材を育成し、文化財見学の受け入れ体制を整備する

- ・文化財の魅力を説明できるガイド養成の取組を進める
- ・現地で文化財見学を受け入れる体制を整備する

第7章 文化財の保存・活用に関する事業

1 文化財の保存・活用に関する事業の内容

第6章で掲げた文化財の保存・活用に関する方針を踏まえ、計画期間中に実施予定の事業を基本的な方向性1～3に分け、以下のとおり記載した。

なお、以下の事業については、市費、県費、国費（文化財補助金、新しい地方経済・生活環境創生交付金等）、その他民間資金等も活用しながら進めていく。

表 16 基本的な方向性1「文化財を知る、見つける」に関する方針への事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期										主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	
1	美術工芸品の把握調査 市内寺院、神社等を中心とした美術工芸品（絵画、彫刻、工芸品）の所在確認調査	◎市 ◇市民・団体				△	△	△					市費
2	書跡・典籍、古文書の確認調査 書跡・典籍、古文書の所在や現状の確認調査	◎市 ◇市民・団体	△	△	△								市費
3	書跡・典籍、古文書の整理、解読 未整理の書跡・典籍、古文書の目録作成、解読	◎市 ◇市民・団体 ◇専門機関	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費、県費
4	民俗文化財の確認調査 有形および無形の民俗文化財の所在や現状の確認調査	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
5	無形の民俗文化財の記録作成 屋台行事、獅子舞・神楽などの映像記録、文書記録の作成	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
6	文化財の指定、登録 候補物件の調査、文化財の指定、登録	◎市 ◇県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
7	文化財情報収集体制の整備 関係団体との連携による体制の整備	◎市 ◇市民・団体	△	△									市費
8	文化財情報の周知 市広報、各地域情報紙などでの文化財紹介記事の連載	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
9	文化財見学会の開催 各地域で文化財の現地見学会を開催	◎市 ◇市民・団体			△	△	△	△	△	△	△	△	市費

※事業主体の「◎」は主に事業主体となる団体、「◇」は協力、支援を主とする団体を示す。

※実施時期の「△」は期間を決めて実施するもの、「○」は恒常的に実施するもの、またはこれまでの事業を継続して実施するものを示す。

※次ページに示す基本的な方向性2「文化財を守る、磨き上げる」に関する方針への事業の表ならびに以降の表においても同様に表示した。

※主な財源は今後想定される財源を記した。

表 17 基本的な方向性 2 「文化財を守る、磨き上げる」に関する方針への事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期										主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	
10	文化財保存修理技術の研修会 祭屋台等の修理技術に関する研修会（技術者及び一般対象）	◎市 ◇市民・団体		△	△	△	△	△	△	△	△	△	市費
11	文化財所有者・関係団体の連絡体制整備 市内関係者間の横断的連絡体制の整備	◎市 ◇市民・団体	△	△	△	△	△						市費
12	文化財所有者・関係団体への支援体制整備 市内関係者への支援、相談体制の整備	◎市 ◇市民・団体	△	△	△	△	△						市費
13	重要文化財若林家住宅ほか武家住宅の保存修理 屋根の修理、施設内環境の整備	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
14	村上祭ほか無形民俗文化財の用具等修理 各種補助事業を活用した修理事業の実施	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県・市補助
15	村上城跡ほか史跡の保存修理 保存活用計画などに基づく村上城跡、平林城跡、山元遺跡ほか史跡の整備	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
16	天然記念物の保存 文化財指定の樹木、名勝などの樹勢回復、生育環境整備	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県・市補助
17	建造物、町並みの現地学習会 旧村上天下町地区、旧港町地区などの町並み見学会の実施	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
18	史跡の発掘調査の成果を紹介する学習会 村上城跡、平林城跡ほかの調査成果を周知する学習会の開催	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
19	史跡の現地学習会 村上城跡、平林城跡ほかでの現地学習会の開催	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
20	天然記念物の現地学習会 国・県指定天然記念物での現地学習会の開催	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
21	文化財収蔵庫としての廃校利用 旧学校を利用した文化財の収蔵、整理	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
22	文化財防災、防犯設備の整備 文化財所有者・関係団体に対する設備整備の支援	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県・市補助
23	防災、防犯従事者の育成研修 文化財所有者・関係団体に対する防災・防犯研修の実施	◎市 ◇市民・団体			△	△	△						市費

表 18 基本的な方向性3「文化財を活かす、発信する」に関する方針への事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期										主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	
24	行政内の体制整備 市・県関係部局による連携体制の整備	◎市 ◇県	△	△									
25	観光協会との連携 市観光協会との連携体制の整備	◎市 ◇市民・団体	△	△									
26	瀬波温泉旅館組合との連携 瀬波温泉との連携体制の整備	◎市 ◇市民・団体	△	△									
27	村上市郷土資料館の公開機能整備 郷土資料館の情報発信機能の整備、更新	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
28	文化財解説板、パンフレットの作成、多言語化 現地解説板、各種パンフレットの整備、更新	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国補助、市費
29	文化財関連情報の外部発信 SNSを活用した文化財関連情報の発信	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
30	文化財関係シンポジウムの開催 テーマごとに関係者が集うシンポジウムを開催	◎市 ◇市民・団体	△		△		△		△		△		市費
31	文化財ガイド育成研修 市観光ガイド会や保存団体との連携による育成研修の実施	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
32	文化財周遊ルートの整備 域内周遊ルート、モデルコースの整備	◎市民・団体 ◇市			△	△	△	△	△	△	△	△	
33	学校での文化財講座 学校の地域学習とあわせた文化財講座を開催	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
34	教職員を対象とした文化財研修 学校の地域学習に関する教職員への研修会を開催	◎市 ◇市民・団体		△		△		△		△		△	市費



村上市郷土資料館での展示



文化財関係シンポジウム

第8章 関連文化財群に関する事項

1 関連文化財群の基本的考え方と設定

関連文化財群とは、地域に存在する多様な文化財を歴史的な関連性、ストーリーによって結び付け、一定のまとまりとして捉えたものである。

関連文化財群の設定により、個別の文化財を複合的に結び付け、文化財の指定・未指定等を問わず様々な構成要素を活かし、多面的な方法によって文化財の保存・活用を図ることとする。

関連文化財群の設定にあたっては、本市の歴史文化の特徴をふまえ、ストーリーをもとにした一体的な文化財の保存・活用が可能となるように以下の6つの関連文化財群を設定した。

〔関連文化財群1〕「自然と共生した先史時代～古代の暮らし」

三面川・荒川ほか河川流域を中心に数多く確認されている旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古代の遺跡は、自然の恵みを生かし、自然と共生した祖先の生活の痕跡といえる。縄文時代の奥三面遺跡群、弥生時代の山元遺跡、古代の浦田山古墳群などの遺跡は、長い年月とともに変化してきた人々の生活と社会の状況を伝えている。

〔関連文化財群2〕「身近にある中世の風景」

三面川や荒川の川沿い、旧岩船潟の周辺などに形成された中世の町や村は、地名や石造物などを痕跡として残している。これらは室町時代の馬場館跡、戦国時代の平林城跡や大葉沢城跡などの城館跡とともに身近な場所に今もあり、中世の歴史を現在に伝えている。

〔関連文化財群3〕「城下町村上で育まれた文化」

江戸時代に整備された村上城と城下町は地域の拠点となり、城下町の雰囲気を残しながら現在も市街地を形成している。その歴史的な景観は来訪者に時を語り、数百年を経て城下町で受け継がれてきた工芸技術、食、行事などが過去と現代を越えて人々の生活を支えている。

〔関連文化財群4〕「海、山、川を通じた交流」

北前船が行き交った海の道、旅人が行き交った陸の道は、村上城下や海老江、塩谷、岩船、瀬波の港によってつながり、他地域から多くの文化をもたらした。人と物資の交流は地域の発展を支え、その痕跡が港町の町並み、民俗芸能などの形となって現代に伝えられている。

〔関連文化財群5〕「風土に育まれた生業と生活文化」

山・川・海の豊かな自然が育んだ生業は長い年月を経て、三面川・大川の「鮭」、山北地域の「灰の文化」など固有の文化として受け継がれている。伝統的な技術を有する人々の活動は現代の生活の中でも輝きを放ち、地域の伝統産業として未来へ向けて新しい歴史を刻んでいる。

〔関連文化財群6〕「暮らしの中にある信仰と伝承」

人々の自然に対する信仰や生活の中の祈りは、時代とともに変化しながら村上祭をはじめとした屋台行事、荒川地域と神林地域の獅子踊りなどの多様な伝統行事として受け継がれている。それらの伝統行事は今も生活の一部となっていて、地域の人々を結び付ける大切な存在となっている。

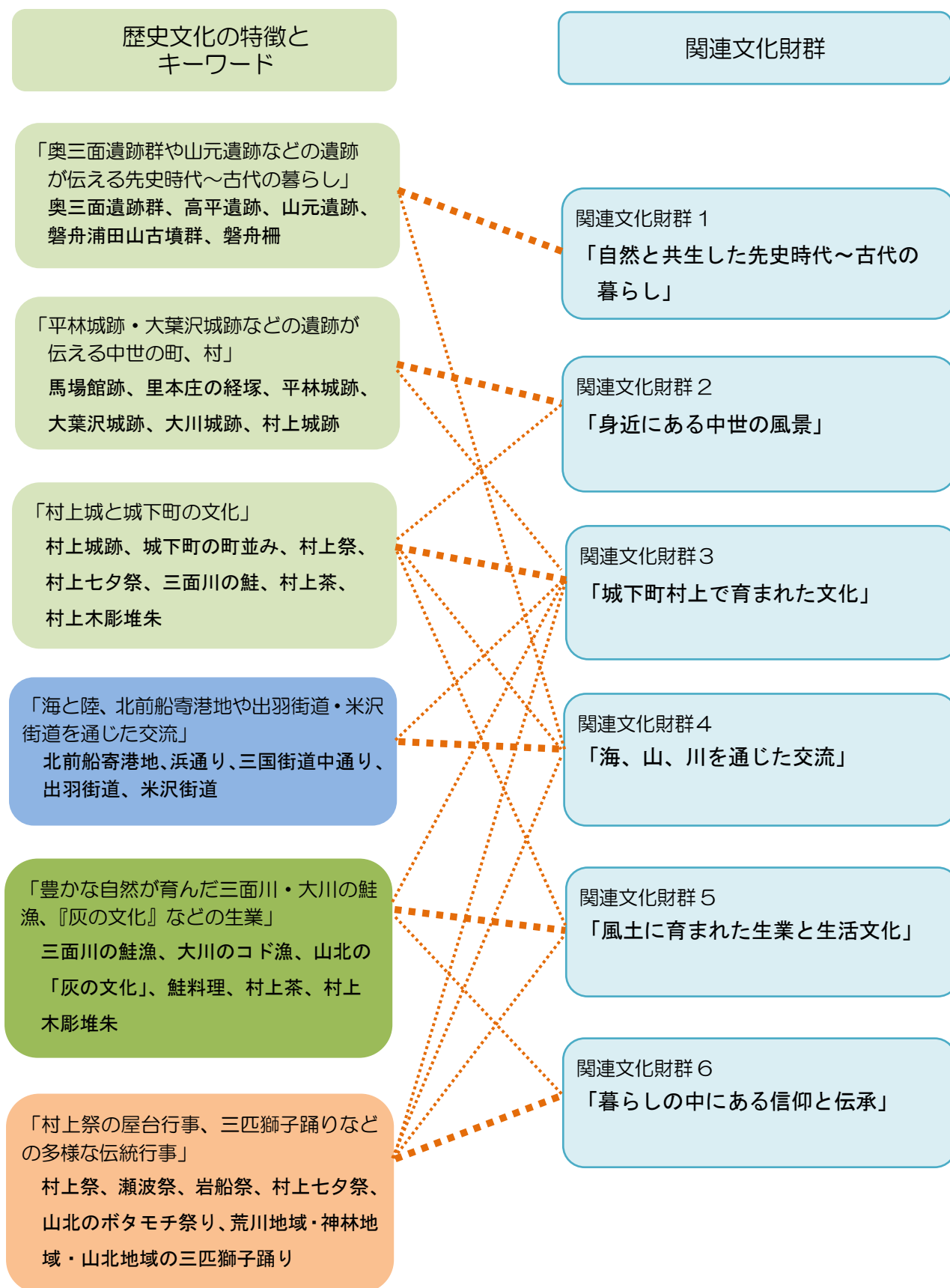


図 18 歴史文化の特徴と関連文化財群

2 関連文化財群の内容及び保存・活用に関する課題、方針、事業

前項で設定した個々の関連文化財群について、それぞれのストーリーと構成文化財を示すとともに、課題と今後の取組に関する方針、本計画期間中に実施予定の事業を以下のように整理した。

〔関連文化財群 1〕「自然と共生した先史時代～古代の暮らし」

ストーリー

自然と共生した生活の痕跡は縄文時代から弥生時代、古代の遺跡として各地域で多く確認されており、縄文時代の遺跡のうち奥三面遺跡群では縄文時代に長期間にわたり営まれた生活の痕跡が 19 遺跡で確認され、狩猟、採集を主として自然と共生した生活の様子がうかがえる。中でも、奥三面遺跡群のうち重要文化財に指定された元屋敷遺跡の出土品（土器、土製品、石器、石製品など）は、縄文時代における他地域との交流や当時の精神文化を示すもので、北日本における日本海側と太平洋側とを繋ぐ文化や交易の様相を考える上でも貴重なものとされている。奥三面遺跡群のほか、西日本の文化の影響がみられる希少な遺物が出土した弥生時代の山元遺跡、^{いわふねのさく}「磐舟柵」の設置以前の在地勢力の存在を示すとともに北陸・西日本系の技法で築かれた石室を有する古代の磐舟浦田山古墳群など、本市の先史時代～古代の遺跡からは本市付近が当時から北方（東北地方）・西方（北陸地方）の双方の文化が交わる地域であったことがうかがえる。

表 19 関連文化財群 1 の構成文化財一覧

番号	文化財の名称	地域	地区	年代	分類	種別	指定区分
1	新潟県元屋敷遺跡出土品 1,718点	朝日	三面	縄文時代後期～晩期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	国
2	樽口遺跡出土品 一括 3,000点	朝日	三面	旧石器時代～縄文時代	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	県
3	元屋敷遺跡出土品 600点	朝日	三面	縄文時代後期～晩期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	県
4	高平遺跡出土品 853点	村上	山辺里	縄文時代中期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	県
5	山元遺跡出土品 280点	神林	神納東	弥生時代後期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	県
6	砂山遺跡出土品 33点	村上	岩船	弥生時代後期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
7	三角点下遺跡出土品 4点	村上	岩船	古墳時代後期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
8	宮ノ上遺跡出土品 5点	村上	岩船	古墳時代後期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
9	二千刈遺跡出土品 2点	村上	岩船	不明	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
10	高平遺跡出土品 一括	村上	山辺里	縄文時代中期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
11	樽口遺跡出土品 11,878点	朝日	三面	旧石器時代～縄文時代草創期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
12	奥三面遺跡群出土品 一括 17,470点	朝日	三面	旧石器時代～弥生時代	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
13	堀ノ内上ノ山遺跡出土品(石剣) 1点	山北	大川谷	縄文時代後期～晩期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
14	府屋遺跡出土品 5点	山北	大川谷	縄文時代前期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
15	春木山遺跡出土品 256点	荒川	保内	縄文時代中期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
16	道端遺跡出土品 88点	荒川	金屋	弥生時代中期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	市
17	滝ノ前遺跡出土品	村上	瀬波	弥生時代	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	
18	古四王林遺跡出土品	朝日	塩野町	縄文時代	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	
19	熊登遺跡出土品	朝日	館腰	縄文時代	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	

20	稲葉下遺跡出土品	神林	神納	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
21	寺田遺跡出土品	荒川	金屋	古代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
22	松木田遺跡出土品	村上	岩船	古代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
23	高柳A遺跡出土品	荒川	保内	古代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
24	高柳B遺跡出土品	荒川	保内	古代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
25	名割遺跡出土品	荒川	金屋	古代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
26	坂町宮ノ腰D遺跡出土品	荒川	保内	古代、中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
27	天王前遺跡出土品	神林	神納東	古代、中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
28	草田遺跡出土品	神林	神納	古代、中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
29	飯岡山崎遺跡出土品	神林	神納	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
30	石川遺跡出土品	神林	神納	古墳時代・平安時代・近世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
31	有明の場遺跡出土品	神林	神納	平安時代・中世・近世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
32	田島遺跡出土品	荒川	保内	平安時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
33	山口遺跡出土品	朝日	高根	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
34	砂山IV遺跡出土品	神林	砂山	平安時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
35	里本庄B遺跡出土品	神林	神納東	平安時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
36	城田遺跡出土品	神林	神納	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
37	鴨侍遺跡出土品	荒川	金屋	平安時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
38	上屋敷遺跡出土品	朝日	猿沢	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
39	坂町宮ノ腰C遺跡出土品	荒川	保内	縄文時代・古代・室町時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
40	上ノ山遺跡出土品	神林	神納東	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
41	石橋A遺跡出土品	荒川	金屋	古代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
42	前坪遺跡出土品	神林	神納東	平安時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
43	春木山遺跡出土品	荒川	保内	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
44	道端遺跡出土品	荒川	金屋	縄文時代・弥生時代・古代・室町時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
45	中村遺跡出土品	神林	神納	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
46	千作り遺跡出土品	神林	西神納	奈良時代～平安時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
47	長割遺跡出土品	村上	山辺里	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
48	上野遺跡出土品	朝日	猿沢	縄文時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
49	山元遺跡	神林	神納東	弥生時代後期	記念物	遺跡	国

※構成文化財一覧表の文化財は類型順に記し、同類型のものは指定等、未指定の順で記した。

※以降の構成文化財一覧表においても同様に表示した。



山元遺跡出土品



春木山遺跡出土品

[課題]

- ・奥三面遺跡群の出土遺物は重要文化財に指定されている新潟県元屋敷遺跡出土品を中心に縄文の里・朝日で通年公開しているが、施設入館者は減少が続いており、入館者を増やす取組が必要。
- ・国史跡の山元遺跡は令和4年度に保存活用計画、令和6年度に整備基本計画を作成しており、今後これらの計画に基づき山元遺跡保存会と連携した史跡整備や保存・活用の取組が必要。
- ・発掘調査によって出土した遺物は、整理作業が完了したものについては研究者の調査対象としても活用されているが、調査で得られた内容やその後の研究調査の成果が一般市民には十分に周知されておらず、周知の取組が必要。

[方針]

- ・縄文の里・朝日の入館者増加に向けて、SNSを活用した広報周知活動を行う。
- ・国史跡の山元遺跡は令和4年度に作成した保存活用計画および令和6年度に策定した整備基本計画に基づき史跡整備や保存・活用事業を進める。また、地元の民間団体である山元遺跡保存会と市が連携し、史跡の保存・活用に向けた取組を行う。
- ・奥三面遺跡群の出土遺物は考古資料としてだけでなく美術工芸品としても鑑賞できるよう、重要文化財新潟県元屋敷遺跡出土品の保存修理を継続し、修理した成果を公開する。
- ・村上市郷土資料館や村上歴史文化館でも市内遺跡から出土した遺物の企画展を開催する。
- ・発掘調査によって出土した遺物を活用し、市民を対象とした講座を通じて埋蔵文化財の価値を広く紹介する。

表 20 関連文化財群 1 の事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期										主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	
1-1	重要文化財新潟県元屋敷遺跡出土品の保存修理 土器の解体調査、復元修理	市	△	△	△	△							国補助、市費
1-2	奥三面遺跡群の出土品公開 縄文の里・朝日での展示品通年公開	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
1-3	「縄文時代」の体験 縄文の里・朝日でのまが玉づくり、土器づくり、アングリ織りなどの体験事業	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
1-4	史跡山元遺跡の整備 史跡整備、史跡内私有地の公有地化と環境整備	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
1-5	史跡山元遺跡の普及啓発 地元保存団体と連携した市民向け学習会、遺跡見学会の開催	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
1-6	市内遺跡出土品の公開 村上歴史文化館などでの企画展示会の開催	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
1-7	埋蔵文化財の発掘調査 遺跡の試掘、確認、発掘調査による埋蔵文化財の記録、保存	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
1-8	出土遺物の整理、調査研究 調査研究による価値付け、文化財への指定	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費

「関連文化財群2」「身近にある中世の風景」

ストーリー

中世に形成された国衙領「荒川保」や荘園「小泉荘」では、地頭職に任命された河村氏、秩父氏がそれぞれ現地支配の力を強め、域内に支配地の拠点として城館が築かれた。各地域では室町時代の馬場館跡や大館遺跡、戦国時代の村上城跡、平林城跡、大葉沢城跡、大川城跡などの城館跡がみられ、村上城跡や大葉沢城跡に残る土塁、堅堀、堀切などの中世城郭の遺構、平林城跡の発掘調査で確認された遺構や遺物などから国人領主が割拠した戦国時代の様子がうかがえる。

中世の町や村は三面川や荒川の川沿い、旧岩船潟の周辺など水運に適した場所に形成され、その痕跡は集落跡などの遺跡として確認されている。これらの場所では定期的に市場も開かれ、市場の痕跡は「三日市」「九日市」などの地名としても残っている。このほか板碑をはじめとした石造物、経塚は当時の人々の信仰を伝えるものであり、それらにまつわる伝承、各地域の寺院などに残された中世の書跡・典籍や古文書などが生活や信仰の形とともに中世の歴史を現在に伝えている。

表 21 関連文化財群2の構成文化財一覧

番号	文化財の名称	地域	地区	年代	分類	種別	指定区分
1	本庄兜 1刳	村上	村上	室町時代	有形文化財	美術工芸品 (工芸品)	市
2	伊達政宗書状 1幅	村上	村上	天正17年 (1589)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
3	大般若波羅密多經 第155巻 1巻	村上	山辺里	応永23年 (1416)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
4	霊樹山耕雲禪寺納所方田地之帳 1冊	村上	山辺里	永正6年 (1509)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
5	上杉房能寺領安堵状 1葉	村上	山辺里	明応5年 (1496)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
6	梅山間本禪師遺戒状 1幅	村上	山辺里	応永22年 (1415)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
7	大般若波羅密多經 第158巻 1巻	村上	山辺里	応永23年 (1416)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
8	諸上寺大般若經	村上	岩船	中世	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	
9	大般若經	村上	瀬波	中世	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	
10	耕雲寺典籍	村上	山辺里	中世	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	
11	本庄繁長書状 2通	朝日	高根	永禄4年(1561)、 永禄12年(1569)	有形文化財	美術工芸品 (古文書)	市
12	本庄繁長安堵状 1通	朝日	高根	天文17年 (1548)	有形文化財	美術工芸品 (古文書)	市
13	本庄繁長時代書状 4通	朝日	高根	戦国時代	有形文化財	美術工芸品 (古文書)	市
14	陶製骨臓器(寺山遺跡出土) 1点	村上	岩船	室町時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
15	東岸寺板碑 1基	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
16	東岸寺石仏 3躯	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
17	海老江石仏 2躯	荒川	金屋	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
18	延命寺石仏 1躯	荒川	金屋	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
19	諏訪神社石仏 1躯	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
20	春木山石仏A 1躯	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
21	春木山石仏B 1躯	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
22	経筒及び付属品 6点	神林	神納東	鎌倉時代末期 ～南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
23	六面石幢 1基	神林	神納	室町時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
24	板碑 1基	神林	神納	元亨2年 (1322)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市

25	板碑 1基	神林	西神納	元応年間 (1319～21)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
26	板碑 2基	神林	神納	応永6年 (1399)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
27	板碑 2基	神林	砂山	元亨元年 (1321)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
28	金箔貼付土師土器(長松遺跡出土) 1点	神林	砂山	戦国時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
29	板碑 1基	神林	砂山	明德年間(1390 ～1395)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
30	板碑(阿弥陀如来・陽刻五輪塔ほか) 6基	山北	下海府	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
31	板碑(阿弥陀三尊) 2基	山北	下海府	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
32	板碑(葉師如来) 1基	山北	下海府	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
33	板碑(阿弥陀三尊) 1基	山北	下海府	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
34	板碑(釈迦如来) 1基	山北	中俣	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
35	天王前遺跡出土品	神林	神納東	古代・中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
36	水口沢遺跡出土品	神林	神納東	中世・近世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
37	桃川板碑群	神林	神納	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
38	内御堂遺跡出土品	神林	神納東	古代・中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
39	大木戸遺跡出土品	神林	神納東	平安時代・ 中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
40	光明寺遺跡出土品	神林	神納東	中世・近世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
41	引地遺跡出土品	神林	神納	平安時代・鎌 倉時代・近世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
42	田屋遺跡出土品	荒川	保内	縄文時代・平 安時代・中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
43	銅鉄遺跡出土品	神林	神納東	平安時代・ 中世・近世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
44	岩船下大町遺跡出土品	村上	岩船	中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
45	長松遺跡出土品	神林	砂山	縄文時代・ 古代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
46	大門遺跡出土品	神林	神納	中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
47	千眼寺跡出土品	神林	平林	中世・近世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
48	大館跡出土品	村上	山辺里	中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
49	田屋道遺跡出土品	神林	西神納	古代・中世	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	
50	平林城跡	神林	平林	戦国時代～慶 長3年(1598)	記念物	遺跡	国
51	村上城跡	村上	村上	戦国時代～ 江戸時代	記念物	遺跡	国
52	馬場館跡	荒川	金屋	室町時代	記念物	遺跡	県
53	大葉沢城跡	朝日	館腰	戦国時代	記念物	遺跡	県
54	経塚	神林	神納東	鎌倉時代末期 ～南北朝時代	記念物	遺跡	市
55	貝附城跡	荒川	保内	中世	記念物	遺跡	
56	貝附山城跡	荒川	保内	中世	記念物	遺跡	
57	牧目館跡	神林	西神納	中世	記念物	遺跡	
58	南大平城跡	神林	神納	中世	記念物	遺跡	
59	桃川館跡	神林	神納	中世	記念物	遺跡	
60	桃川城跡	神林	神納	中世	記念物	遺跡	
61	猿沢城跡	朝日	猿沢	中世	記念物	遺跡	
62	笹平城跡	朝日	館腰	中世	記念物	遺跡	

63	板屋越城跡	朝日	猿沢	中世	記念物	遺跡	
64	関口城跡	朝日	高根	中世	記念物	遺跡	
65	寺山山城跡	朝日	館腰	中世	記念物	遺跡	
66	布部館跡	朝日	三面	中世	記念物	遺跡	
67	薦川山城跡	朝日	高根	中世	記念物	遺跡	
68	大川城跡	山北	大川谷	中世	記念物	遺跡	
69	立島城跡	山北	八幡	中世	記念物	遺跡	
70	黒川侯城跡	山北	黒川侯	中世	記念物	遺跡	
71	越沢城跡	山北	下海府	中世	記念物	遺跡	
72	荒川口城跡	山北	大川谷	中世	記念物	遺跡	
73	大館遺跡	村上	山辺里	中世	記念物	遺跡	
74	下渡山城跡	村上	瀬波	中世	記念物	遺跡	
75	鋳物師館跡	村上	山辺里	中世	記念物	遺跡	
76	間島城跡	村上	上海府	中世	記念物	遺跡	
77	みささぎ	朝日	館腰	中世	記念物	遺跡	



板碑（神林地域）



猿沢城跡

〔課題〕

- ・ 県史跡の馬場館跡は令和４年８月３日から大雨で被害を受けたのちの災害復旧工事は完了したが、今後の保存・活用に関する計画が策定されていない。
- ・ 国史跡の平林城跡は保存活用計画に基づき調査、整備を進めているが、令和４年８月３日から大雨で被害を受けたことで災害復旧が優先され、史跡内の整備計画の進捗にも影響が及んでいる。
- ・ 県史跡の大葉沢城跡は大葉沢城跡保存会が中心となって史跡内の周遊道や案内表示などの整備を進めているが、大雨でたびたび史跡内での土砂崩れが発生しており、そのつど災害復旧工事が必要となっている。
- ・ 国史跡の村上城跡は中世遺構の散策ルートを設定しているが、自然災害による倒木が多く発生し、ルートへの立入を禁止する期間が多くなっている。
- ・ 未指定文化財の城跡は詳細な調査は実施されておらず、存在が周知されていない。
- ・ 国指定および県指定の遺跡はパンフレットが作成され配布されているが、未指定の遺跡の存在は市

民には十分に周知されていない。

- ・中世の古文書、石造遺物は一部の調査研究が実施されているが、全体的に調査研究は不十分で価値付けが進んでおらず、存在も周知されていない。

[方針]

- ・県史跡の馬場館跡は、所有者と市が連携し、今後の保存・活用の計画策定を検討する。
- ・国史跡の平林城跡は、平林城跡保存会と市が連携し、保存管理計画・整備基本計画に基づく計画的な調査、整備を進める。
- ・県史跡の大葉沢城跡は、大葉沢城跡保存会と市が連携し、災害復旧とともに史跡内の周遊道や案内表示などの整備を進める。
- ・国史跡の村上城跡は、村上城跡保存育英会と市が連携し、散策ルート維持や倒木処理など史跡内の環境整備を進める。
- ・未指定文化財の城跡の調査を進めるとともに、城跡の存在について周知を図る。
- ・中世の古文書、石造遺物の調査研究を進め、歴史的な価値付けを進める。
- ・市民を対象とした講座を通じて中世の遺跡や古文書、石造遺物などの存在と価値を広く紹介する。

表 22 関連文化財群 2 の事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期										主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	
2-1	史跡馬場館跡の整備 草刈りなどによる堀跡・土塁跡の明示、史跡内の環境整備	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	県補助
2-2	史跡平林城跡の整備 保存管理計画・整備基本計画に基づく調査、史跡整備、環境整備	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
2-3	史跡大葉沢城跡の整備 周遊道ほか史跡内の環境整備	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	県補助
2-4	史跡村上城跡の整備 石垣修理ほか史跡内の整備、環境整備	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
2-5	未指定史跡の調査 未指定史跡の現地調査、文献等の調査	◎市 ◇市民・団体				△	△	△					市費
2-6	中世古文書の調査 調査・研究による価値付け、調査成果の展示、公開	◎市 ◇専門機関				△	△	△					市費
2-7	中世石造物の調査 調査・研究による価値付け、調査成果の展示、公開	◎市 ◇市民・団体	△	△	△								市費
2-8	埋蔵文化財の発掘調査 遺跡の発掘調査による埋蔵文化財の記録、保存	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
2-9	遺跡の普及啓発 市民講座、企画展、市広報等による普及啓発	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費

〔関連文化財群3〕「城下町村上で育まれた文化」

ストーリー

村上城と城下町は江戸時代前期に域内の拠点として整備され、江戸時代初めに整備された城下町の形は現在も城跡、旧武家町、旧町人町、旧寺町として残り、村上地域の中心市街地を形成している。村上城跡がある臥牛山の麓に広がる旧武家町の町並みには生け垣や庭園の緑が多くみられ、旧武家町と隣り合う旧町人町には伝統的な町家が軒を連ね、寺院が並ぶ旧寺町とともに落ち着いた景観を形成している。江戸時代の城下絵図を見ながらでも歩くことができる城下町の町並みには、建築、工芸技術、食（鮭、酒、茶、和菓子ほか）、祭礼行事（村上祭、村上七夕祭、初午^{はつうま}、地藏盆ほか）などの伝統文化が各所にみられる。中でも祭礼行事は住民の心の支えにもなり、祭礼の日には祭屋台が旧町人町を巡行し、町中に響き渡る祭り囃子や甚句の歌声、子どもたちが唱える掛け声が城下町に季節の移り変わりを伝えている。祭礼行事をはじめとしたこれらの文化は、江戸時代の城主交代による家臣や町民の移動、海上交通の発達に伴う物資の移動とともに他地域から移入した文化と村上城下の風土が融合したものであり、城下町独自の文化として歴史的な景観とともに受け継がれている。

表 23 関連文化財群3の構成文化財一覧

番号	文化財の名称	地域	地区	年代	分類	種別	指定区分
1	若林家住宅 1棟 附 旧床板1枚	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	建造物	国
2	浄念寺本堂 1棟 附 棟札1枚・造営絵図2幅	村上	村上	文化15年(1818)	有形文化財	建造物	国
3	西奈彌羽黒神社境内摂社神明宮本殿 1棟	村上	村上	元禄3年(1690)	有形文化財	建造物	県
4	弁天堂 1棟	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	市
5	間部詮房御霊屋 1棟、間部詮房御霊屋御門1棟、間部詮房墓碑 1基	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	建造物	市
6	旧嵩岡家住宅 1棟	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	建造物	市
7	旧岩間家住宅 1棟	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	建造物	市
8	旧成田家住宅 1棟	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	建造物	市
9	旧藤井家住宅 1棟	村上	村上	江戸時代末期	有形文化財	建造物	市
10	福崎・佐藤家住宅 1棟	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	建造物	市
11	藤基神社社殿 1棟	村上	村上	江戸時代末期	有形文化財	建造物	市
12	藤基神社社殿附属建造物 4棟	村上	村上	江戸時代末期	有形文化財	建造物	市
13	吉川家住宅主屋 1棟	村上	村上	明治25年(1892)頃	有形文化財	建造物	国登録
14	吉川家住宅土蔵 1棟	村上	村上	天保12年(1841)	有形文化財	建造物	国登録
15	益基酒店店舗 1棟	村上	村上	昭和9年(1934)	有形文化財	建造物	国登録
16	益基酒店主屋及び酒蔵 1棟	村上	村上	明治25年(1892)	有形文化財	建造物	国登録
17	益基酒店土蔵 1棟	村上	村上	明治43年(1910)頃	有形文化財	建造物	国登録
18	吉川家住宅店舗 1棟	村上	村上	明治25年(1892)頃	有形文化財	建造物	国登録
19	旧第四銀行村上支店長住宅主屋 1棟	村上	村上	昭和11年(1936)	有形文化財	建造物	国登録
20	割烹吉源主屋 1棟	村上	村上	昭和4年(1929)	有形文化財	建造物	国登録
21	割烹吉源土蔵 1棟	村上	村上	昭和4年(1929)以前	有形文化財	建造物	国登録
22	早撰堂菓子店主屋 1棟	村上	村上	明治27年(1894)	有形文化財	建造物	国登録
23	早撰堂菓子店西土蔵 1棟	村上	村上	明治20年(1887)	有形文化財	建造物	国登録
24	早撰堂菓子店東土蔵 1棟	村上	村上	大正時代初期	有形文化財	建造物	国登録

25	ギャラリーやまきち主屋 1棟	村上	村上	昭和時代 初期	有形文化財	建造物	国登録
26	ギャラリーやまきち土蔵 1棟	村上	村上	明治時代 初期	有形文化財	建造物	国登録
27	ギャラリーやまきち奥の土蔵 1棟	村上	村上	昭和3年 (1928)	有形文化財	建造物	国登録
28	山上染物店主屋 1棟	村上	村上	江戸時代後期～ 明治時代初期	有形文化財	建造物	国登録
29	井筒屋旅館主屋 1棟	村上	村上	明治時代 末期	有形文化財	建造物	国登録
30	経王寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
31	長法寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
32	西真寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
33	妙法寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
34	妙性寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
35	観音寺地藏堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
36	龍阜院本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
37	長楽寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
38	満福寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
39	東林寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
40	善澤寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
41	浄国寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
42	行恩寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
43	本悟寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
44	善龍寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
45	宝光寺観音堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
46	光徳寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
47	願浄寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
48	等覚寺本堂	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	
49	旧村上貯蓄銀行	村上	村上	昭和時代 初期	有形文化財	建造物	
50	三の丸記念館	村上	村上	明治時代 後期	有形文化財	建造物	
51	旧村上中学校 正門・守衛室	村上	村上	明治時代 後期	有形文化財	建造物	
52	ナショナルトラスト調査物件(503件)	村上	村上		有形文化財	建造物	
53	九重園(店舗・座敷棟・古土蔵・新土蔵)	村上	村上	江戸時代～ 大正時代	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
54	宮尾酒造(主屋)	村上	村上	江戸時代 後期	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
55	吉川酒舗(主屋・土蔵・醤油蔵・入蔵)	村上	村上	江戸時代 後期	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
56	てんや味噌醤油店(主屋・土蔵)	村上	村上	大正時代	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
57	安善寺(山門)	村上	村上	江戸時代 中期	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
58	観音寺(山門・観音堂)	村上	村上	江戸時代 中期～後期	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
59	木村家住宅(主屋)	村上	村上	江戸時代 後期	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
60	常盤園(主屋・西土蔵・東土蔵)	村上	村上	江戸時代末期 ～明治時代	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
61	孫惣刃物鍛冶店(主屋)	村上	村上	江戸時代 後期	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	
62	益田甚兵衛酒店(店舗・座敷棟・新座敷棟・土蔵・酒蔵)	村上	村上	明治時代～ 昭和時代	有形文化財	市歴史の風致 形成建造物	

63	大川屋製材所(主屋・土蔵)	村上	村上	明治時代～ 大正時代	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
64	一キ矢部茶店(主屋)	村上	村上	明治時代 後期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
65	旧渡辺家住宅(主屋)	村上	村上	昭和時代 前期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
66	山口家住宅(主屋・門)	村上	村上	江戸時代 後期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
67	大竹家・轟家住宅(主屋)	村上	村上	江戸時代 後期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
68	やすらぎ処石亀(主屋・土蔵)	村上	村上	江戸時代後期～ 明治時代前期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
69	ゑびす屋土蔵(土蔵)	村上	村上	明治時代 後期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
70	旧細野家住宅(主屋)	村上	村上	大正14年 (1925)	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
71	観音寺(庫裡・石段・古峯神社)	村上	村上	江戸時代中期 ～大正時代	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
72	旧石田園(前の蔵・次の蔵・製茶場・茶箱蔵・味噌蔵・離れ)	村上	村上	江戸時代後期～ 昭和時代前期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
73	旧共立鉄工所(中央棟・西棟・東棟)	村上	村上	明治時代	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
74	須藤家住宅(主屋)	村上	村上	明治32年 (1899)	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
75	庚申堂(本堂・仁王門・経蔵・参道)	村上	村上	江戸時代中期 ～明治時代	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
76	富士美園(旧製茶工場)	村上	村上	大正11年 (1922)	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
77	西寶院(観音堂)	村上	村上	昭和11年 (1936)	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
78	西奈弥羽黒神社(社殿・石段・二の鳥居・手水舎)	村上	村上	明治時代	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
79	茶館きっかわ嘉門亭(主屋)	村上	村上	明治25年 (1892)	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
80	伊勢神社(社殿・鳥居・古峯神社)	村上	村上	大正時代～ 昭和時代初期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
81	石原稲荷大明神(社殿・鳥居)	村上	村上	明治時代前期～ 昭和時代初期	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
82	吉田家住宅(主屋)	村上	村上	昭和15年 (1940)	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	
83	釈迦三尊十六善神像 1幅	村上	村上	江戸時代 中期	有形文化財	美術工芸品 (絵画)	市
84	曼荼羅図 1幅	村上	村上	江戸時代 中期	有形文化財	美術工芸品 (絵画)	市
85	専念寺仏画	村上	村上	明治時代	有形文化財	美術工芸品 (絵画)	
86	本悟寺仏画	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (絵画)	
87	木造丈六阿弥陀如来座像 1躯	村上	村上	江戸時代 後期	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
88	間部詮房座像(木造)1躯	村上	村上	慶応3年 (1867)	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
89	狛犬 1対	村上	村上	江戸時代 初期	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
90	光濟寺聖徳太子像	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
91	浄国寺木造釈迦涅槃	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
92	光徳寺阿弥陀如来立像	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
93	大青面金剛王像	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
94	神具椀 15客	村上	村上	元禄3年 (1690)	有形文化財	美術工芸品 (工芸品)	市
95	村上忠勝寄進状 2葉	村上	村上	元和2年 (1616)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
96	村上吉兵衛書状 1葉	村上	村上	元和2年 (1616)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
97	磐船活版史記 24冊	村上	村上	寛政4年 (1792)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
98	村上町年行事文書 1紙文書:1,888点 冊子文書:620点	村上	村上	江戸時代前期～ 明治時代初期	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
99	本悟寺書跡	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	
100	常福寺大般若經	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	

101	村上地区の古文書(18件)	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (古文書)	
102	西奈彌羽黒神社文書(江見啓斎翁日誌ほか)	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (古文書)	
103	間部詮房位牌 1基	村上	村上	享保5年 (1720)	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
104	歴代内藤侯墓碑 12基、堀丹後守直奇侯顕彰 墓碑 1基、榊原孫七郎墓碑 1基	村上	村上	江戸時代 中期～後期	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
105	享保7年越後国村上城絵図 1舗	村上	村上	享保7年 (1722)	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
106	種川碑 1基	村上	村上	明治26年 (1893)	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
107	鳥居三十郎碑 1基	村上	村上	明治21年 (1888)	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
108	村上藩士殉難碑 1基	村上	村上	明治43年 (1910)	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
109	九品仏 9体	村上	村上	江戸時代 中期	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
110	内藤家歴代当主肖像画 10点 附 表面紙2点	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
111	火伏せの「い」の字石	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
112	奉納額	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
113	村上堆朱	村上	村上	江戸時代 後期	無形文化財	工芸技術	県
114	茶道(各流派)	村上	村上		無形文化財	生活文化	
115	武道(剣道、居合道、裁断道、弓道)	村上	村上		無形文化財	生活文化	
116	絵馬「繋ぎ駒」 1面	村上	村上	宝永5年 (1708)	民俗文化財	有形の民俗文 化財	市
117	絵馬「遊馬」 1面	村上	村上	江戸時代 中期	民俗文化財	有形の民俗文 化財	市
118	武者絵「曾我五郎・十郎」 1面	村上	村上	宝永2年 (1705)	民俗文化財	有形の民俗文 化財	市
119	武者絵「牛若丸五条橋図」 1面	村上	村上	江戸時代 後期	民俗文化財	有形の民俗文 化財	市
120	雛屏風 1面	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	有形の民俗文 化財	市
121	漢詩大額「羽黒山八景」 1面	村上	村上	江戸時代 中期	民俗文化財	有形の民俗文 化財	市
122	旧磐舟文華博物館収蔵資料	村上ほか			民俗文化財	有形の民俗文 化財	
123	三面川の鮭漁関係用具	村上～朝日	村上、朝日		民俗文化財	有形の民俗文 化財	
124	村上茶製茶用具	村上	村上		民俗文化財	有形の民俗文 化財	
125	村上祭の屋台行事	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文 化財	国
126	鍛冶町御囃子	村上	村上	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文 化財	市
127	行事の料理	全域			民俗文化財	無形の民俗文 化財	
128	三面川の鮭漁	村上～朝日	村上		民俗文化財	無形の民俗文 化財	
129	村上の鮭の食文化	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文 化財	国100年フード
130	製茶(村上茶)	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文 化財	
131	酒造	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文 化財	
132	醤油醸造	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文 化財	
133	製菓(和菓子)	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文 化財	
134	初午	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文 化財	
135	地藏盆	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文 化財	
136	村上七夕祭り	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文 化財	
137	六斎市	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文 化財	
138	町屋の人形さま巡り	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文 化財	

139	町屋の屏風まつり	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	
140	村上甚句	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	
141	村上弁(武家町、町人町のことば)	村上			無形文化財	無形の民俗文化財	
142	村上城跡	村上	村上	戦国時代～江戸時代	記念物	遺跡	国
143	旧村上城石垣・石段	村上	村上	江戸時代中期	記念物	遺跡	市
144	若林家住宅庭園	村上	村上	明治時代	記念物	名勝地	市
145	満福寺庭園	村上	村上	江戸時代後期～昭和時代	記念物	名勝地	
146	ごようまつ 1本	村上	村上	樹齢約300年	記念物	植物	市
147	けやき 4本	村上	村上	樹齢約200年	記念物	植物	市
148	こうやまき 1本	村上	村上	樹齢約400年	記念物	植物	市
149	かりん 1本	村上	村上	樹齢約200年	記念物	植物	市
150	たかおもみじ 1本	村上	村上		記念物	植物	市
151	うらじろがし 1本	村上	村上	樹齢約400年	記念物	植物	市
152	大工	村上			文化財の保存技術		
153	石工	村上			文化財の保存技術		
154	建具	村上			文化財の保存技術		
155	表具	村上			文化財の保存技術		
156	製材	村上			文化財の保存技術		
157	板金	村上			文化財の保存技術		
158	漆工	村上			文化財の保存技術		
159	塗装	村上			文化財の保存技術		
160	瓦葺き	村上			文化財の保存技術		
161	畳	村上			文化財の保存技術		
162	左官	村上			文化財の保存技術		



文化財の保存技術（大工）



文化財の保存技術（漆工）

〔課題〕

- ・歴史的建造物が管理者の不在、建て替えなどによって減少し、歴史的な景観が失われている。
- ・伝統行事の担い手となる子どもの減少により行事の維持が困難となっている。
- ・伝統行事の参加者の中でも行事の意味、文化財的な価値を知る人が減少している。

- ・伝統産業の後継者が不足し、技術の保存継承が危惧されている。
- ・文化財を保存修理する技術者が減少している。

[方針]

- ・歴史的建造物の所有者や関係者へ働きかけ、指定や登録等の制度を活用した保護措置を検討する。
- ・村上市歴史的風致維持向上計画や村上市景観計画に基づく事業と連携して、歴史的な景観の保全、伝統行事の保存・活用を図る。
- ・伝統行事の担い手確保に向けて地域全体で行事を伝承する体制を整備する。
- ・伝統行事の文化財的な価値を明らかにするための調査や研究を進め、その成果を周知する。
- ・一般市民が伝統行事、伝統技術を体験できる機会を設ける。
- ・関係団体の連携による研修会、学習会などを通じて伝統技術の周知、後継者育成を図る。

表 24 関連文化財群 3 の事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期											主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)		
3-1	歴史遺構の顕在化調査 旧村上城下大手門ほかの復元、顕在化に向けた文献調査、現地調査	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費	
3-2	史跡村上城跡の整備 石垣修理ほか史跡内の調査、遺構整備、環境整備	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費	
3-3	重要文化財若林家住宅の保存修理 屋根修理、内部修理ほか	市	△	△	△						△	△	国・県補助、市費	
3-4	重要文化財若林家住宅の公開 住宅内部及び敷地内の一般公開、敷地内の環境整備	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費	
3-5	市指定文化財武家住宅の保存修理 屋根修理、内部修理ほか	市	△	△	△						△	△	国交付金、市費	
3-6	市指定文化財武家住宅の公開 住宅内部及び敷地内の一般公開、敷地内の環境整備	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費	
3-7	歴史的風致形成建造物の保存 市独自指定の建造物に対する外観修景への補助	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国交付金、市費	
3-8	むらかみ町屋再生プロジェクト 町屋の外観修景による歴史的町並みの再生	市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
3-9	「人形さま巡り」「屏風まつり」 歴史的建造物である町屋内部を公開するイベントの開催	市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
3-10	チーム黒堀プロジェクト 安善小路の修景による歴史的町並みの再生	市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
3-11	建造物外観修景 歴史的風致形成建造物の外観修景による歴史的町並みの再生	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国交付金、市費	

3-12	旧武家町の景観整備 旧武家町地区の生け垣などの環境維持・整備	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市補助
3-13	重点区域の道路美装化 歴史的景観の再生に向けた道路美装化の検討、実施	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国交付金、市費
3-14	重点区域の無電柱化 歴史的町並みの再生に向けた無電柱化の検討、実施	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国交付金、市費
3-15	旧村上城下の歴史遺構跡整備 旧村上城下の土塁、堀、門跡などの整備、顕在化、関係調査	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
3-16	村上木彫堆朱の産業育成 技術者の育成による伝統技術の継承	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
3-17	歴史的資源の学習会 村上城下町の町並み探検会、学習会の開催	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3-18	伝統芸能の体験講座 村上祭、村上七夕祭などの体験講座の開催	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	



村上城跡の石垣解体調査



村上祭の体験講座

〔関連文化財群4〕「海、山、川を通じた交流」

ストーリー

海、山、川を結び古代から行われてきた交易活動は、江戸時代に北前船による日本海の海上交易ルートが整備されたことで本市でも大きな発展を遂げた。海岸部の港（海老江、塩谷、岩船、瀬波）は北前船の寄港地となり、これらの港が海路と陸路（浜通り、三国街道中通り、出羽街道、米沢街道、その他間道）を結び、人、文化、物資の交流が盛んに行われた。

また、江戸時代後期から明治時代に北前船による交易が活発に行われるなかで、山北地域～村上地域の海岸部の集落からも海運業に関わる人々が多く現れ、その足跡は北海道から西日本にかけての日本海沿岸部各地の港町に残された古文書にも記されている。

本市でも海路での交流の歴史は港町の町並みや古文書や絵図などの資料、陸路での交流の歴史は街道沿いの道標や遺跡、民俗芸能などとして各地域に残り、往時の賑わいを伝えている。

表 25 関連文化財群 4 の構成文化財一覧

番号	文化財の名称	地域	地区	年代	分類	種別	指定区分
1	旧野澤豊五郎醸造醤油蔵 1棟	神林	砂山	明治時代後期～ 大正時代前期	有形文化財	建造物	国登録
2	旧野澤豊五郎醸造前蔵 1棟	神林	砂山	明治40年 (1907)	有形文化財	建造物	国登録
3	旧野澤豊五郎醸造下蔵 1棟	神林	砂山	大正6年 (1917)	有形文化財	建造物	国登録
4	野澤食品工業株式会社店舗兼主屋 1棟	神林	砂山	明治4年 (1871)	有形文化財	建造物	国登録
5	野澤家住宅主屋 1棟	神林	砂山	明治前期～ 後期	有形文化財	建造物	国登録
6	瀬賀惣一郎商店店舗兼主屋 1棟	神林	砂山	昭和9年 (1934)	有形文化財	建造物	国登録
7	瀬賀惣一郎商店倉庫 1棟	神林	砂山	昭和4年 (1929)	有形文化財	建造物	国登録
8	八坂神社社殿	村上	瀬波	江戸時代	有形文化財	建造物	
9	仲雲寺本堂	村上	上海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
10	雲冲寺本堂	村上	上海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
11	早川寺本堂	村上	上海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
12	薬師堂	山北	下海府	江戸時代 中期	有形文化財	建造物	
13	大日如来堂	山北	下海府	江戸時代 中期	有形文化財	建造物	
14	雷番所関係資料 3冊	山北	大川谷	江戸時代 中期	有形文化財	美術工芸品 (古文書)	市
15	伴田家資料	村上	岩船	江戸時代～ 明治時代	有形文化財	美術工芸品 (古文書)	未指定 (日本遺産)
16	海老江港関係資料	荒川	金屋	江戸時代 後期	有形文化財	美術工芸品 (古文書)	未指定 (日本遺産)
17	船建造打合せ設計図 1面	山北	八幡	天保15年 (1844)	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
18	塩谷港絵図 2舗	神林	砂山	江戸時代 末期	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市 (日本遺産)
19	旧大川谷村道路元標 1基	山北	大川谷	大正時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
20	旧黒川俣村道路元標 1基	山北	黒川俣	大正時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
21	旧高根村道路元標 1基	朝日	高根	大正時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
22	旧三面村道路元標 1基	朝日	三面	大正時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
23	旧平林村道路元標 1基	神林	平林	大正時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
24	瀬波八坂神社の船絵馬 13点	村上	瀬波	江戸時代後期 ～明治時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市 (日本遺産)
25	船絵馬 23点	山北	大川谷、八幡、 下海府	江戸時代後期 ～明治時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
26	山北地域の船絵馬群(宝蔵寺船絵馬ほか)	山北	大川谷、八幡、 下海府	江戸時代後期 ～明治時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市 (日本遺産)
27	上海府地区の船絵馬群(早川寺船絵馬ほか)	村上	上海府	江戸時代後期 ～明治時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	一部市 (日本遺産)
28	八坂神社の船絵馬と和船模型	村上	瀬波	江戸時代後期 ～明治時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	一部市 (日本遺産)
29	旧出羽道道標	朝日	舘腰	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
30	旧猿沢村道路元標	朝日	猿沢	大正時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
31	旧岩船町道路元標	村上	岩船	大正時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
32	旧金屋村道路元標	荒川	金屋	大正時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
33	上助測道標	神林	神納東	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
34	岩船潟干拓碑	村上	岩船	明治時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
35	道標	朝日	高根	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
36	蒸気機関車	荒川	保内	昭和時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	

37	村上堆朱	村上	村上	江戸時代後期	無形文化財	工芸技術	県
38	旧磐舟文華博物館収蔵資料	村上ほか			民俗文化財	有形の民俗文化財	
39	瀬波祭	村上	瀬波	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	未指定 (日本遺産)
40	岩船祭	村上	岩船	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	県 (日本遺産)
41	中継の一里塚	山北	中俣	江戸時代	記念物	遺跡	市
42	北前船係留杭跡	村上	瀬波	江戸時代末期	記念物	遺跡	未指定 (日本遺産)
43	日和山と方角石	村上	瀬波		記念物	遺跡	未指定 (日本遺産)
44	瀬波の町並み(瀬波上町から瀬波浜町)	村上	瀬波		記念物	遺跡	未指定 (日本遺産)
45	岩船の町並み(岩船地藏町から岩船縦新町)	村上	岩船		記念物	遺跡	未指定 (日本遺産)
46	塩谷の町並み	神林	砂山		記念物	遺跡	未指定 (日本遺産)
47	稲荷山(番所山)	神林	砂山	江戸時代	記念物	遺跡	未指定 (日本遺産)
48	海老江港跡	荒川	金屋		記念物	遺跡	未指定 (日本遺産)
49	大沢峠の石畳	山北～朝日	黒川俣～塩野町		記念物	遺跡	
50	小俣の町並み	山北	中俣		記念物	遺跡	
51	猿沢の町並み	朝日	猿沢		記念物	遺跡	
52	柳生戸道(塩の道)	朝日	館腰		記念物	遺跡	
53	塩の道	朝日	塩野町		記念物	遺跡	
54	下海府の隧道	山北	下海府		記念物	遺跡	
55	坂町機関区跡	荒川	保内	昭和時代	記念物	遺跡	



塩谷の町並み（町並散策会）



八坂神社の船絵馬と和船模型（歴史学習会）

[課題]

- ・北前船に関する文化財は市全域での詳細な把握調査が未実施で、所在が十分に把握されていない。
- ・北前船日本遺産構成文化財の所有者、管理者による連携体制が整備されていない。
- ・旧道沿いの文化財（石造物ほか歴史資料）は一部で調査が実施され、保存されているが、未調査の文化財が多くある。
- ・交流の歴史に関する文化財は市全域に所在し、一部は地元で認知、保存されているが、市全体での調査・研究と価値付けが不十分で存在が認知されていない。

[方針]

- ・北前船に関する文化財について市全域を対象として調査を実施し、文化財の把握に努める。
- ・北前船日本遺産推進協議会と連携して北前船関係文化財の周知、保存・活用を図る。
- ・北前船日本遺産構成文化財の所有者、管理者と市が連携し、日本遺産の保存・活用に向けた体制を整備する。
- ・旧道沿いの文化財について市全域を対象とした追加調査を実施し、文化財の把握に努める。
- ・交流の歴史に関する文化財について、各地域の文化財所有者、保存団体、まちづくり協議会などと連携して調査・研究を進め、市全体の歴史の中での価値を明らかにして認知度の向上を図る。
- ・交流の歴史に関する文化財の価値を市内外へ発信し、各地域固有の文化財として保存・活用を図る。

表 26 関連文化財群 4 の事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期											主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)		
4-1	北前船寄港地の魅力発信 北前船日本遺産推進協議会との連携による魅力発信事業	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費	
4-2	観光プロモーション事業 国内への情報発信とともに外国人観光客の誘客を図るため海外への情報発信を行う	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費	
4-3	北前船関連資料の展示 市内展示施設での船絵馬、古文書など北前船関係文化財の展示	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費	
4-4	北前船関連歴史講座 市民出前講座などを通じた北前船の歴史紹介	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費	
4-5	歴史資料調査 北前船関係歴史資料の把握、内容調査	◎市 ◇市民・団体	△	△	△								市費	
4-6	地元学校での課外授業 地元小中学校での北前船関係文化財ほか地域の歴史資源の紹介	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
4-7	塩谷町並み散策 塩谷の町並みを活用した町屋散策会	市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
4-8	北前船の史跡散策 瀬波・岩船・塩谷・海老江などの北前船関連史跡を活用した散策会	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
4-9	近世以降の古文書の調査 調査研究による価値付け、調査成果の展示、公開	◎市 ◇市民・団体				△	△	△	△	△	△	△	市費	
4-10	近世以降の石造物ほか歴史資料調査 調査研究による価値付け、調査成果の展示、公開	◎市 ◇市民・団体				△	△	△	△	△	△	△	市費	
4-11	歴史的資源の学習会 各地域での歴史資源を見学、紹介する学習会	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費	

〔関連文化財群5〕「風土に育まれた生業と生活文化」

ストーリー

本市に広がる山地から生まれた水の流れはやがて三面川や荒川などの河川となり、平野部を潤したのちに南北に長い海岸線の各所で日本海へ注いでいる。これらの自然・地形を生かし、平野部では稲作や畑作を中心とした農業、海岸部では沿岸漁業や製塩、河川部では川漁、山間部では焼畑や紡織、狩猟などが古くから営まれてきた。

豊かな自然を背景とする風土に育まれた生業のうち、川漁では村上地域～朝日地域の三面川に「居繰網漁^{いぐりあみりょう}」、山北地域の大川に「コド漁」と呼ばれる独特の伝統漁法が伝えられており、本市の広い地域では鮭を「イヨボヤ（魚の中の魚という意味）」と呼び特に大切なものとする固有の「鮭の文化」が伝えられている。また、農業では山北地域に「灰の文化」が残り、焼畑による赤カブづくり、灰で作った「灰汁^{あぐ}」で作るアク笹巻きなどの食文化が伝承され、山北地域に隣接し同様の食文化が残る山形県庄内地方との密接な関係もみられる。

これらの生業の存在は豊かな自然の恩恵であり、現在も本市の伝統産業として地域を支えている。

表 27 関連文化財群5の構成文化財一覧

番号	文化財の名称	地域	地区	年代	分類	種別	指定区分
1	吉川家住宅主屋 1棟	村上	村上	明治25年 (1892)頃	有形文化財	建造物	国登録
2	吉川家住宅土蔵 1棟	村上	村上	天保12年 (1841)	有形文化財	建造物	国登録
3	益甚酒店店舗 1棟	村上	村上	昭和9年 (1934)	有形文化財	建造物	国登録
4	益甚酒店主屋及び酒蔵 1棟	村上	村上	明治25年 (1892)	有形文化財	建造物	国登録
5	益甚酒店土蔵 1棟	村上	村上	明治43年 (1910)頃	有形文化財	建造物	国登録
6	吉川家住宅店舗 1棟	村上	村上	明治25年 (1892)頃	有形文化財	建造物	国登録
7	割烹吉源主屋 1棟	村上	村上	昭和4年 (1929)	有形文化財	建造物	国登録
8	割烹吉源土蔵 1棟	村上	村上	昭和4年 (1929)以前	有形文化財	建造物	国登録
9	早撰堂菓子店主屋 1棟	村上	村上	明治27年 (1894)	有形文化財	建造物	国登録
10	早撰堂菓子店西土蔵 1棟	村上	村上	明治20年 (1887)	有形文化財	建造物	国登録
11	早撰堂菓子店東土蔵 1棟	村上	村上	大正時代 初期	有形文化財	建造物	国登録
12	ギャラリーやまきち主屋 1棟	村上	村上	昭和時代 初期	有形文化財	建造物	国登録
13	ギャラリーやまきち土蔵 1棟	村上	村上	明治時代 初期	有形文化財	建造物	国登録
14	ギャラリーやまきち奥の土蔵 1棟	村上	村上	昭和3年 (1928)	有形文化財	建造物	国登録
15	山上染物店主屋 1棟	村上	村上	江戸時代後期～ 明治時代初期	有形文化財	建造物	国登録
16	井筒屋旅館主屋 1棟	村上	村上	明治時代 末期	有形文化財	建造物	国登録
17	旧野澤豊五郎醸造醤油蔵 1棟	神林	砂山	明治時代後期～ 大正時代前期	有形文化財	建造物	国登録
18	旧野澤豊五郎醸造前蔵 1棟	神林	砂山	明治40年 (1907)	有形文化財	建造物	国登録
19	旧野澤豊五郎醸造下蔵 1棟	神林	砂山	大正6年 (1917)	有形文化財	建造物	国登録
20	野澤食品工業株式会社店舗兼主屋 1棟	神林	砂山	明治4年 (1871)	有形文化財	建造物	国登録
21	野澤家住宅主屋 1棟	神林	砂山	明治時代 前期～後期	有形文化財	建造物	国登録
22	瀬賀惣一郎商店店舗兼主屋 1棟	神林	砂山	昭和9年 (1934)	有形文化財	建造物	国登録
23	瀬賀惣一郎商店倉庫 1棟	神林	砂山	昭和4年 (1929)	有形文化財	建造物	国登録
24	九重園(店舗・座敷棟・古土蔵・新土蔵)	村上	村上	江戸時代～ 大正時代	有形文化財	市歴史的風致 形成建造物	

25	宮尾酒造(主屋)	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
26	吉川酒舗(主屋・土蔵・醤油蔵・入蔵)	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
27	てんや味噌醤油店(主屋・土蔵)	村上	村上	大正時代	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
28	常盤園(主屋・西土蔵・東土蔵)	村上	村上	江戸時代末期～明治時代	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
29	孫惣刃物鍛冶店(主屋)	村上	村上	江戸時代後期	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
30	益田甚兵衛酒店(店舗・座敷棟・新座敷棟・土蔵・酒蔵)	村上	村上	明治時代～昭和時代	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
31	大川屋製材所(主屋・土蔵)	村上	村上	明治時代～大正時代	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
32	一キ矢部茶店(主屋)	村上	村上	明治時代後期	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
33	旧石田園(前の蔵・次の蔵・製茶場・茶箱蔵・味噌蔵・離れ)	村上	村上	江戸時代後期～昭和時代前期	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
34	旧共立鉄工所(中央棟・西棟・東棟)	村上	村上	明治時代	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
35	富士美園(旧製茶工場)	村上	村上	大正11年(1922)	有形文化財	市歴史的風致形成建造物	
36	御境石	村上	山辺里	江戸時代～明治時代	有形文化財	美術工芸品(歴史資料)	
37	耕地整理の碑	朝日	猿沢	明治時代末期	有形文化財	美術工芸品(歴史資料)	
38	耕地整理の碑	朝日	猿沢	大正時代前期	有形文化財	美術工芸品(歴史資料)	
39	堤下瓦窯跡出土品	神林	神納	江戸時代後期	有形文化財	美術工芸品(考古資料)	
40	村上堆朱	村上	村上		無形文化財	工芸技術	県
41	紡績習俗「シナバタ」	山北	中俣		無形文化財	工芸技術	市
42	越後奥三面の山村生産用具 734点	朝日	三面		民俗文化財	有形の民俗文化財	国
43	奥三面の石風呂 1点	朝日	三面		民俗文化財	有形の民俗文化財	市
44	鳴海金山の石うす 6点	朝日	高根		民俗文化財	有形の民俗文化財	市
45	うるしかき道具 8点	朝日	猿沢		民俗文化財	有形の民俗文化財	市
46	旧磐舟文華博物館収蔵資料	村上ほか			民俗文化財	有形の民俗文化財	
47	三面川の鮭漁関係用具	村上～朝日	村上、朝日		民俗文化財	有形の民俗文化財	
48	大川のコード漁関係用具	山北	大川谷		民俗文化財	有形の民俗文化財	
49	村上茶製茶用具	村上	村上		民俗文化財	有形の民俗文化財	
50	村上焼	村上	村上		民俗文化財	有形の民俗文化財	
51	大浜人形	村上	村上		民俗文化財	有形の民俗文化財	
52	越後のしな布紡織習俗	山北	中俣		民俗文化財	無形の民俗文化財	国選択
53	行事の料理	全域			民俗文化財	無形の民俗文化財	
54	山熊田の狩猟	山北	中俣		民俗文化財	無形の民俗文化財	
55	三面川の鮭漁	村上～朝日	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	
56	大川のコード漁	山北	大川谷		民俗文化財	無形の民俗文化財	
57	荒川の鮭漁	荒川			民俗文化財	無形の民俗文化財	
58	村上の鮭の食文化	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	国100年フード
59	焼畑	山北	中俣ほか		民俗文化財	無形の民俗文化財	
60	アケ笹巻き	山北	中俣ほか		民俗文化財	無形の民俗文化財	
61	山北地域の製塩	山北	下海府、大川谷		民俗文化財	無形の民俗文化財	
62	製茶(村上茶)	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	

63	酒造	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	
64	醤油醸造	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	
65	醤油醸造	神林	砂山		民俗文化財	無形の民俗文化財	
66	醤油醸造	荒川	金屋		民俗文化財	無形の民俗文化財	
67	製菓(和菓子)	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	
68	製菓(和菓子)	神林	砂山		民俗文化財	無形の民俗文化財	
69	大行焼	朝日	塩野町		民俗文化財	無形の民俗文化財	
70	養蚕	朝日	猿沢		民俗文化財	無形の民俗文化財	
71	炭焼	神林	神納東		民俗文化財	無形の民俗文化財	
72	炭焼	朝日	高根		民俗文化財	無形の民俗文化財	
73	六斎市	村上	村上		民俗文化財	無形の民俗文化財	
74	大沢金山跡	山北	黒川俣	江戸時代～昭和時代	記念物	遺跡	
75	大毎金山跡	山北	黒川俣	江戸時代～昭和時代	記念物	遺跡	
76	鳴海金山跡	朝日	高根	江戸時代～昭和時代	記念物	遺跡	
77	蒲萄鉦山跡	朝日	塩野町	江戸時代～昭和時代	記念物	遺跡	
78	新保鉦山跡	朝日	塩野町	明治時代～昭和時代	記念物	遺跡	
79	早川鉦山跡	村上	上海府	明治時代～昭和時代	記念物	遺跡	
80	鍋倉鉦山跡	村上	上海府	明治時代～昭和時代	記念物	遺跡	
81	高倉鉦山跡	山北	下海府	明治時代～昭和時代	記念物	遺跡	
82	大谷沢鉦山跡	山北	大川谷	明治時代～昭和時代	記念物	遺跡	
83	大府鉦山跡	山北	大川谷	昭和時代	記念物	遺跡	
84	瀬波温泉噴湯場	村上	瀬波	明治時代	記念物	遺跡	
85	屋根葺(茅葺)	朝日	高根		文化財の保存技術		県



大浜人形



蒲萄鉦山跡

[課題]

- ・農業、漁業、林業など伝統的な生業に従事する人材が減少している。
- ・伝統漁法（大川、三面川の鮭漁）に関わる人材が高齢化、減少している。
- ・生活習俗である紡織、狩猟などでも後継者が不足し、技術の保存継承が危惧されている。
- ・鮭、村上茶、村上木彫堆朱、醸造などの伝統的な産業が存続しているが、これらに従事する技術者（後継者）の育成が課題となっている。

- ・過去に営まれていた産業の遺構、遺産が各地域に存在するが、歴史的価値が周知されていない。
- ・本市の風土を活かした伝統産業の魅力が外部へ十分に発信されていない。

[方針]

- ・農業、漁業、林業など伝統的な生業に従事する人材の育成を図る。
- ・伝統漁法の体験、研修を通じて後継者育成を図る。
- ・生活習俗である紡織、狩猟などの体験、研修を通じて技術の保存継承を図る。
- ・鮭、村上茶、村上木彫堆朱、醸造などの伝統的な産業の技術者（後継者）の育成、振興に関する各種支援を実施する。
- ・関係団体の連携による研修会、学習会などを通じて伝統技術の周知、後継者育成を図る。
- ・市内に残る産業の遺構、遺産の歴史的価値を市民へ周知する。
- ・本市の伝統産業の魅力を外部へ発信し交流人口の増加を図る。

表 28 関連文化財群 5 の事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期										主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	
5-1	居繰網漁の後継者育成 三面川での居繰り網漁の後継者育成	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5-2	伝統的工芸品の振興 伝統的工芸品の魅力づくりや新たな商品開発や販路開拓への取組支援、後継者の確保	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5-3	村上木彫堆朱の産業育成 技術者の育成による伝統技術の継承	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5-4	地域と連携した教育の推進 地域の素材を活用した体験活動や地域の課題について考える学習活動の推進	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
5-5	交流人口の拡大 伝統産業に関する情報発信を通じた外部人材と地域の関わりの促進	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費

〔関連文化財群 6〕「暮らしの中にある信仰と伝承」

ストーリー

自然と共生した生活から生まれた信仰は、各地域で様々な伝統行事となって伝えられている。中でも旧村上城下の祭礼である村上祭、港町の祭礼である岩船祭や瀬波祭では本市を中心とした地域にのみ分布する二層二輪の祭屋台が用いられ、祭屋台の囃子や曳き手が唄う甚句や木遣りとともに、地域外との交流によってもたらされた有形・無形の文化と結びついて発展した地域の歴史を伝えている。

また、荒川地域・神林地域・山北地域にみられる三匹獅子踊りや市内全域にみられる獅子舞、神楽などの芸能を伴う行事のほか、五穀豊穡への祈りを込めた山北のボタモチ祭り、山北地域・朝日地域の奉納相撲などの多様な行事が四季を通じてみられ、季節の移り変わりを鮮やかに彩っている。これらの伝統行事は暮らしの一部となり、行事の舞台となる社寺の建物や行事に関する伝承などとともに受け継がれ、地域のシンボルとして住民の誇りにもなっている。

表 29 関連文化財群 6 の構成文化財一覧

番号	文化財の名称	地域	地区	年代	分類	種別	指定区分
1	浄念寺本堂 1棟 附 棟札1枚・造営絵図2幅	村上	村上	文化15年 (1818)	有形文化財	建造物	国
2	西奈彌羽黒神社境内摂社神明宮本殿 1棟	村上	村上	元禄3年 (1690)	有形文化財	建造物	県
3	弁天堂 1棟	村上	村上	江戸時代	有形文化財	建造物	市
4	耕雲寺山門 1棟	村上	山辺里	江戸時代 中期	有形文化財	建造物	市
5	石動神社境内天満宮 1棟	荒川	金屋	明治14年 (1881)	有形文化財	建造物	市
6	大雄寺境内弁天堂 1棟	荒川	金屋	明治24年 (1891)	有形文化財	建造物	市
7	保呂羽堂 1棟	神林	平林	江戸時代 後期	有形文化財	建造物	市
8	浅間神社 1棟	山北	大川谷	江戸時代 後期	有形文化財	建造物	市
9	浅間神社内宮殿 1棟	山北	大川谷	江戸時代 中期	有形文化財	建造物	市
10	観音堂 1棟	山北	大川谷	天保8年 (1837)	有形文化財	建造物	市
11	藤基神社社殿 1棟	村上	村上	江戸時代 末期	有形文化財	建造物	市
12	藤基神社社殿附属建造物 4棟	村上	村上	江戸時代 末期	有形文化財	建造物	市
13	石船神社社殿	村上	岩船	明治時代 後期	有形文化財	建造物	
14	諸上寺本堂	村上	岩船	江戸時代	有形文化財	建造物	
15	弘願寺本堂	村上	岩船	江戸時代	有形文化財	建造物	
16	本証寺本堂	村上	岩船	江戸時代	有形文化財	建造物	
17	最明寺本堂	村上	岩船	江戸時代	有形文化財	建造物	
18	西奈弥神社社殿	村上	瀬波	大正時代	有形文化財	建造物	
19	八坂神社社殿	村上	瀬波	江戸時代	有形文化財	建造物	
20	大龍寺本堂	村上	瀬波	江戸時代	有形文化財	建造物	
21	善福寺本堂	村上	瀬波	江戸時代	有形文化財	建造物	
22	鑑窓寺本堂	村上	山辺里	江戸時代	有形文化財	建造物	
23	潜龍寺本堂	村上	上海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
24	仲雲寺本堂	村上	上海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
25	雲沖寺本堂	村上	上海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
26	早川寺本堂	村上	上海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
27	若宮八幡神社社殿	荒川	保内	江戸時代	有形文化財	建造物	
28	出羽神社社殿	荒川	保内	江戸時代	有形文化財	建造物	
29	神明宮社殿	荒川	金屋	江戸時代	有形文化財	建造物	
30	須賀神社社殿	荒川	金屋	江戸時代	有形文化財	建造物	
31	石動神社社殿	荒川	金屋	江戸時代	有形文化財	建造物	
32	不動堂	荒川	保内	江戸時代	有形文化財	建造物	
33	東岸寺本堂	荒川	保内	江戸時代	有形文化財	建造物	
34	延命寺本堂	荒川	金屋	江戸時代	有形文化財	建造物	
35	大雄寺法堂	荒川	金屋	江戸時代	有形文化財	建造物	
36	馬頭観世音堂	荒川	金屋	江戸時代	有形文化財	建造物	

37	本性寺本堂	荒川	金屋	江戸時代	有形文化財	建造物	
38	日枝神社社殿	神林	神納	江戸時代	有形文化財	建造物	
39	光明寺本堂	神林	神納	江戸時代	有形文化財	建造物	
40	吉祥寺本堂	神林	神納	江戸時代	有形文化財	建造物	
41	庵寺本堂	神林	平林	江戸時代	有形文化財	建造物	
42	大智院仏堂	神林	平林	江戸時代	有形文化財	建造物	
43	熊野神社社殿	朝日	三面	江戸時代	有形文化財	建造物	
44	医王宮	朝日	館腰	江戸時代	有形文化財	建造物	
45	虚空蔵堂	朝日	猿沢	江戸時代	有形文化財	建造物	
46	大照寺本堂	朝日	猿沢	江戸時代	有形文化財	建造物	
47	茗荷寺本堂	朝日	猿沢	江戸時代	有形文化財	建造物	
48	普濟寺本堂	朝日	館腰	江戸時代	有形文化財	建造物	
49	妙童寺本堂	朝日	三面	江戸時代	有形文化財	建造物	
50	東泉寺本堂	朝日	塩野町	江戸時代	有形文化財	建造物	
51	瑞雲寺本堂	朝日	猿沢	江戸時代	有形文化財	建造物	
52	宝蔵寺本堂	山北	下海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
53	香積寺本堂	山北	八幡	江戸時代	有形文化財	建造物	
54	耕太寺本堂	山北	黒川俣	江戸時代	有形文化財	建造物	
55	大伝寺本堂	山北	下海府	江戸時代	有形文化財	建造物	
56	寺尾神社社殿	朝日	猿沢	江戸時代 末期	有形文化財	建造物	
57	一宮河内神社社殿	朝日	猿沢	江戸時代	有形文化財	建造物	
58	河内二柱神社社殿	朝日	高根	江戸時代	有形文化財	建造物	
59	大山祇神社社殿	山北	八幡	江戸時代 末期	有形文化財	建造物	
60	薬師堂	山北	下海府	江戸時代 中期	有形文化財	建造物	
61	大日如来堂	山北	下海府	江戸時代 中期	有形文化財	建造物	
62	釈迦三尊十六善神像 1幅	村上	村上	江戸時代 中期	有形文化財	美術工芸品 (絵画)	市
63	曼荼羅図 1幅	村上	村上	江戸時代 中期	有形文化財	美術工芸品 (絵画)	市
64	尊念寺仏画	村上	村上	明治時代	有形文化財	美術工芸品 (絵画)	
65	本悟寺仏画	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (絵画)	
66	木造丈六阿弥陀如来座像 1軀	村上	村上	江戸時代 後期	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
67	狛犬 1対	村上	村上	江戸時代 初期	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
68	大聖不動明王座像 1軀	荒川	保内		有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
69	木造阿弥陀如来座像 1軀	荒川	保内	鎌倉時代末期 ～室町時代	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
70	木造十一面観音像 1軀	荒川	保内	平安時代 後期	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
71	釈迦如来坐像 1軀	神林	神納	元龜2年 (1571)	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
72	蔵王権現像(木像) 1軀	山北	大川谷	室町時代 中期	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
73	説法釈迦如来坐像 1軀	山北	大川谷	天文20年 (1551)	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
74	定印阿弥陀如来坐像 1軀	山北	中俣	室町時代 後期	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市

75	聖徳太子立像 1 軀	山北	黒川俣	江戸時代 初期	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
76	地藏菩薩石像 1 軀	山北	黒川俣	宝暦10年 (1760)	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
77	地藏菩薩石塔 1 基	山北	中俣	寛延2年 (1749)	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	市
78	海天寺木像	村上	岩船		有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
79	諸上寺釈迦如来像	村上	岩船		有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
80	最明寺弁財天像	村上	岩船		有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
81	光濟寺聖徳太子像	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
82	浄国寺木造釈迦涅槃	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
83	光徳寺阿弥陀如来立像	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
84	大青面金剛王像	村上	村上	江戸時代	有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
85	烏像	山北	下海府		有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
86	長谷寺聖徳太子像	山北	黒川俣		有形文化財	美術工芸品 (彫刻)	
87	鰐口 1 個	村上	村上	長禄3年 (1459)	有形文化財	美術工芸品 (工芸品)	市
88	蔵王権現懸仏(銅) 2 軀	山北	大川谷	鎌倉時代～ 室町時代	有形文化財	美術工芸品 (工芸品)	市
89	阿弥陀如来坐像懸仏(鉄) 1 軀	山北	大川谷	室町時代	有形文化財	美術工芸品 (工芸品)	市
90	八幡神社神楽面	村上	上海府		有形文化財	美術工芸品 (工芸品)	
91	大般若波羅密多經 第155巻 1 巻	村上	山辺里	応永23年 (1416)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
92	梅山間本禪師遺戒状 1 幅	村上	山辺里	応永22年 (1415)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
93	大般若波羅密多經 第158巻 1 巻	村上	山辺里	応永23年 (1416)	有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	市
94	諸上寺大般若經	村上	岩船		有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	
95	耕雲寺典籍	村上	山辺里		有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	
96	本悟寺書跡	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	
97	常福寺大般若經	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (書跡・典籍)	
98	東岸寺板碑 1 基	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
99	東岸寺石仏 3 軀	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
100	海老江石仏 2 軀	荒川	金屋	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
101	延命寺石仏 1 軀	荒川	金屋	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
102	諏訪神社石仏 1 軀	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
103	春木山石仏A 1 軀	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
104	春木山石仏B 1 軀	荒川	保内	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
105	経筒及び付属品 6 点	神林	神納東	鎌倉時代末期～ 南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
106	六面石幢 1 基	神林	神納	室町時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
107	板碑 1 基	神林	神納	元亨2年 (1322)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
108	板碑 1 基	神林	西神納	元応年間 (1319～21)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
109	板碑 2 基	神林	神納	応永6年 (1399)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
110	板碑 2 基	神林	砂山	元亨元年 (1321)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
111	板碑 1 基	神林	平林	寛永3年 (1626)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
112	板碑 1 基	神林	砂山	明徳年間(1390 ～1395)	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市

113	板碑(阿弥陀如来・陽刻五輪塔ほか) 6基	山北	下海府	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
114	板碑(阿弥陀三尊) 2基	山北	下海府	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
115	板碑(薬師如来) 1基	山北	下海府	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
116	板碑(阿弥陀三尊) 1基	山北	下海府	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
117	板碑(釈迦如来) 1基	山北	中俣	南北朝時代	有形文化財	美術工芸品 (考古資料)	市
118	九品仏 9体	村上	村上	江戸時代 中期	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	市
119	村上地域の石造物	村上			有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
120	荒川地域の石造物	荒川			有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
121	神林地域の石造物	神林			有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
122	朝日地域の石造物	朝日			有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
123	山北地域の石造物	山北			有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
124	奉納額	村上	村上		有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
125	円福寺御沢仏	神林	砂山	明治時代	有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
126	諏訪神社の絵馬	朝日	高根		有形文化財	美術工芸品 (歴史資料)	
127	山北のボタモチ祭り	山北	大川谷		民俗文化財	無形の民俗文化財	国
128	村上祭の屋台行事	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	国
129	岩船まつりのしゃぎり曳行と「とも山」行事	村上	岩船	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	県
130	大須戸能	朝日	塩野町	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	県
131	大栗田のアマメハギ	村上	山辺里		民俗文化財	無形の民俗文化財	市
132	塩野町オサトサマ	朝日	塩野町		民俗文化財	無形の民俗文化財	市
133	上・下鍛冶屋獅子踊り	荒川	保内	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
134	坂町獅子踊り	荒川	保内	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
135	金屋獅子踊り	荒川	金屋	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
136	大津獅子踊り	荒川	金屋	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
137	名割獅子踊り	荒川	金屋	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
138	佐々木区神楽舞	荒川	保内	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
139	鳥屋神楽	荒川	金屋	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
140	大神楽(獅子舞・三番叟)	神林	平林	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
141	大場沢獅子舞	朝日	館腰		民俗文化財	無形の民俗文化財	市
142	府屋獅子舞	山北	大川谷	江戸時代 後期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
143	牛屋獅子舞	神林	砂山	江戸時代 中期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
144	福田獅子踊り	神林	砂山	江戸時代 末期	民俗文化財	無形の民俗文化財	市
145	初午	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	
146	地藏盆	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	
147	村上七夕祭り	村上	村上	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	
148	瀬波祭	村上	瀬波	江戸時代	民俗文化財	無形の民俗文化財	
149	中継風神祭	山北	中俣		民俗文化財	無形の民俗文化財	
150	勝木八幡宮祭礼	山北	八幡		民俗文化財	無形の民俗文化財	

151	高根奉納相撲	朝日	高根		民俗文化財	無形の民俗文化財	
152	関口奉納相撲	朝日	高根		民俗文化財	無形の民俗文化財	
153	村上地域の伝統行事	村上			民俗文化財	無形の民俗文化財	
154	荒川地域の伝統行事	荒川			民俗文化財	無形の民俗文化財	
155	神林地域の伝統行事	神林			民俗文化財	無形の民俗文化財	
156	朝日地域の伝統行事	朝日			民俗文化財	無形の民俗文化財	
157	山北地域の伝統行事	山北			民俗文化財	無形の民俗文化財	
158	経塚	神林	神納東	鎌倉時代末期～南北朝時代	記念物	遺跡	市
159	金毘羅神社昇降石段	荒川	保内	大正4年(1915)	記念物	遺跡	市
160	お滝様	村上	瀬波		記念物	名勝地	
161	滝様	朝日	猿沢		記念物	名勝地	
162	御滝様	山北	大川谷		記念物	名勝地	
163	宮堅八幡宮社叢	山北	八幡		記念物	植物	国
164	石船神社社叢	村上	岩船		記念物	植物	県
165	小俣の白山神社の大スギ 1本	山北	中俣	樹齢約1,200年	記念物	植物	県
166	いちょう 1本	村上	瀬波	樹齢約500年	記念物	植物	市
167	けやき 2本	村上	山辺里		記念物	植物	市
168	大杉群生林 11株	荒川	保内	樹齢約300年	記念物	植物	市
169	熊野神社の七本杉 1株	朝日	三面	樹齢400～550年	記念物	植物	市
170	平林神社のけやき 1本	神林	平林	樹齢約1,000年	記念物	植物	市
171	小岩内の姥杉 1株	神林	平林	樹齢約850年	記念物	植物	市



大須戸能



塩野町オサトサマ

[課題]

- ・伝統行事の担い手となる子どもの減少により行事の維持が困難となっている。
- ・伝統行事の参加者の中でも行事の意味を知る人が減少し、文化財としての価値が忘れられている。
- ・伝統行事の用具等が老朽化しているが、修理に伴う経済的負担が大きくなってきている。
- ・屋台行事や三匹獅子踊りなどの伝統行事を運営するための作法を知る人、伝統行事に用いる用具等を維持するための技術を有する人が減少している。
- ・文化財を保存修理する技術者が減少し、技術の伝承が危惧されている。

[方針]

- ・伝統行事の担い手確保に向けて地域全体で行事を伝承する体制を整備する。
- ・伝統行事の文化財的な価値を明らかにするための記録調査や研究を進め、その成果を周知する。
- ・伝統行事の用具等の修理に対して各種助成制度を活用した支援を充実させる。
- ・伝統行事の保存団体会員のほか、保存団体会員以外の伝統行事参加者が屋台行事や三匹獅子踊りなどの行事に関する作法や技術を体験できる機会を設ける。
- ・関係団体との連携による研修会、学習会などを通じて伝統技術の周知、後継者育成を図る。

表 30 関連文化財群 6 の今後の事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期										主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	
6-1	村上祭の伝承支援 各種補助事業による屋台等修理を通じた伝承体制の強化	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
6-2	伝統行事の伝承支援 各種補助事業による伝統行事の用具等修理への支援を通じた伝承体制の強化	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県補助、市費
6-3	文化財修理技術の伝承支援 祭屋台等の修理、保存技術に関する研修会等を通じた技術伝承	◎市民・団体 ◇市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6-4	大須戸能薪能 大須戸八坂神社能舞台での薪能開催	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
6-5	伝統行事の現地学習会 各地域での伝統行事を現地見学、紹介する学習会	◎市民・団体 ◇市			△		△		△		△		
6-6	伝統芸能の体験講座 大須戸能、三匹獅子踊りなどの体験講座	◎市民・団体 ◇市				△		△		△		△	
6-7	伝統行事の記録調査、研究 各地域の伝統行事の映像記録、文書記録の作成、研究	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費



文化財保存技術の研修会



大須戸能の謡体験講座

第9章 文化財の防災・防犯に関する課題と方針

1 文化財の防災・防犯に関する現状と課題

文化財の保存を脅かす要因は様々なものがあるが、本市では特に自然災害によって文化財がたびたび被害を受けている。

近年の大規模な自然災害として、令和元年6月の山形県沖地震、令和4年8月3日からの大雨が挙げられる。令和元年6月の山形県沖地震では山北地域で最大震度6強を観測し、建造物への被害のほか国名勝・天然記念物「笹川流」では指定地内で斜面の崩落がみられた。今後も日本海や内陸部を震源とした地震が発生する危険があり、歴史的建造物への被害も懸念されている。また、令和4年8月3日からの大雨は村上市、関川村、胎内市、阿賀町など新潟県北地域を中心に記録的な大雨となり、平林城跡（国史跡）、馬場館跡（県史跡）などで土塁の崩壊、史跡内道路の陥没などの被害がみられた。大雨は局地的に発生する頻度が高まっており、今後も文化財への被害が懸念されている。



大雨による遺跡の被害



暴風雪による建造物の被害

自然災害のほかに火災や盗難などによる被害も危惧され、特に建造物や美術工芸品などについて対策が必要となっている。火災に関しては歴史的建造物、美術工芸品を所蔵する施設に自動火災報知機等の防災施設が整備されていない場合が多く、防犯に関しては仏像ほか各種の文化財が納められている社寺などで建物への侵入に対する警備体制が不十分な場合が多い。文化財にかかる防災・防犯体制の整備状況は十分ではなく、災害時の対応も十分に検討されていないため、関係設備の設置状況の実態把握とともに災害等のケースに応じた対応の検討が必要となっている。

2 文化財の防災・防犯に関する方針

文化財の防災・防犯の措置は、文化庁の「世界遺産・国宝等における防火対策5か年計画」、「国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン」、「国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」、新潟県の「新潟県文化財保存活用大綱」に定められた文化財の危機管理に関する方針を参考として、「村上市地域防災計画」に基づき具体的に定める。

「村上市地域防災計画」は災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第42条の規定に基づき平成21年8月に村上市が策定したもので、この計画では文化財の現状や防災・防犯設備の整備状況を把握し、災害発生時の措置をあらかじめ定めるものとしている。また、災害発生時の対策については、文化財の被害状況を把握したうえで必要な応急措置を行うことで被害の軽減に努めるものとしている。

これらの計画をもとに、災害等に対する文化財の被害軽減、市民・関係者の防災意識向上を図るため、火災対策としては消防設備の整備とともに、所有者や管理者、地域住民、消防署の連携による消防訓練や機器点検を実施することで被害軽減と防災環境の向上を図る。

また、風水害・地震対策としては、村上市防災ハザードマップ（洪水・土砂災害・津波）を参考とし、文化財の所在地とあわせて災害時の対応について市民へ周知するとともに、歴史的建造物の耐震診断を推進し、可能な範囲で耐震補強工事の実施を検討する。

なお、大規模災害の場合は文化財防災センターなどの外部支援（文化財レスキュー、文化財ドクターの派遣）を新潟県に要請する。

防犯対策としては、市所有の武家住宅の定期的な巡回、社寺や個人所有の文化財に対しては防犯対策を周知するなど、警察署とも連携を図りながら適切な対応を図る。

表 31 文化財の防災・防犯に関する今後の事業

番号	事業名・事業内容	事業主体	実施時期										主な財源
			R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)	R15 (2033)	R16 (2034)	R17 (2035)	
1	重要文化財若林家住宅の防災、防犯施設整備 屋外放水銃修理、屋内警備設備修理ほか	市	△	△	△								国・県補助、市費
2	市指定文化財武家住宅の防災、防犯施設整備 防災設備修理、防犯設備修理ほか	市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
3	市内武家住宅の防災訓練 避難訓練、屋外放水訓練ほか	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	市費
4	市所有物件以外の国・県・市指定文化財の防災、防犯設備の整備 文化財所有者・関係団体に対する設備整備の支援	◎市 ◇市民・団体	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	国・県・市補助
5	防災、防犯に関する研修会 文化財所有者・関係団体に対する防災・防犯従事者の育成研修	◎市 ◇市民・団体			△	△	△						市費

表 32 災害発生時における関係者の役割分担

区分	各自の責務
文化財所有者	災害により被災した文化財の被害状況を把握するとともに、市等にその実態を報告し、必要に応じて支援を要請する。また、市等の協力を得て、二次的災害から文化財を保護し、その文化的価値がより失われないような必要措置をとる。
村上市	文化財の被害状況を把握し、早急に県に報告するとともに、文化財所有者や地域住民等と協力し、必要に応じて、応急的修理及び一時搬出等の救済措置を講ずる。
新潟県	市や文化財保護指導員等からの報告・連絡などを通じて、文化財の被害状況把握に努めるとともに、必要に応じて文化財担当職員を現地に派遣して状況確認を行い、応急措置等への協力及び指導・助言を行う。

表 33 文化財の種別ごとの対応

文化財の種別	種別ごとの対策
建造物	文化財所有者は、余震・降雪等による被害拡大のおそれのあるものについては、可能な限り応急的措置を施し、本格的な修理・修復まで現状維持できるような対応を行う。 市及び県は、それを指導・助言するとともに、可能な限りの支援を行う。
美術工芸品及び有形文化財	文化財所有者は、文化財が展示・収蔵されている施設そのものが倒壊又はその危険性がある場合には、市及び県並びに地域住民等の協力を得て可能な限り速やかに当該施設から搬出し、その保護・保存を図る。あわせて、被災した文化財に関しては、その原状復旧を前提とした措置を施し、本格的な修理・修復に備える。
史跡、名勝及び天然記念物	文化財所有者は、可能な限り被害状況の把握に努め、余震・降雪等による二次的倒壊・崩落を極力防止するために、危険のない範囲で応急的措置を講ずるよう対応する。 市及び県は、それを指導・助言するとともに、可能な限りの支援を行う。

表 34 住民・地域等の役割、文化財指定種別ごとの対応

区分		各自の役割
住民		文化財に被害が見られた場合には、所有者又は関係機関等へ可能な限り連絡を行うとともに、危険のない範囲で、被災文化財救出活動等への参加・協力を行う。
地域		地域全体の共有財産である文化財を保存・継承するために、所有者又は管理責任者と確認を取り合いながら、可能な限り被災文化財の保護・救出活動に当たる。
文化財所有者及び管理責任者		危険のない範囲で被災文化財の保護・救出等に当たるとともに、市教育委員会等の関係機関へ被害状況を報告し、応急的処置及び修理についての協力や指示を求める。
村 上 市	国及び県指定等文化財	市内に所在する文化財の被害状況を把握し、速やかに県に報告するとともに、可能な限り被災文化財の保護・救出活動に当たる。あわせて、被災文化財に係る応急的措置及び修理について、関係諸機関と連絡・調整を図り、所有者又は管理責任者に対する指導・助言の仲立ちをする。
	市指定等文化財	文化財の被害状況把握を行うとともに、可能な限り被災文化財の保護・救出等の活動に当たる。あわせて、応急的措置及び修理についての助言・指導を行い、必要に応じて所有者・管理責任者からの相談や協力要請に応じる。
	未指定文化財	被災文化財に対する保護・保全を呼びかけるとともに、所在リスト等を参考に被害状況を確認し、必要に応じて所有者等からの相談や協力要請に応じる。
新 潟 県	国及び県指定等文化財	必要に応じて現地に担当職員を派遣するなどして文化財の被害状況を把握・確認し、国関係機関等と連絡を取り合いながら、被災文化財の応急的措置及び修理についての協力及び指導・助言を行う。
	市指定等文化財	市等を通じて文化財の被害状況を把握し、必要に応じて被災文化財に係る種々の相談や協力要請に応じる。
	未指定文化財	被災文化財に対する保護・保全を呼びかけるとともに、所在リスト等を参考に市を通じて被害状況を確認し、必要に応じて種々の相談や協力要請に応じる。

第10章 文化財の保存・活用の推進体制

1 文化財の保存・活用の推進体制

地域計画の推進にあたっては文化財の所有者や管理者、関係地域住民との連携が重要となるため、行政を含めた市内関係者、関係団体による推進体制の構築を進める。

行政内では生涯学習課を事務局とし、関係各課と連絡、調整を図りながら取組を進め、国や県の関係機関とも協議、相談を行い適切な指導、支援を得る。

表 35 文化財保存・活用の推進体制（村上市）

行政（市）		
教育委員会	生涯学習課	文化行政推進室（職員 8 人、うち専門職採用 5 人） 文化財の指定、保存、調査、管理 埋蔵文化財の発掘調査、保護 日本遺産の保存、活用 文化・芸術の振興 社会教育推進室 行政出前講座の開催、公民館歴史講座の開催
	※村上市郷土資料館、 若林家住宅、記念公園武 家住宅、旧成田家住宅、 村上歴史文化館、縄文の 里・朝日は指定管理施設	村上市郷土資料館 郷土資料の展示、収集、整理、保管、調査研究 若林家住宅、記念公園武家住宅、旧成田家住宅 重要文化財若林家住宅、市指定文化財武家住宅の公開 村上歴史文化館 民俗資料・歴史資料の展示、保管 縄文の里・朝日 埋蔵文化財の保存、調査、管理 教育情報センター 図書館業務（郷土資料の収集、整理、保管）
	学校教育課	地域と協働する郷育（さといく）の推進
総務課	危機管理室	地域防災計画の実施
企画戦略課	企画政策室	市基本的施策の企画、調整 市報むらかみの編集発行、ホームページの運営管理
市民課	自治振興室	市民協働のまちづくり、まちづくり協議会
都市計画課	都市政策室	都市計画法に基づく施策の推進 歴史まちづくり法に基づく施策の推進
観光課	観光交流室	観光振興・交流施策の推進
農林水産課	林業水産振興室	農林水産業振興施策の推進 イヨボヤ会館（指定管理施設）の管理

表 36 文化財保存・活用の推進にかかる関係機関、関係団体

行政（県）
<p>新潟県観光文化スポーツ部文化課</p> <p>文化資源活用推進係、文化政策係、埋蔵文化財係、世界遺産室、</p> <p>新潟県立歴史博物館、新潟県立近代美術館、新潟県立万代島美術館、新潟県立自然科学館</p> <p>新潟県教育庁生涯学習推進課</p> <p>新潟県立文書館、新潟県立図書館</p> <p>新潟県埋蔵文化財調査事業団</p>
専門機関
<p>[県] 新潟県文化財保護指導委員</p> <p>新潟県歴史資料保存活用連絡協議会</p> <p>[大学・研究機関]</p> <p>新潟大学、長岡造形大学ほか</p> <p>[市] 村上市文化財保護審議会</p> <p>村上市歴史的風致維持向上協議会</p> <p>村上市伝統的建造物群保存地区保存活用審議会</p> <p>村上祭保存修理委員会</p> <p>平林城跡整備委員会、村上城跡整備委員会、山元遺跡発掘調査指導委員会</p> <p>[その他]</p> <p>新潟県歴史資料救済ネットワーク</p>
市民・団体
<p>[文化財所有者・管理者]</p> <p>指定等文化財所有者・管理者、未指定文化財所有者・管理者、関係地域住民</p> <p>[文化財保存団体]</p> <p>無形民俗文化財関係団体</p> <p>山北ボタモチ祭り保存会、大須戸能保存会、村上まつり保存会、岩船まつり保存会、鍛冶町伝統芸能保存会、金屋獅子踊り保存会、大津獅子保存会、上・下鍛冶屋獅子踊り保存会、名割獅子踊り保存会、佐々木神楽舞保存会、鳥屋神楽保存会、川部伝統芸能保存会、大場沢獅子舞保存会、府屋獅子舞保存会、牛屋獅子舞保存会、福田獅子踊り保存会</p> <p>遺跡関係団体</p> <p>平林城跡保存会、村上城跡保存育英会、山元遺跡保存会、大葉沢城跡保存会</p> <p>[まちづくり団体]</p> <p>むらかみ町屋再生プロジェクト、越後村上古建築研究会、村上町屋商人会、チーム黒堀プロジェクト、塩谷活性化推進協議会、瀬波北前船研究会</p> <p>[研究団体]</p> <p>村上歴史研究会、村上史楽会、いわふね自然愛好会</p> <p>[その他]</p> <p>イヨボヤの里開発公社、村上市観光協会、村上市観光ガイド会、村上商工会議所</p>

2 推進体制の課題と今後の取組

文化財の保存・活用にあたり、現状では市、市民・団体、専門機関、県の連携が不十分で、文化財を保存・活用するための推進体制が整備されていない。また、市や市民・団体の中で文化財の保存・活用に関わる人材も不足している。

本市には国指定の遺跡が3か所、県指定の遺跡が2か所あり、これらについては個別の保存活用計画や整備計画をもとに調査・研究・整備を進めていく必要があるが、現状ではそれらを実施する体制が十分に整っていない。また、本市に多く存在する歴史資料や無形の民俗文化財などの調査・研究を進める体制も十分ではなく、文化財の保存・活用に関わる市の専門職員育成、市民・団体の人材育成が必要である。

今後は、本市行政内部での推進体制整備とともに、市が市民・団体と連携して文化財の保存・活用に関わる人材（現地案内・解説を行うガイド、文化財の修理技術を有する職人など）を確保・育成する取組として村上市観光ガイド会の研修会、文化財保存団体による文化財修理技術の研修会、歴史研究団体による研修会、市内学校での歴史講座などを実施する。また、各種取組にあたっては村上市文化財保護審議会ほか専門機関、県からも助言・支援を受け、文化財の保存・活用の取組を推進する。

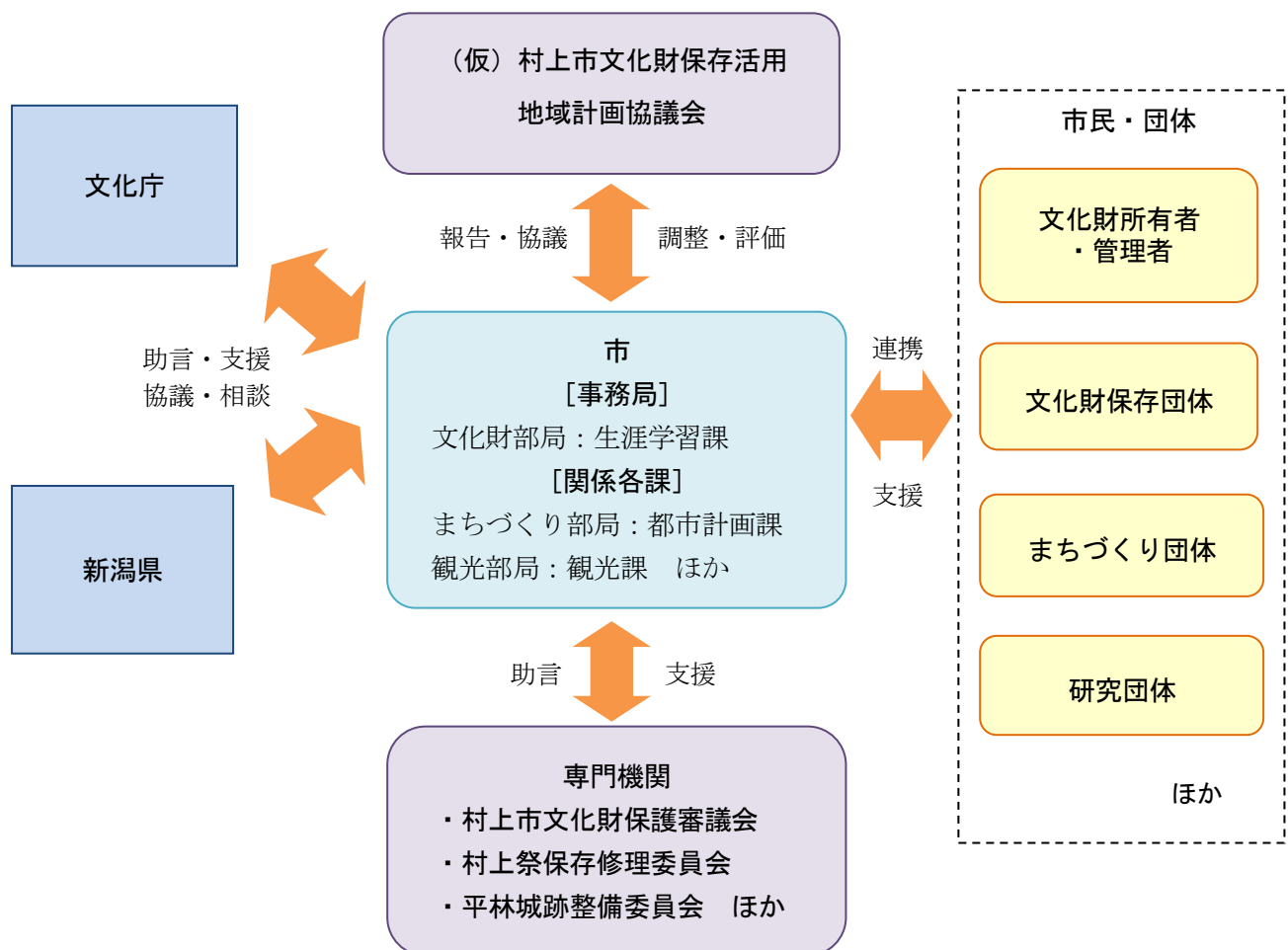


図 19 文化財保存・活用の推進体制

村上市文化財保存活用地域計画

発行 令和7年（2025）11月

編集 村上市教育委員会 生涯学習課

〒958-0854 新潟県村上市田端町4番25号

TEL 0254-53-7511 FAX 0254-52-4133